

平成 30 年度  
新潟県立看護大学  
自己点検評価報告書

－専任教員の活動業績－  
－各種委員会等の活動報告－

平成31年3月



新潟県立看護大学  
Niigata College of Nursing



# 専任教員の活動業績

# 1 研究、社会及び学内教育活動業績

## (1) 制作要件

「研究活動」と「社会活動」及び「学内教育活動」について、平成30年4月から平成31年3月までの12ヶ月間の期間について、本学の在職各教員から申告のあった国内外における活動(業績)の一覧である。

ア 30年12月末日までに退職ないし転職している教員のものは含まない。

イ 原則として、各教員から提出されたものを修正せず掲載する。

ウ 掲載の順番は領域順・科目群順とし、個人は平成31年3月現在の職位順ついで採用順に掲載する。

エ 掲載に際して職位名等を入れず、氏名のみの表示とする。

オ 平成30年4月以降12月までに着任した専任教員の業績についても、ウに従って掲載する。

<p>(2) 活動業績掲載順</p> <p><b>【共通科目】</b></p> <p><b>I 人間環境科学領域</b></p> <p>社会科学 藤田 尚…………… 1 渡辺 弘之…………… 3 徐 淑子…………… 4</p> <p>情報科学 橋本 明浩…………… 6 中村 義実…………… 7 永吉 雅人…………… 8 エルダトン・サイモン… 11</p> <p><b>II 自然科学領域</b></p> <p>生物・医学 境原 三津夫…………… 13</p> <p><b>【専門科目】</b></p> <p><b>III 基礎看護学領域</b></p> <p>看護教育学 舟島 なをみ…………… 15 看護管理学 岩永 喜久子…………… 18 基礎看護学 水口 陽子…………… 20 岡村 典子…………… 21 川島 良子…………… 23 谷内田 潤子…………… 24 山岸 美奈子…………… 25</p> <p><b>IV 臨床看護学領域</b></p> <p>成人看護学 石田 和子…………… 26 高柳 智子…………… 29 酒井 禎子…………… 31 山田 正実…………… 33 樺澤 三奈子…………… 35 小林 綾子…………… 37 石原 千晶…………… 38 石岡 幸恵…………… 40 相澤 達也…………… 41 坂田 智佳子…………… 43</p>	<p><b>小児看護学</b> 大久保 明子…………… 44 北村 千章…………… 46 野澤 祥子…………… 49 室 亜衣…………… 50</p> <p><b>母性・助産看護学</b> 中島 通子…………… 51 西田 絵美…………… 53 阿部 正子…………… 54 天谷 まり子…………… 56 中澤 紀代子…………… 57 高塚 麻由…………… 58 上田 恵…………… 59</p> <p><b>V 地域生活看護学領域</b></p> <p>老年看護学 小野 幸子…………… 60 原 等子…………… 63 河原畑 尚美…………… 67 小池 潤…………… 69 大口 洋子…………… 70 大倉 由貴…………… 72 東條 紀子…………… 74</p> <p><b>精神看護学</b> 長谷川 雅美…………… 76 田口 玲子…………… 78 後田 穰…………… 80 安達 寛人…………… 82 伊藤 ひかる…………… 84</p> <p><b>地域看護学</b> 平澤 則子…………… 85 飯吉 令枝…………… 87 高林 知佳子…………… 89 川野 英子…………… 91 井上 智代…………… 93 野口 裕子…………… 95 久保野 裕子…………… 97</p> <p><b>【学 長】</b></p> <p>小泉 美佐子…………… 99</p>
---	--

藤田 尚

1. 原著論文(4件)

- 1) Fujita, H., Oguma, M., Eguchi, K., Fujisawa, S. et al.(2018.5), The frequency of conical incisors in the Edo period of Japan, *Asian Journal of Paleopathology*, 2, pp31 - 34(査読有)
- 2) Fujisawa, S., Oyabu, Y., Fujita, H.(2018.5), Early modern human bones indicate features of DISH, *Asian Journal of Paleopathology*, 2, pp27 - 30(査読有)
- 3) Shin, DH., Bianucci, R., Fujita, H. et al.(2018.8), Mummification in Korea and China: Mawangdui, Song, Ming and Joseon Dynasty Mummies, *Biomed Resarch International* DOI: <https://doi.org/10.1155/2018/6215025>, pp(査読有)
- 4) Dong Hoon Shin, Raffaella Bianucci, Robert D. Loynes, Hisashi Fujita, Myeung Ju Kim(2018.9), Current Trends in Studies of Ancient Diseases, *Biomed Reserch International*, pp1 - 2(査読有)

2. その他論文(1件)

- 1) 藤田尚(2019.1): 古人骨におけるストレスマーカー評価の問題点, *月刊考古学ジャーナル*, 722, pp37 - 43(査読無)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(4件)

- 1) Fujita, H., Nomura, K., Fujisawa, S., Oyabu, Y., Adachi, H.(2018.9): The reconstruction of health status from the excavated skulls in Abydos site, ancient Egypt., 21th Congress of the Indo-Pacific Prehistory Association(Vietnam)
- 2) Oba, A., Fujita, H.(2018.9): Regional differences in the frequency of Cribra Orbitalia during the Jomon period in Japan-From the viewpoint of their average-21th Congress of the Indo-Pacific Prehistory Association(Vietnam)
- 3) Fujita, H.(2018.10): Caries and Periodontal diseases: which occurred first human evolution? (th Asia Pacific International Congress of Anatomists(Busan))
- 4) 藤田尚、辻村純代、杉森裕樹(2018.10): Artificial skull trepanation found in ancient Egyptians of QAU skeletal series, 日本人類学会大会(静岡県三島市国立遺伝学研究所)

5. その他の研究活動(2件)

- 1) 藤田尚、徳永勝士、針原伸二他: 東京大学附属中等教育学校双生児検査研究, 平成 30 年東京大学附属中等教育学校研究
- 2) 藤田尚、大淵修一、平野浩彦: 板橋区高齢者長期縦断疫学調査(お達者検診), 平成 30 年東京都健康長寿医療センター研究

【学会等における活動】

- ・日本古病理学研究会

- ・日本公衆衛生学会
- ・日本老年歯科医学会
- ・日本応用老年学会
- ・日本老年社会科学会
- ・日本人類学会
- ・日本解剖学会
- ・日本旧石器学会
- ・日本考古学協会
- ・早稲田大学考古学会
- ・The 21th Congress of the Indo-Pacific Prehistoriy Association, Session S34
- ・第3回日本古病理学研究会大会

#### 【社会活動】

- ・月刊 nico 2019年1月号「歴史発掘!!デンタルヒストリエ第1回むし歯 vs 歯周病、最古のお口の病気はどっち？」
- ・月刊 nico 2019年2月号「歴史発掘!!デンタルヒストリエ第2世界中の古代人を悩ませた歯周病」
- ・月刊 nico 2019年3月号「歴史発掘!!デンタルヒストリエ第3回現代の高齢者のむし歯は古代型のむし歯?!」

#### 【学内教育活動】

学 部： 自然人類学,基礎ゼミナール,ふれあい実習,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ  
 博士前期課程：人類学特論  
 博士後期課程：なし

#### 【学内委員会等の活動】

倫理委員会委員,図書委員会副委員長,情報ネットワーク特別部会委員,情報ネットワーク委員会委員

#### 【外部資金獲得】

- 1) 藤田 尚(研究代表者)  
 岡本珠織(2018～2019)：古代人における疾患の解明と看護・介護の復元，科学研究費助成事業（挑戦的研究萌芽）
- 2) 岡本珠織(研究代表者)  
 藤田尚、他(2015～2019)：発掘人骨の古病理学的ストレスマーカーに見える性別役割，科学研究費助成事業(基盤研究 C)
- 3) 高橋龍三郎(研究代表者)  
 藤田 尚、太田博樹、米田穰(2018～2021)：縄文時代の氏族性社会お成立に関する考古学と集団遺伝学の共同研究，科学研究費助成事業(基盤研究 A)

渡辺 弘之

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(なし)

3. 著書(1件)

1) 渡辺弘之(2018.10): ベトナムに生きるハンセン病の人々と自立への支援, 明石書店(東京)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(なし)

**【学会等における活動】**

なし

**【社会活動】**

・じょうえつ外国人医療支援プロジェクト (上越市国際交流協会)

**【学内教育活動】**

学 部: 基礎ゼミナール, 社会学, 社会福祉概論, ふれあい実習, 地域社会と住民組織, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程: 老年看護学特論Ⅰ

博士後期課程: なし

**【学内委員会等の活動】**

国際交流委員会委員長, 教務委員会委員, 研究科委員会委員, 法人ワーキング委員, 教育研究審議会委員

手話サークル、バンドサークル、ほしみサークル、アウトドアサークル、フットサルサークルサークル顧問

**【外部資金獲得】**

1) 渡辺弘之(研究代表者) (2016~2018): ベトナムのハンセン病村に住む子どもたちの自立支援と社会的統合, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

2) 渡辺弘之(研究代表者) (2018~2018): ベトナムに生きるハンセン病の人々と自立への支援, 科学研究費助成事業 (研究成果公開促進費)

徐 淑子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(4件)

- 1) SUH,Sookja, IKEDA,Mitsuho(2018.11),: How has the Concept of Harm Reduction been introduced and interpreted in Japan?, The 20th Annual Meeting of International Society of Addiction Medicine(BEXCO Busan, South Korea)
- 2) 徐淑子(2018.9): 大麻規制緩和時代の「ダメ。ゼッタイ。」とキャンパス・ヘルス, シンポジウム1「医療やケアのグローバル化に伴うコミュニケーションの問題をあぶり出す」, 第10回日本ヘルスコミュニケーション学会(九州大学馬出キャンパス)
- 3) IKEDA,Mitsuho, SUH,Sookja(2018.12): Introducing and Interpreting of Concepts of Harm Reduction in modern Japan, The 3rd Interinstitutional academic meeting in Toyonaka Campus Osaka University2018(Toyonaka, Osaka)
- 4) 徐淑子(2019.3): ハームリダクション: オランダにおける薬物問題と薬物使用者への社会的ケア, シーボルト会(オランダ)

5. その他の研究活動(なし)

#### 【学会等における活動】

- ・日本保険医療行動科学会
- ・日本エイズ学会
- ・日本健康教育学会
- ・日本保健医療社会学会
- ・日本アルコール関連問題学会
- ・日本ヘルスコミュニケーション学会
- ・International Sociological Association RC49
- ・The 20th Annual Meeting of International Society of Addiction Medicine
- ・The 20th Annual Meeting of International Society of Addiction Medicine・シンポジウム16:Creative and Spontaneous: The Peer-Driven Social Care in East Asia

#### 【社会活動】

- ・東京女子医科大学大学院看護学研究科 非常勤講師
- ・北里保健衛生専門学院 非常勤講師
- ・桐生大学保健医療学部 非常勤講師
- ・JICA/ATA-net合同企画「日本の薬物政策の現状と課題～公と私の連携は可能か?～」

講師 平成30年7月5日

- ・平成30年度香川県地域自殺対策強化事業・香川ダルクフォーラム「回復にかかせないもの」講師 平成30年12月1日
- ・特定非営利活動法人ふれいす東京
- ・特定非営利活動法人新潟マック
- ・女性とアディクション研究会・発起人代表
- ・寄稿・女性と依存症，香川ダルク女性ハウス編・発行『依存症に悩む女性の方へ』
- ・SWASH翻訳ボランティア

#### 【学内教育活動】

学 部：基礎ゼミナール,保健・医療行動科学,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：健康社会学

博士後期課程：なし

#### 【学内委員会等の活動】

FD委員会委員,研究推進委員会委員,入学委員会委員

学内助成研究成果発表会（研究推進委員会）,FD委員会主催 研修会（FD委員会）

#### 【外部資金獲得】

1) 徐淑子(研究代表者)

池田光穂(2018～2020): ハーム・リダクションと薬物依存者への社会的ケア:東アジアへの影響、移入、展開, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

2) 石塚伸一(研究代表者)

指宿信、丸山泰弘、中村正、藤岡純子、後藤弘子(2016～2019): 科学技術振興機構「安全な暮らしをつくる新しい公／私領域の構築」研究開発領域・研究開発プロジェクト「多様化する嗜癖・嗜虐行動からの回復を支援するネットワークの構築」, RISTEX社会技術研究開発センター研究推進事業

橋本 明浩

1. 原著論文(1件)

1) Fukui, Ryuta, Masataka Nakano, and Hashimoto Akihiro (2019.3)

Ways to Integrate English Foreign Language Education and Statistics Education: A Preliminary Report on Making Learning Videos for Graduate Students of Health Sciences" TEFL & Applied Linguistics 2019,1,pp39 - 47(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：ふれあい実習,情報処理演習,情報科学,保健統計演習,基礎ゼミ

博士前期課程：看護情報統計

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

情報ネットワーク委員長,情報ネットワーク実行部会副委員長,図書委員長,自己点検委員,  
運営評議会委員

看護研究交流センター講習会

【外部資金獲得】

なし

中村 義実

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・異文化コミュニケーション学会
- ・異文化間コミュニケーション学会
- ・大学英語教育学会
- ・全国英語教育学会

【社会活動】

- ・じょうえつ外国人医療支援プロジェクト
- ・敬和学園大学非常勤講師
- ・埼玉大学教養学部寄附講座講師

【学内教育活動】

学 部：英語ライティングⅠ・Ⅱ,英語リーディングⅠ・Ⅱ,英語ライティングⅢ・Ⅳ,英語  
リーディングⅣ,基礎ゼミナール,専門ゼミナールⅠ・Ⅱ,ふれあい実習

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

入試・広報委員会委員長,教務委員会委員,入学委員会委員,研究科委員会委員,法人ワーキング委員

SD研修会講師,ふれあい実習コーディネーター

【外部資金獲得】

なし

永吉 雅人

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 中村幸恵, 野村栞, 永吉雅人(2018.12): スタッフナースの勤務表に対する認識を調べてみました, 看護管理 28(12),pp1102 - 1105(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(5件)

- 1) 永吉雅人(2018.9): エージェントと共創的な相互作用のモデル化を目指した機械学習技術における現状の課題と今後の展開, 平成 30 年電気学会電子・情報・システム部門大会(札幌)
- 2) 永吉雅人, 玉置久(2018.9): 強化学習における「認知の歪み」を利用した役割分化の促進: 追跡問題における一検討, 第 28 回インテリジェント・システム・シンポジウム (FAN2018) (横浜)
- 3) 永吉雅人, 玉置久(2018.11): 強化学習における「認知の歪み」を利用した役割分化の促進, 計測自動制御学会 システム・情報部門 学術講演会(SSI2018)(富山)
- 4) 永吉雅人, 玉置久(2018.12): 強化学習における「認知の歪み」を利用した役割分化の促進: 追跡問題への適用, 電気学会システム・制御合同研究会(名古屋)
- 5) Chiaki Kitamura, Simon J.H. Elderton, Masato Nagayoshi, Satoko Nakagomi, Yuka Kondo, Akiko Shiozaki, Masahiko Noguchi, Satoshi Yasukochi(2018.7), Exploring Support Needs of Individuals and Families Affected by 22q11.2DS in Japan, The 11th Biennial International 22q11.2 Conference(Whistler, Canada)

5. その他の研究活動(3件)

- 1) 西田絵美, 中島通子, 天谷まり子, 永吉雅人, 母性看護学における反転授業の教材作成—自己教育力育成をめざした授業改革—, 平成 29 年度新潟県立看護大学学内共同研究助成
- 2) 安達寛人, 永吉雅人, 岡村典子, 医療観察法病棟における勤務計画表作成に関する実態調査, 平成 29 年度新潟県立看護大学学内共同研究助成
- 3) 大庭重治, 境原三津夫, その他 22 名, 健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの学級担任を支援するための「地域連携コモンズ」形成の試み, 平成 30 年度上越教育大学研究プロジェクト

【学会等における活動】

- ・電気学会 論文委員会 (C2 グループ)
- ・電気学会 電子・情報・システム部門 編修委員会
- ・システム制御情報学会

- ・計測自動制御学会
- ・電気学会
- ・日本遺伝看護学会
- ・室内環境学会
- ・日本公衆衛生学会
- ・日本精神保健看護学会
- ・システム制御情報学会 奨励賞選考委員
- ・システム制御情報学会 学術講演会(SCI' 18) 実行委員会
- ・平成 31 年電気学会全国大会 5 グループ論文委員会
- ・計測自動制御学会 第 46 回知能システムシンポジウム 特別講演

### 【社会活動】

- ・どこでもカレッジ公開講座「わかりやすいプレゼンテーションのやりかた」講師
- ・特集「子どもの化学物質過敏症」, となりのテレ金ちゃん, 2018.8.2, テレビ金沢
- ・テレメンタリー2018「カナリアたちの叫び」, 2018.10.7 から, テレビ朝日系列局
- ・杉浦陽子(編集長): 特集 学校に通いたい子どもの香害, 消費者レポート, No.1613, pp.3-5, 2018.9.20 発行
- ・岡田幹治: 「香害」最前線, 週刊金曜日, No.1189, pp.44-47, 2018.6.22 発行
- ・特集「子どもの化学物質過敏症 理解してもらえないつらさ」, となりのテレ金ちゃん, 2019.3.4, テレビ金沢
- ・NPO 法人 関川水辺クラブ
- ・NPO 法人 新潟県難病相談支援センター
- ・産後の母親の精神状態とその背景の実態調査～エジンバラ産後うつ病質問票を用いて～
- ・電気学会電子・情報・システム部門大会 TC16 機械学習技術における現状の課題と応用研究の最前線 オーガナイザ・座長
- ・第 28 回インテリジェント・システム・シンポジウム OS 4 機械学習技術に関する最新動向 オーガナイザ
- ・計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2018 SS15 システム・シミュレーションと最適化手法 オーガナイザ
- ・電気学会 電子・情報・システム部門 システム技術委員会 実社会システムの高度な AI 化を目指した機械学習技術応用協同研究委員会 委員
- ・計測自動制御学会第 46 回知能システムシンポジウム A-2 学習・エージェント (2) 司会

### 【学内教育活動】

学 部：情報処理演習,情報科学,疫学,ふれあい実習,基礎ゼミナール,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ,保健統計演習,ボランティア活動

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

**【学内委員会等の活動】**

情報ネットワーク実行部会委員長,情報ネットワーク特別委員会副委員長,学生委員会副委員長,実習中の学生の安否確認報告に関する検討WG委員  
学年担任,水研究,ソフトテニス,バスケットボールサークル顧問

**【外部資金獲得】**

なし

エルダトン サイモン

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(2件)

- 1) Chiaki Kitamura and Simon Elderton(2018.12): A Theoretical Framework for 22q11.2DS Patients, Impact, December, 2018, pp39 - 41(査読無)
- 2) 石原千晶、Elderton Simon, 境原三津夫(2018.4): わが国における性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターの現状と今後ー性暴力被害者支援看護職の活用に向けてー, 日本セーフティプロモーション学会誌, 11(1), pp31 - 36(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(2件)

- 1) Chiaki Kitamura, Simon J.H. Elderton, Masato Nagayoshi, Satoko Nakagomi, Yuka Kondo, Akiko Shiozaki, Masahiko Noguchi, Satoshi Yasukochi(2018.7), Exploring Support Needs of Individuals and Families Affected by 22q11.2DS in Japan, The 11th Biennial International 22q11.2 Conference(Whistler, Canada)
- 2) 北村千章, Elderton Simon, 室垂衣, 市川佳奈, 桐生徹(2019.1): 22q11.2 欠失症候群の子どもが望む就学支援 -就学ガイド作成の取り組み-, 臨床教科教育学会第17回臨床教科教育学セミナー(東京)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- The Japan Association of Language Teachers
- College and University Education SIG
- Pragmatics SIG
- 日本遺伝看護学会
- 日本比較文化学会
- 22q11.2 Society
- Conversation Analysis Network Kanto
- 第23回日本難病看護学会学術集会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：英語コミュニケーションⅠA, 英語コミュニケーションⅠB, 英語コミュニケーションⅡA, 英語コミュニケーションⅡB, 英語コミュニケーションⅢ, 英語コミュニ

ケーションⅣ,英語リーディングⅢ,基礎ゼミナール4,ふれあい実習,ボランティア活動

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

**【学内委員会等の活動】**

国際交流委員会委員,学生委員会委員,入試・広報委員会委員

バレーボールサークル,吹奏楽団サークルサークル顧問,ニュージーランドからのゲストスピーカー講演会のコーディネーター

**【外部資金獲得】**

1) 境原三津夫(研究代表者)

エルダトン サイモン(2018～2020): 小児病院におけるファシリテッドッグ導入促進のために—細菌学的視点からみた安全性—, 科学研究費助成事業(基盤研究 C)

2) ブラウン アイヴァン(研究代表者)

CARROLL DONALD、エルダトン サイモン(2018～2020): Developing authentic teaching materials and activities for English conversation, based on the analysis of an expanding corpus of English spoken as a lingua franca between Japanese and cultural others, 科学研究費助成事業(基盤研究 C).

境原 三津夫

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(2件)

- 1) 石原千晶, Simon Elderton, 境原三津夫(2018.4): わが国における性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターの現状と今後一性暴力被害者支援看護職の活用に向けて一, 日本セーフティプロモーション学会誌, 11(1),pp31 - 36(査読有)
- 2) 塩谷幸祐, 田口玲子, 安達寛人, 境原三津夫(2019.3): A 県の指定通院医療機関における多職種チームの実態と課題, 新潟看護ケア研究学会誌, 5,pp16 - 21(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(3件)

- 1) 塩谷孝祐, 田口玲子, 安達寛人, 境原三津夫(2018.6): 医療観察法入院処遇対象者の通院処遇への移行を促進するために一A県の指定通院医療機関における調査から一, 第14回日本司法精神医学会(山口市)
- 2) 塩谷孝祐, 田口玲子, 安達寛人, 境原三津夫(2018.10): A 県の指定通院医療機関における多職種チームの実態と課題, 第10回新潟看護ケア研究学会(新潟市)
- 3) 柴田牧, 加城貴美子, 境原三津夫(2018.10): 1歳6か月児をもつ母親における卒乳・断乳の実態, 第59回日本母性衛生学会(新潟市)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本セーフティプロモーション学会 理事
- ・新潟県看護ケア研究学会 査読委員

【社会活動】

- ・県北医療センター高萩協同病院・非常勤医師
- ・医療法人光病院・非常勤医師
- ・上越医師会健診センター・非常勤医師
- ・社会福祉法人みどり社会福祉協会・評議員

【学内教育活動】

学 部：臨床病態学Ⅰ,臨床病態学Ⅱ,人間社会と倫理,母性看護学Ⅱ,ふれあい実習,助産学Ⅰ,基礎ゼミナール

博士前期課程：病態生理学,フィジカルアセスメント,がん看護学特論Ⅲ

博士後期課程：なし

**【学内委員会等の活動】**

衛生委員会委員,情報ネットワーク特別委員会委員,自己点検・評価委員会委員,外部評価特別委員会委員

学校医,バドミントンサークルサークル顧問

**【外部資金獲得】**

1) 境原三津夫(研究代表者)

エルダトン・サイモン(2018～2020):小児病院におけるファシリテイドッグ導入促進のために—細菌学的視点からみた安全性—,科学研究費助成事業(基盤研究 C)

2) 中澤紀代子(研究代表者)

境原三津夫他(2017～2020):助産師基礎教育から臨床への連動を意識した分娩後出血に関する教育プログラムの開発,科学研究費助成事業(基盤研究 C)

1. 原著論文(6件)

- 1) 上國料美香, 舟島なをみ(2019.2): 看護師長が講じている医療事故防止対策, 千葉看護学会会誌, 24(2),pp85 - 93(査読有)
- 2) 鹿島嘉佐音, 舟島なをみ, 中山登志子(2019.3): 「職場の『働きやすさ』評価尺度－病院スタッフ看護師用－」の開発, 看護教育学研究, 28(1),pp31 - 44(査読有)
- 3) 飛世真理子, 舟島なをみ, 中山登志子(2019.3): 実習指導者の経験に関する研究－病院に就業する実習指導者に焦点を当てて, 看護教育学研究, 28(1),pp17 - 30(査読有)
- 4) 永野光子, 舟島なをみ(2019.3): 「看護師としての倫理的行動自己評価尺度」の開発－病院に勤務する看護師の倫理的行動の質向上に向けて, 看護教育学研究, 28(1),pp45 - 56(査読有)
- 5) 伊勢根尚美, 舟島なをみ(2019.3): 実習指導者が看護学実習中の学生による医療事故防止に向けて講じている対策, 看護教育学研究, 28(1),pp57 - 70(査読有)
- 6) 泉澤清枝, 中山登志子, 舟島なをみ(2019.3): 学生が看護学実習指導の良否を決定づける基準の解明－病院に就業し実習指導に携わる看護師に着眼して, 看護教育学研究, 28(1),pp1 - 16(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(1件)

- 1) 舟島なをみ(2018.9): 看護教育学研究 発見・創造・証明の過程 第3版－実践・教育の質向上を目指す研究の方法論, 医学書院(東京)

4. 学会発表(14件)

- 1) Kashima,K., Funashima,N., Nakayama,T.(2018.7), Characteristics of Hospital Personnel Who are Difficult to Work With. STTI's 29th International Nursing Research Congress(Melbourne,Australia)
- 2) 山品晴美, 舟島なをみ(2018.8): 新人看護師による医療事故防止に向けたプリセプターの対策と実践, 第49回日本看護学会－看護教育－学術集会(広島)
- 3) 金谷悦子, 舟島なをみ, 山下暢子(2018.8): 研究に携わる看護職者の研究倫理行動の質の現状, 第49回日本看護学会－看護教育－学術集会(広島)
- 4) 中山登志子, 舟島なをみ(2018.8): 実習指導者の問題自己診断尺度の開発, 第44回日本看護研究学会学術集会(熊本)
- 5) 鹿島嘉佐音, 舟島なをみ, 中山登志子(2018.8): 職場の「働きやすさ」評価尺度の開発と有効性の検証－病院に就業するスタッフ看護師にとっての働きやすい職場づくりに向けて, 日本看護教育学会第28回学術集会(前橋)
- 6) 飛世真理子, 舟島なをみ, 中山登志子(2018.8): 実習指導者の経験の概念化－病院に就業する実習指導者に焦点を当てて, 日本看護教育学会第28回学術集会(前橋)
- 7) 泉澤清枝, 舟島なをみ, 中山登志子(2018.8): 看護学実習指導の良否を学生が決定づけ

る基準－病院に就業し実習指導に携わる看護師に着眼して、日本看護教育学学会第28回学術集会(前橋)

- 8) 服部美香, 舟島なをみ(2018.8): 「問題診断尺度－スタッフ看護師用－」の開発, 日本看護教育学学会第28回学術集会(前橋)
- 9) 山品晴美, 舟島なをみ, 中山登志子(2018.8): 「実習安全のための学生指導自己評価尺度－実習指導者用－」の開発, 日本看護学教育学会第28回学術集会(横浜)
- 10) 亀岡智美, 舟島なをみ(2018.12): 病院に就業する看護師の研究成果活用への学習意欲とそれに関係する特性, 第38回日本看護科学学会学術集会(松山)
- 11) 永野光子, 舟島なをみ(2018.12): 病院に勤務する看護師の倫理的行動の質に関する特性, 第38回日本看護科学学会学術集会(松山)
- 12) 上國料美香, 舟島なをみ(2018.12): 病棟看護師の患者教育を展開する能力に関する研究－問題直面経験有無との関係に焦点を当てて、第38回日本看護科学学会学術集会(松山)
- 13) 山下暢子, 舟島なをみ, 中山登志子(2018.12): 看護学実習中の学生が直面している問題の現状－学生の学習進度による比較、第38回日本看護科学学会学術集会(松山)
- 14) 横山京子, 舟島なをみ, 中山登志子, 山下暢子(2018.12): 小児看護に携わる看護師が知覚する看護師としての望ましい行動, 第38回日本看護科学学会学術集会(松山)

#### 5. その他の研究活動(なし)

##### 【学会等における活動】

- ・日本看護教育学学会 相談役
- ・聖路加看護学会 評議員
- ・千葉看護学会 評議員
- ・日本看護科学学会
- ・日本看護研究学会
- ・日本看護学教育学会
- ・日本教育学会
- ・文化看護学会
- ・看護管理学会
- ・Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing
- ・King International Nursing Group

##### 【社会活動】

- ・新潟県看護教員養成講習会運営委員会委員
- ・新潟労災病院看護部教育研修「看護職者として生涯学び続けるために」講師
- ・テルモ株式会社「インジェクショントレーナーの役割と責任②」講師
- ・認定看護管理者会関東甲信越ブロック研修会「研究成果に基づく院内教育の評価」講師
- ・放送大学長野学習センター公開講演会「看護職者として生涯学び続けるために」講師
- ・島根県立大学大学院博士後期課程開設キックオフセレモニー特別講演「看護職、その発

達の軌跡－学位取得の意義の確認」講師

- ・ 横浜鶴ヶ峰病院看護部相談役
- ・ 哈爾濱医科大学護理学院客員教授
- ・ 島根県立大学客員教授
- ・ 医学書院雑誌『看護研究』編集協力者

#### 【学内教育活動】

学 部：総合科目

博士前期課程：看護教育学,看護理論,看護学研究法,基礎看護学特論,基礎看護学特別演習,  
基礎看護学援助論 I

博士後期課程：看護学研究法 I

#### 【学内委員会等の活動】

研究推進委員会委員長,教学委員会委員,入学委員会委員,自己点検評価特別委員会委員,図書委員会委員

#### 【外部資金獲得】

1) 舟島なをみ(研究代表者)

中山登志子,山品晴美,鹿島嘉佐音,手島恵,森山美香(2015～2018):医療事故防止のための「看護職包括型患者安全教育推進システム」の開発,科学研究費助成事業(基盤研究 B)

2) 舟島なをみ(研究代表者)

中山登志子,鹿島嘉佐音,山下暢子,服部美香,小澤弘明,白川優治(2018～2020):問題診断克服型 FD モデルの開発－教員の研究指導能力向上を目指して,科学研究費助成事業(挑戦的研究萌芽)

3) 亀岡智美(研究代表者)

舟島なをみ,山澄直美,中山登志子,上國料美香(2015～2018):看護師の研究成果活用方向向上を支援する問題克服型教育プログラム開発－EBNの推進,科学研究費助成事業(基盤研究 B)

岩永 喜久子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 伊藤歩美、岩永喜久子、中村美香(2018.12)：学部教育で統合実習を経験して入職した入職 3 か月期の新人看護師の臨床における意識，日本看護研究学会雑誌，41(5),pp945 - 957(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(2件)

- 1) 岩永喜久子(2018.12)：訪問看護を受ける利用者の自由記述内容の分析，第38回日本看護科学学会学術集会(松山市)
- 2) 柳澤淳子、岩永喜久子(2018.8)：訪問看護ステーション看護職による看護ケアの自己評価－A・B県における自己評価の実態調査－，第44回日本看護研究学会学術集会(熊本市)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会 代議員
- ・日本看護技術学会 評議員
- ・日本看護研究学会
- ・日本看護管理学会
- ・日本看護教育学会
- ・北関東医学会
- ・日本看護医療学会
- ・第23回日本難病看護学会学術集会

【社会活動】

- ・平成30年度新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会「第1回教育方法（成人教育）」講師
- ・平成30年度新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会「第2回教育方法（成人教育）」講師
- ・平成30年度新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会「第3回教育方法（成人教育）」講師
- ・平成30年度新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会「第4回教育方法（成人教育）」講師
- ・平成30年度長野赤十字病院研修会「看護と倫理」講師

- ・ A 県に UI ターンした看護職員の仕事と生活における支援ニーズ
- ・ 平成 29 年度地域課題研究発表会発表；施設に所属する看護職の社会人基礎力に関する研究

#### 【学内教育活動】

学 部：人間社会と倫理,国際看護論,看護管理,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：看護学研究法,看護管理学特論,看護管理学援助論Ⅰ,看護管理学援助論Ⅱ,看護管理学特別演習,看護学領域別特別研究

博士後期課程：なし

#### 【学内委員会等の活動】

入学委員会委員長,教学委員会委員,紀要委員会委員,基礎・臨床看護系委員長  
エジプト看護管理研修学内講師

#### 【外部資金獲得】

1) 岩永喜久子(研究代表者)

なし(2017～2020)：チーム医療における高度実践看護師が担う看護専門外来システムの開発に関する研究，科学研究費助成事業(基盤研究 C)。

水口 陽子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会 会員
- ・ナイチンゲール看護学会 会員
- ・第23回日本難病看護学会学術集会 実行委員
- ・平成30年度新潟県看護協会看護学会 論文指導者

【社会活動】

- ・高等教育コンソーシアムにいがた看護系大学タスクフォース部会委員
- ・平成30年度医療・健康福祉市民フォーラム実行委員
- ・A県内にUIターンした看護職員の仕事と生活における支援ニーズ

【学内教育活動】

学 部：看護学概論,看護援助論Ⅰ,看護援助論Ⅱ,基礎看護技術演習Ⅰ,基礎看護技術演習Ⅱ,基礎看護学実習Ⅰ,基礎看護学実習Ⅱ,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ,総合実習,ライフステージと看護,家族看護論,看護行政論,人間社会と倫理

博士前期課程：基礎看護学特論,看護理論,フィジカルアセスメント,基礎看護学援助論Ⅰ,基礎看護学特別演習,看護学研究法

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

教務委員会副委員長,教学委員会委員,紀要委員会委員,自己点検評価特別委員会委員,看護研究交流センター特別研究部門長

【外部資金獲得】

なし

岡村 典子

1. 原著論文(1件)

- 1) 廣田光恵, 大瀬由紀, 松尾こず恵, 渡邊信子, 岡村典子(2019.2): 尿路性敗血症発生率低減に向けた看護ケアに関する検討 整形外科病棟における取り組み, 日本看護学会論文集: 看護管理, 49, pp31 - 34(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(なし)

**【学会等における活動】**

- ・日本看護科学学会
- ・日本看護学教育学会
- ・日本看護研究学会
- ・日本看護技術学会
- ・日本カウンセリング学会
- ・日本心身医学会
- ・日本在宅ケア学会
- ・仏教看護・ビハーラ学会
- ・東京医科歯科大学お茶の水医学会
- ・聖路加看護学会
- ・日本精神保健看護学会
- ・日本看護管理学会
- ・北関東医学会
- ・お茶の水看護学会

**【社会活動】**

- ・新潟県立中央病院看護部教育アドバイザー
- ・学校法人悠久崇徳学園 上越看護専門学校非常勤講師「基礎看護学概論」4回(2018.04.25, 05.09, 05.14, 05.16)
- ・新潟県看護協会「平成30年度新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会」講師, 「看護における人間関係論」担当2回(2018.07.20, 08.01)
- ・独立行政法人労働者健康安全機構・新潟労災病院, 看護部教育委員会主催「看護理論研修」講師2回(2018.09.25, 11.26, 12.10)
- ・新潟県立中央病院看護部主催, 「パートナーシップ・マインド研修」講師(2018.12.04)

- ・ 静岡がんセンター看護部主催，「看護過程研修」講師(2019.01.26)
- ・ 新潟県厚生農業協同組合連合会，看護部教育研修「本部教育委員研修会」研修の場で活用できるファシリテーションスキル(2019.03.05)
- ・ 平成31年度採用：衛生看護科教員採用試験問題作成

#### 【学内教育活動】

学 部：看護学概論，看護援助論Ⅰ，看護援助論Ⅱ，基礎看護技術演習Ⅰ，基礎看護学演習Ⅱ，基礎看護学実習Ⅰ，基礎看護学実習Ⅱ，専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ，総合実習，看護研究法，看護管理

博士前期課程：看護コンサルテーション論，基礎看護学看護援助論Ⅰ，基礎看護学特別演習，看護理論，看護管理学特論

博士後期課程：なし

#### 【学内委員会等の活動】

実習委員会副委員長，研究科委員会委員，教務委員会委員，倫理委員会委員，看護研究交流センター看護職学習支援部門長

茶道サークルサークル顧問

#### 【外部資金獲得】

1) 岡村典子(研究代表者)

(2017～2020):感情を的確にマネジメントする為のスキル習得に向けた看護管理者向けプログラムの構築，科学研究費助成事業(基盤研究C)

川島 良子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(2件)

- 1) 川島良子 馬場美幸(2018.12): 基礎看護学実習における教員の日常生活援助の指導と学生が役立ったと感じた指導, 愛知県立大学看護学部紀要, 23,pp95 - 103(査読有)
- 2) 川島良子 三尾亜喜代(2018.12): 基礎看護学実習における日常生活援助技術の実施前の教員の指導に対する学生の評価, 愛知県立大学看護学部紀要, 23,pp105 - 112(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(なし)

**【学会等における活動】**

- ・日本難病看護学会
- ・日本難病看護学会学術集会

**【社会活動】**

- ・東新潟病院 看護研究指導

**【学内教育活動】**

学 部：基礎看護技術演習Ⅰ,基礎看護技術演習Ⅱ,看護援助論Ⅱ,基礎看護学実習Ⅰ,基礎看護学実習Ⅱ,総合実習,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

**【学内委員会等の活動】**

入試・広報委員会委員,災害看時支援特別委員会委員,看護研究交流センター地域社会貢献部門員

**【外部資金獲得】**

なし

谷内田 潤子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1件)

1) 谷内田 潤子、藤原 和哉、武田 安永、治田 麻里子、石井 大、和井田 結佳子、大石 まり子、川井 紘一、横山 宏樹、屋宜 宜治、岡田 朗、岩崎 皓一、宮澤 一裕、奥 口 文宣、前川 聡、糖尿病データマネジメント研究会(2018.5): 糖尿病患者の受診中断に関連する因子の1年間追跡調査, 第61回日本糖尿病学会年次学術集会(東京)

5. その他の研究活動(なし)

**【学会等における活動】**

なし

**【社会活動】**

なし

**【学内教育活動】**

学 部：基礎看護技術演習Ⅱ,総合実習,専門ゼミナールⅠ,基礎看護援助論

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

**【学内委員会等の活動】**

ハラスメント防止特別委員会委員,国際交流委員会委員,看護研究交流センター看護職学習支援部門員

**【外部資金獲得】**

なし

山岸 美奈子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(1件)

1) 山岸美奈子, 小池潤, 阿部正子, 樺澤三奈子, 臨床看護師が「患者に触れてわかること」  
の実態調査, 平成30年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

**【学会等における活動】**

・日本看護科学学会

**【社会活動】**

なし

**【学内教育活動】**

学 部：基礎看護技術演習Ⅰ,基礎看護学実習Ⅰ,基礎看護技術演習Ⅱ,基礎看護学実習Ⅱ,  
看護学概論,看護援助論Ⅰ,看護援助論Ⅱ

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

**【学内委員会等の活動】**

国家試験・就職委員会委員,看護研究交流センター先駆的学習支援部門員

**【外部資金獲得】**

なし

石田 和子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(なし)

3. 著書(1件)

- 1) 神田清子 京田亜由美 藤本桂子 望月留加 石田和子(2018.8):がん治療で起こる副作用・合併症の治療と薬剤開発, 第1章がん化学療法で起こる合併症・副作用の病態と実臨床での具体的対処方法, 第11節末梢神経障害(しびて), (株)技術情報協会発刊書籍(東京)

4. 学会発表(11件)

- 1) Kazuko Ishida, Mitiko Nakashima, Chiaki Ishihara, Tatsuya Aizawa(2018.10), The Impact on Sexual Activities of the Women Who Underwent the Operations by Uterine Cancer or Ovarian Cancer during the Course of Chemotherapy, 22Th International Conference on Cancer Nursing(Auckland)
- 2) 山田希, 渡邊真理子, 酒井禎子, 石田和子(2019.2):経口抗がん薬治療を受ける高齢者の困難・心配・苦痛, 第33回日本がん看護学会(福岡)
- 3) 石原千晶, 山田希, 石田和子(2019.2):終末期にある口腔がん患者の転院調整における看護師のジレンマ, 第33回日本がん看護学会(福岡)
- 4) 横川史穂子, 石岡幸恵, 石田和子(2019.2):一般市民の終末期の意思決定に関連する価値観の傾向, 第33回日本がん看護学会(福岡)
- 5) 佐藤充子, 田口美代志, 石田和子(2019.2):在宅で療養している終末期がん患者と関わった訪問看護ステーションに勤務する看護師の満足度, 第33回日本がん看護学会(福岡)
- 6) 斎藤琴子, 坂田智佳子, 鴨井美雪, 杉山潤, 石田和子(2019.2):病を抱えながら食道がん再発患者を支える妻への支援-家族エンパワーモデルを活用し家族の力を引き出す-, 第33回日本がん看護学会(福岡)
- 7) 渡邊真理子, 山田希, 酒井禎子, 石田和子(2019.2):在宅で療養するがん療養者と家族介護者を支えるエンリッチメントプロセス, 第33回日本がん看護学会(福岡)
- 8) 石原千晶, 相澤達也, 上野美恵子, 石田順子, 石田和子(2019.2):化学療法中の子宮がん卵巣がんで手術を受けた女性が抱く性への影響, 第33回日本がん看護学会(福岡)
- 9) 杉山潤, 鴨井美雪, 坂田智佳子, 斎藤琴子, 石田和子(2019.2):縦隔転移のある胸膜中皮腫患者への在宅に向けた看護〜フイックの危機理論を用いた危機への援助〜, 第33回日本がん看護学会(福岡)
- 10) 鴨井美雪, 杉山潤, 斎藤琴子, 坂田智佳子, 石田和子(2019.2):不満や怒りを表出している再発乳がん患者へのフイック危機理論を用いた在宅への支援, 第33回日本がん看護学会(福岡)
- 11) 大山ちあき, 村上千秋, 石原千晶, 相澤達也, 石田和子(2018.6):複雑な問題を抱えた終末期乳がん患者と関わった医療療養型病院看護師のストレス体験の分析, 日本緩和医

療学会(神戸)

## 5. その他の研究活動(なし)

### 【学会等における活動】

- ・ 日本がん看護学会 評議員
- ・ 日本緩和医療学会
- ・ 日本死の臨床研究会
- ・ 日本看護研究学会
- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本造血幹細胞移植学会
- ・ 日本専門看護師協議会
- ・ 日本看護協会
- ・ 日本看護診断学会
- ・ 日本死の臨床研究会関東甲信越地区 役員
- ・ 群馬緩和ケア研究会 世話人
- ・ 新潟県がん看護研究会世話人
- ・ 群馬がん看護研究会
- ・ JCAP（上越がんプロジェクト）
- ・ 日本死の臨床研究会 企画委員
- ・ 日本難病学会
- ・ 日本がん看護学会

### 【社会活動】

- ・ 新潟県看護協会主催 緩和ケア認定看護師教育課程 教育委員会副委員長
- ・ 新潟県看護協会主催 緩和ケア認定看護師教育課程
- ・ 新潟県看護協会主催 緩和ケア認定看護師教育課程
- ・ 本庄児玉看護専門学校（2年）看護研究の基礎
- ・ 看護研究交流センター どこでもカレッジ公開講座 第1回看護研究のテーマをみつけよう
- ・ 看護研究交流センター どこでもカレッジ公開講座 第2回さあはじめよう看護研究～研究計画書の書き方まで～
- ・ 高崎健康福祉大学 講義

### 【学内教育活動】

学 部：成人看護学,成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ,成人看護学演習,総合実習,総合科目,成人看護学実習,専門ゼミナールⅠ・Ⅱ

博士前期課程：がん看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ,がん看護学特別演習Ⅰ,がん看護学特別演習Ⅱ,がん看護学特別演習Ⅲ,がん治療看護介入演習Ⅰ,がん治療看護介入演習Ⅱ,がん看護高度実践看護師実習Ⅰ,がん看護高度実践看護師実習Ⅱ,がん看護

高度実践看護師実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ,看護研究法,病態生理学,臨床薬理学,看護コ  
ンサルテーション論,がん看護専門看護師課題研究・特別研究

博士後期課程：成人・がん看護学特論,看護学特別研究

**【学内委員会等の活動】**

実習委員会委員長,教学委員会委員長,教務委員会委員,委員,看護研究交流センター地域課  
題研究開発部門員

**【外部資金獲得】**

1) 石田和子(研究代表者)

神田清子, 石田順子, 石原千晶, 相澤達也他(2017～2019): がん化学療法に伴う妊孕性の低下におけるライフイベント支援モデルの開発とその評価, 科学研究費助成事業(基盤研究 C)

2) 神田清子(研究代表者)

望月留加, 藤本桂子, 細川舞, 石田和子, 石原千晶他(2016～2018), 化学療法による末梢神経障害への包括的ケアマネジメント介入とその評価, 科学研究費助成事業(基盤研究 B)

3) 石田順子(研究代表者)

石田和子, 神田清子他(2016～2018): がん患者と家族の家族機能を良好にするための患者・家族支援モデルの構築, 科学研究費助成事業(基盤研究 C)

高柳 智子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

1) 高柳 智子(2018.7): ベッド・車椅子間移乗が見守り支援から自立に至った回復期脳血管患者疾患患者がとらえた経験知, 日本看護研究学会雑誌, 41(4),pp733 - 739(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(なし)

**【学会等における活動】**

- ・日本リハビリテーション看護学会・査読委員
- ・日本看護研究学会・会員
- ・日本老年看護学会・会員
- ・日本脳神経看護学会・会員
- ・第23回 日本難病看護学会学術集会

**【社会活動】**

- ・上越地域消防事務組合情報公開・個人情報保護制度審議会委員
- ・上越市情報公開・個人情報保護制度審議会委員(2018年9月まで)
- ・刈羽郡小学習センターいずみ大学講師
- ・心臓リハビリテーション外来に通院していない急性冠症候群患者の退院後の生活状況とその要因

**【学内教育活動】**

学 部：ライフステージと看護,成人看護学Ⅰ,成人看護学Ⅱ,成人看護学Ⅲ,成人看護学Ⅳ,  
健康医療政策論,看護倫理,成人看護学演習,成人看護学実習,専門ゼミナールⅠ,専  
門ゼミナールⅡ

博士前期課程：看護学研究法

博士後期課程：看護学研究法Ⅱ

**【学内委員会等の活動】**

教務委員会委員長,FD委員会委員,教学委員会委員,法人ワーキング委員

**【外部資金獲得】**

1) 高柳 智子(研究代表者)

(2016～2019): 脳血管疾患患者の移乗時見守りから自立へのプロセスを支援するケアプロトコルの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究 C)

酒井 禎子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(2件)

- 1) 山田希、渡邊真理子、酒井禎子、石田和子(2019.2)：経口抗がん薬治療を受ける高齢者の困難・心配・苦痛，第33回日本がん看護学会学術集会(福岡市)
- 2) 渡邊真理子、山田希、酒井禎子、石田和子(2019.2)：在宅で療養するがん療養者と家族介護者を支えるエンリッチメントプロセス，第33回日本がん看護学会学術集会(福岡市)

5. その他の研究活動(なし)

**【学会等における活動】**

- ・日本緩和医療学会教育・研修委員会 ELNEC-J W P G 員
- ・日本緩和医療学会 代議員
- ・聖路加看護学会 評議員
- ・日本死の臨床研究会関東甲信越支部役員
- ・新潟看護ケア研究学会 編集委員
- ・第42回日本死の臨床研究会年次大会、日本難病看護学会 実行委員
- ・第42回日本死の臨床研究会年次大会 シンポジウム座長
- ・日本看護技術学会第17回学術集会 シーズセッション演者

**【社会活動】**

- ・上越地域人生の最終段階における医療・ケア協議会 実行委員会 実行委員長
- ・魚沼基幹病院看護部特任教育コーディネーター
- ・新潟労災病院看護研究指導
- ・第7回 ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム in 上越「エンド・オブ・ライフ・ケアに関わる看護師のための研修会」講師
- ・看護研究交流センター出前講座「看護職・介護職のための緩和ケア講座」講師
- ・金沢医科大学病院平成30年度 ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム講師
- ・新潟県看護協会平成30年度緩和ケア認定看護師教育課程「緩和ケア概論」非常勤講師
- ・新潟県介護福祉士会 介護福祉士現任研修「高齢者施設におけるターミナルケア」講師
- ・新潟県立中央病院緩和ケア研修会ファシリテーター
- ・第20回 ELNEC-J コアカリキュラム指導者養成プログラム講師
- ・DIPEXJapam 第6回教育ワークショップ「患者の語り（ナラティブ）が医療者教育を変える」演者

- ・ 済生会新潟第二病院緩和ケア委員会主催 ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム講師
- ・ 長野市多職種連携推進講座 講師
- ・ 2018 年度第 2 回 ELNEC-J コアカリキュラム指導者フォローアップ研修会ファシリテーター
- ・ 柿崎病院院内学習会 講師
- ・ 第 21 回 ELNEC-J コアカリキュラム指導者養成プログラム運営総括
- ・ 新潟県臨床検査技師会ニューリーダー育成研修会 講師
- ・ 看護研究交流センター特別研究：「A 県内に U I ターンした看護職員の仕事と生活における支援ニーズ」に関する研究

### 【学内教育活動】

学 部：成人看護学Ⅱ,成人看護学Ⅲ,成人看護学演習,成人看護学実習,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ,総合実習,看護倫理

博士前期課程：がん看護学特論Ⅰ,がん看護学特論Ⅱ,がん看護学特別演習Ⅰ,がん看護学特別演習Ⅱ,がん看護学特別演習Ⅲ,がん治療看護介入演習Ⅰ,がん治療看護介入演習Ⅱ,がん高度実践看護実習Ⅰ,がん高度実践看護実習Ⅱ

博士後期課程：なし

### 【学内委員会等の活動】

学生委員会委員長,国家試験対策・就職委員会副委員長,倫理委員会副委員長,ハラスメント相談員

VSP、野球、エアロビサークル顧問,平成 30 年度研究推進委員会主催 研修会「科研費の申請と研究計画書の作成」,平成 30 年度国家試験対策セミナー

### 【外部資金獲得】

1) 酒井禎子(研究代表者)

(2018～2020)：化学放射線療法を行う高齢がん患者の「食べて動ける力」を支える集学的ケアモデル構築，科学研究費助成事業（若手研究）

2) 佐居由美(研究代表者)

小高恵実、酒井禎子、桃井雅子、山田雅子、中山和弘(2018～2022)：実践知を基盤とした「安楽」をもたらす包括的コンピテンシー・プログラムの開発，科学研究費助成事業（基盤研究 B）

3) 笹原朋代(研究代表者)

酒井禎子、水野道代(2017～2021)：日本版エンド・オブライフ・ケアの提供に必要な看護師のコンピテンシーに関する研究，科学研究費助成事業(基盤研究 C)

山田 正実

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 小林綾子、山田正実、武田織枝、飯田智恵、坂田智佳子、松倉久枝(2019.1)：家庭で減塩食に継続を目的とした健康教室の効果，日本農村医学会雑誌，67(5),pp603 - 609(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1件)

- 1) 山田正実、河原畑尚美、大口洋子、野口裕子、高島葉子(2018.8)：既存インフラである大学サーバーを活用した学生の安否連絡訓練の評価，日本災害看護学会(神戸市)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本看護学会
- ・日本家族看護学会
- ・日本家政学会家族関係学部会
- ・日本在宅ケア学会
- ・日本呼吸ケア・リハビリテーション学会
- ・日本禁煙科学会
- ・日本災害看護学会
- ・日本農村医学会
- ・看護質的統合法（N-KJ法）研究会
- ・新潟看護研究学会

【社会活動】

- ・看護研究交流センター出前講座「災害時のトイレ、大丈夫ですか？」講師
- ・看護研究交流センター出前講座「災害時のトイレ、大丈夫ですか？」講師
- ・看護研究交流センター出前講座「災害時に命と健康を守る」講師
- ・高校出張模擬講義（三条東高等学校）講師
- ・高校出張模擬講義（小出高等学校）講師

【学内教育活動】

学 部：成人看護学Ⅱ,成人看護学Ⅲ,成人看護学Ⅳ,成人看護学演習,成人看護学実習,専門ゼミⅠ,専門ゼミⅡ,看護倫理,総合実習

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

**【学内委員会等の活動】**

災害時看護支援特別委員会委員長,入試・広報委員会副委員長,学生委員会委員,実習中の学生の安否確認・報告に関する検討WG委員長

災害看護サークルサークル顧問,新入生禁煙教育,新入生防災・減災教育

**【外部資金獲得】**

なし

樺澤 三奈子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 樺澤三奈子(2018.12): 補助化学療法を受ける肺がん患者の倦怠感セルフマネジメント促進プログラムの臨床評価, *BIO Clinica*, 34(1),pp58 - 61(査読無)

3. 著書(1件)

- 1) 林直子, 佐藤まゆみ, 樺澤三奈子, 他 21名(2019.3): 看護学テキスト Nice 成人看護学 急性期看護 I 概論・周手術期看護 改訂第3版, 第VI章 事例で考える周手術期看護 4. 接種機能の再確立①一食道切除術 (pp.211-230), 南江堂(東京)

4. 学会発表(2件)

- 1) 林直子, 中山直子, 森明子, 鈴木久美, 高橋奈津子, 樺澤三奈子, 他 5名(2019.2): 小児がんサバイバーの長期フォローアップと移行期支援に関する文献レビュー, 第33回日本がん看護学会学術集会(福岡)
- 2) 佐々木久美, 樺澤三奈子, 森一恵, 小島操子(2019.2): 進行がん患者とその家族のせん妄体験, 第33回日本がん看護学会学術集会(福岡)

5. その他の研究活動(1件)

- 1) 山岸美奈子, 小池潤, 阿部正子, 樺澤三奈子, 急性期看護に携わる臨床看護師が手で「患者に触れてわかること」の実態調査, 2018年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本がん看護学会
- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本乳癌学会
- ・ 日本臨床腫瘍学会
- ・ せいいい看護学会 評議員
- ・ 第23回日本難病看護学会
- ・ 第42回日本死の臨床研究会年次大会

【社会活動】

- ・ 静岡県立静岡がんセンター認定看護師教育課程教員会委員
- ・ 聖隷クリストファー大学大学院 非常勤講師
- ・ A県内にUIターンした看護職員の仕事と生活における支援ニーズ

【学内教育活動】

学 部：成人看護学演習,成人看護学実習（慢性・回復期看護実習）,総合実習,専門ゼミナ

ールⅠ,専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：がん看護学特論Ⅰ,がん看護学特論Ⅱ,がん看護学特別演習Ⅱ,特別演習Ⅲ,がん治療介入演習Ⅰ,がん治療介入演習Ⅱ,がん高度実践看護実習Ⅰ

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

国際交流委員会委員,FD 委員会委員,入学委員会委員,看護研究交流センター特別研究部門員

【外部資金獲得】

1) 樺澤三奈子(研究代表者)

森一恵(2017～2020)：補助化学療法を受ける肺がん患者の倦怠感セルフマネジメント促進プログラムの臨床評価，科学研究費助成事業(基盤研究 C)

2) 大石ふみ子(研究代表者)

白鳥さつき，葉山有香，南裕美，樺澤三奈子(2017～2019)：化学療法を受ける乳がん患者の味覚障害に対する客観的評価を用いた看護援助の検討，科学研究費助成事業(基盤研究 C)

3) 林直子(研究代表者)

鈴木久美，森明子，中山直子，小林京子(2017～2021)：AYA 世代にある小児がんサバイバーの移行期ケアを支える看護者育成プログラムの開発，科学研究費助成事業(基盤研究 B)

小林 綾子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

1) 小林綾子、山田正実、武田織枝、飯田智恵、坂田智佳子、松倉久枝(2019.1)：家庭での減塩食の継続を目的とした健康教室の効果，日本農村医学会雑誌，67，5,pp603 - 609(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(なし)

**【学会等における活動】**

- ・日本糖尿病教育・看護学会
- ・日本慢性看護学会
- ・日本看護科学学会

**【社会活動】**

- ・看護研究交流センター出前講座「働き盛りの方へ 少し生活を見直してみませんか 食事編」講師
- ・高校への出前講義 講師
- ・どこでもカレッジ公開講座「文献検索の基本」 講師
- ・①慢性腎臓病保存期療養生活での患者の学び-血液透析導入後の患者の語りを通して-

**【学内教育活動】**

学 部：成人看護学Ⅲ,成人看護学Ⅳ,成人看護学演習,成人看護学実習,専門ゼミⅠ,専門ゼミⅡ,総合実習

博士前期課程：成人看護学援助論Ⅰ,成人看護学援助論Ⅱ,成人看護学特別演習

博士後期課程：なし

**【学内委員会等の活動】**

学生委員会委員,FD 委員会副委員長,ハラスメント防止特別委員会委員,看護研究交流センター看護職学習支援部門員

学年担任,よさこいサークル顧問

**【外部資金獲得】**

なし

石原 千晶

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 石原千晶、Simon Elderton、境原三津夫(2018.4)：わが国における性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターの現状と今後－性暴力被害者支援看護職の活用に向けて－，日本セーフティプロモーション学会誌，11巻,pp31 - 36(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(5件)

- 1) 大山ちあき、村上千秋、石原千晶、相澤達也、石田和子(2018.6)：複雑な問題を抱えた終末期乳がん患者と関わった医療療養型病院看護師のストレス，第23回日本緩和医療学会(神戸)
- 2) 石田和子、中島通子、石原千晶、相澤達也(2018.9)："The Impact on Sexual Activities of the Women Who Underwent the Operations by Uterine Cancer or Ovarian Cancer during the Course of Chemotherapy", International Conference on Coancer Nursing 2018(ニュージーランド)
- 3) 石原千晶、山田希、石田和子(2019.2)：終末期にある口腔がん患者の転院調整における看護師のジレンマ，第33回日本がん看護学会(福岡)
- 4) 石原千晶、上野恵美子、石田順子、相澤達也、石田和子(2019.2)：化学療養中の子宮がん卵巣がんで手術を受けた女性が抱く性への影響，第33回日本がん看護学会(福岡)
- 5) 石原千晶(2019.2)：外来放射線治療を受けるがん患者が抱える心理的問題に対する文献検討，第33回日本がん看護学会(福岡)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本看護研究学会
- ・日本がん看護学会
- ・日本看護学教育学会
- ・日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会
- ・日本セーフティプロモーション学会
- ・群馬がん看護研究会
- ・第42回死の臨床研究会年次大会

【社会活動】

- ・整形外科病棟における術後せん妄対策の変化－術後せん妄対策アセスメントツールの活用を通して－

### 【学内教育活動】

学 部：成人看護学Ⅲ,成人看護学Ⅳ,成人看護学演習,成人看護学実習,総合実習,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：がん高度実践看護演習Ⅰ,がん高度実践看護演習Ⅱ,がん高度実践看護演習Ⅲ,がん高度実践看護演習Ⅳ,がん高度実践看護演習Ⅴ

博士後期課程：なし

### 【学内委員会等の活動】

国家試験対策・就職委員会委員,学生委員会委員

学年担任

### 【外部資金獲得】

#### 1) 神田清子(研究代表者)

京田亜由美、李範爽、望月留加、石田和子、石原千晶、藤本桂子、細川舞(2016～2018)  
：慢性末梢神経障害を伴うがん患者におけるセルフモニタリングの有効性の検討, 科学研究費助成事業(基盤研究 B)

#### 2) 石田和子(研究代表者)

石田順子、石岡幸恵、神田清子、石原千晶、相澤達也(2017～2019)：がん化学療法に伴う妊孕性の低下におけるライフイベント支援モデルの開発とよの評価, 科学研究費助成事業(基盤研究 C).

石岡 幸恵

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1件)

1) 横川史穂子、石岡幸恵、石田和子(2019.2)：一般市民の終末期の意思決定に関連する価値観の傾向，第33回日本がん看護学会学術集会(福岡)

5. その他の研究活動(なし)

**【学会等における活動】**

・第43回日本死の臨床研究会年次大会

**【社会活動】**

・日本看護協会上越支部看護職能委員  
・第7回ELEC-Jin上越 企画実行委員、講師

**【学内教育活動】**

学 部：成人看護学Ⅳ,成人看護学演習,成人看護学実習,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ,総合実習

博士前期課程：がん看護特別演習Ⅲ,がん高度実践看護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

博士後期課程：なし

**【学内委員会等の活動】**

実習委員会委員,入試・広報委員会委員,国試・就職委員会委員,衛生委員会委員  
ダンスサークル顧問

**【外部資金獲得】**

1) 石田和子(研究代表者)

石田順子、石岡幸恵、神田清子、石原千晶、相澤達也(2017～2019)：がん化学療法に伴う妊孕性の低下におけるライフイベント支援モデルの開発とその評価,科学研究費助成事業(基盤研究C)

相澤 達也

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(3件)

- 1) 石原千晶, 上野美恵子, 石田順子, 相澤達也, 石田和子(2019.2): 化学療法中の子宮がん卵巣がんで手術を受けた女性が抱く性への影響, 日本がん看護学会(福岡)
- 2) 大山ちあき, 村上千秋, 石原千晶, 相澤達也, 石田和子(2018.6): 複雑な問題を抱えた終末期乳がん患者と関わった医療療養型病院看護師のストレス体験の分析, 日本緩和医療学会(神戸)
- 3) Kazuko Ishida, Michiko Nakashima, Chiaki Ishihara, Tatsuya Aizawa(2018.10): The Impact on Sexual Activities of the Woman Who Underwent the Operation by Uterine Cancer or Ovarian Cancer during the Course of Chemotherapy, 22Th International Conference on Cancer Nursing(Auckland)

5. その他の研究活動(なし)

**【学会等における活動】**

- ・ 日本がん看護学会
- ・ 第23回日本難病看護学会学術集会
- ・ 第42回日本死の臨床研究会年次大会

**【社会活動】**

なし

**【学内教育活動】**

学 部：成人看護学演習,成人看護学実習,総合実習,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

**【学内委員会等の活動】**

看護研究交流センター看護職学習支援部門員

**【外部資金獲得】**

1) 石田和子(研究代表者)

神田清子, 石田順子, 石原千晶, 相澤達也他(2017~2019): がん化学療法に伴う妊孕性

の低下におけるライフイベント支援モデルの開発とその評価，科学研究費助成事業(基盤研究 A)

坂田 智佳子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 小林綾子,山田正実,武田織枝,飯田智恵,坂田智佳子,松倉久枝(2019.1): 家庭での減塩食の継続を目的とした健康教室の効果, 日本農村医学学会雑誌, Vol.67 No.5 ,pp603 - 609(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(3件)

- 1) 齊藤琴子, 坂田智佳子, 鴨井美雪, 杉山潤, 石田和子(2019.2): 病を抱えながら食道がん患者再発患者を支える妻への支援, 一家族エンパワーモデルを活用し家族の力を引き出すー, 第33回日本がん看護学会学術集会(福岡)
- 2) 杉山潤, 鴨井美雪, 坂田智佳子, 齊藤琴子, 石田和子(2019.2): 縦隔転移のある胸膜中皮腫患者への在宅に向けた看護, ~フィンクの危機理論を用いた危機への援助~, 第33回日本がん看護学会学術集会(福岡)
- 3) 鴨井美雪, 杉山潤, 齊藤琴子, 坂田智佳子, 石田和子(2019.2): 不満や怒りを表出している再発乳がん患者へのフィンク危機理論を用いた在宅への支援, 第33回日本がん看護学会学術集会(福岡)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本がん看護学会 会員
- ・日本農村医学会 会員

【社会活動】

- ・上越市・新潟県立看護大学連携事業「医療・健康福祉市民フォーラム」 運営・設営

【学内教育活動】

学 部：成人看護学演習,成人看護学実習,総合実習

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター地域社会貢献部門員

【外部資金獲得】 なし

大久保 明子

1. 原著論文(1件)

- 1) 大久保明子, 諸橋萌香(2019.3): がんの親をもつ子どもへの看護師の関わり、仏教看護・ビハーラ、第13号, pp74 - 99(査読有)

2. その他論文(1件)

- 1) 大久保明子, 野澤祥子, 室亜衣, 北村千章(2019.3): 乳幼児をもつ親の子どもの急病における受診行動と支援ニーズ, 新潟県立看護大学紀要, 第8巻, pp1 - 8(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(1件)

- 1) 大庭重治, 大久保明子 (他研究分担者 19名): 健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの学級担任を支援するための「地域連携コモンズ」形成の試み, 上越教育大学研究プロジェクト

【学会等における活動】

- ・ 仏教看護・ビハーラ学会 会員
- ・ 日本看護科学学会 会員
- ・ 日本小児看護学会 会員
- ・ 日本小児がん看護学会 会員
- ・ 日本家族看護学会 会員
- ・ 日本がん看護学会 会員
- ・ 日本小児保健協会 会員
- ・ 日本看護教育学会 会員
- ・ 日本臨床死生学会 会員
- ・ 新潟小児看護研究会 役員
- ・ 日本仏教看護・ビハーラ学会 第14回年次大会
- ・ 第20回新潟小児看護研究会

【社会活動】

- ・ 上越市子どもの権利委員会 委員
- ・ 新潟県立上越特別支援学校 学校評議員
- ・ 看護研究交流センター出前講座「いざというときに役立つ”子どものホームケア”」上越市立高田幼稚園 研修会講師
- ・ 看護研究交流センター出前講座「子どもの危険！」事故予防と応急手当” 真行寺幼稚園 研修会講師

- ・看護研究交流センター出前講座「自分のからだ・健康・いのちについて考えてみよう！」  
上越市浦川原中学校 講演会講師
- ・看護研究交流センター出前講座「子どもの危険！」事故予防と応急手当」妙高市よつばこども園 研修会講師
- ・看護研究交流センター出前講座「いざというときに役立つ」子どものホームケア」真行寺幼稚園 研修会講師
- ・看護研究交流センター出前講座「いざというときに役立つ」子どものホームケア」下門前保育園 研修会講師
- ・看護研究交流センター出前講座「自分のからだ・健康・いのちについて考えてみよう！」  
上越市吉川中学校 講演会講師
- ・看護研究交流センター出前講座「子どもの危険！」事故予防と応急手当」上越市立名南保育園 研修会講師
- ・看護研究交流センター出前講座「いざというときに役立つ」子どものホームケア」上越市立戸野目保育園 研修会講師
- ・わかばの会（子どもを亡くした遺族の会）
- ・いのちを語る会（子どもを亡くした遺族の会）
- ・重心・医ケア児者の地域生活を考える会

#### 【学内教育活動】

学 部：ライフステージと看護，小児看護学Ⅰ，小児看護学Ⅱ，小児看護学演習，小児看護学実習，専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ，総合実習  
博士前期課程：小児看護学援助論Ⅱ，小児看護学特別演習

#### 【学内委員会等の活動】

入試・広報委員会副委員長，入学委員会副委員長，教務委員会委員，研究推進委員会委員，研究科委員会委員  
いちょう食堂スタッフサークル、100徒歩サークルサークル顧問

#### 【外部資金獲得】

なし

北村 千章

1. 原著論文(1件)

- 1) chiaki Kitamura (2018.10): Construction of the theoretical framework of care guide for people with 22q 11.2 deletion syndrome., Impact. 2018 , 10,pp39 - 41(査読有)

2. その他論文(2件)

- 1) Chiaki Kitamura and Simon Elderton(2018.12),A Theoretical Framework for 22q11.2DS Patients,Impact,December, 2018,pp39 - 41(査読無)
- 2) 大久保明子, 野澤祥子, 室亜衣, 北村千章(2019.3): 乳幼児をもつ親の子どもの急病における受診行動と支援ニーズ、新潟県立看護大学紀要、第8巻,pp1 - 8(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(11件)

- 1) 北村千章、中込さと子(2018.7): 22q11.2欠失症候群の子どもの育てる親の体験, 日本難病看護学会(新潟県)
- 2) 富岡由紀子、北村千章(2018.7): 子どもが30歳になりCohen症候群の診断を受けた家族からの報告, 日本難病看護学会(新潟県)
- 3) Chiaki Kitamura, Simon J. H. Elderton, Masato Nagayoshi, Satako Nakagomi, Yuka Kondo, Akiko Shiozaki, Masahiko Noguchi, Satoshi Yasukochi, (2018.7), Exploring the support needs of individuals and their families affected by 22q11.2DS in Japan, The 11th Biennial International 22q11.2 conference(カナダ)
- 4) 北村千章、西條竜也(2018.9): 先天性心疾患の子どものひとりだちするための父親のかかわり, 日本看護協会ヘルスポロモーション学会(岡山県)
- 5) "北村千章、市川佳奈、桐生 徹、Elderton Simon(2019.1)": 22q11.2欠失症候群の子どものための就学ガイド, 臨床教育教科学会(東京)
- 6) 北村千章、野澤祥子、西條竜也(2019.1): 先天性心疾患の子どもの父親の思い, 日本成人先天性心疾患学会(岡山)
- 7) 北村千章、中込さと子、近藤由香、室亜衣(2018.10): 遺伝性疾患による特性をあわせに持って成長する子どもの出生時の親の思い, 日本新生児看護学会(東京都)
- 8) 羽深明美、中村直美、丸山智恵美、上野直美、北村千章(2018.10): NICUを退院する子どもを育てる母親への支援, 日本新生児看護学会(東京都)
- 9) 小林宏至、水澤香澄、北村千章(2018.7): Family Centered Careによる母親の変化, 日本新生児看護学会(東京都)
- 10) 藤沢志保、北村千章(2018.10): 認知症患者の身体抑制に対する看護師の思い, 長野県看護協会学会(長野県)
- 11) 湯本美保、北村千章(2018.10): 救急外来看護師の災害初期対応に対する思い, 長野県看護協会学会(長野県)

## 5. その他の研究活動(1件)

- 1) 北村千章、野澤祥子、飯吉令枝、井上智代、西條竜也：先天性心疾患の子どものひとり立ちに向けた父親の思い，平成29年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

### 【学会等における活動】

- ・長野県看護協会学会
- ・日本難病看護学会
- ・日本難病看護学会交流集会

### 【社会活動】

- ・NPO法人親子の未来を支える会 理事
- ・NPO法人マミーズネット ボランティア養成講座講師
- ・長野県教育委員会「いのち教育」講師
- ・上越教育大学と連携学習会講師
- ・長野県信州医療センター看護研修講師
- ・新潟県地域振興局保健福祉部企画「性教育」講師
- ・上越教育大学研究プロジェクト 「特別支援教育他職種連携」第1回と2回の学習会講師
- ・長野県療育センター講師
- ・22q11.2欠失症候群の長野ZOOイベント講師
- ・長野県松本市療育センターみらい学習会講師
- ・長野県須坂市保健福祉課「いのち教育」講師
- ・上越市山部小学校「未来へつながるある少女の物語」講演会
- ・NPO法人親子の未来を支える会の理事

### 【学内教育活動】

学 部：小児看護学Ⅱ,小児看護学演習,小児ゼミナールⅠ,小児ゼミナールⅡ,小児看護学実習

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

### 【学内委員会等の活動】

実習委員会委員,国家試験就職対策委員会委員,看護研究交流センター地域課題研究開発部門員

マラソンサークル顧問,上越教育大学との連携公開講座講師,日本難病看護学会交流集会コーディネーター

### 【外部資金獲得】

- 1) 中込さと子(研究代表者)

北村千章、浅野浩子(2018～2020)：染色体児へのDiversity support programの作成と評価，科学研究費助成事業(基盤研究 C)

野澤 祥子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 大久保明子, 野澤祥子, 室亜衣, 北村千章(2019.3): 乳幼児をもつ親の子どもの急病における受診行動と支援ニーズ, 新潟県立看護大学紀要, 8, pp1 - 8(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(2件)

- 1) 野澤祥子(2018.6): 成人先天性心疾患患者の就労に関する質的研究ー人生の長距離ランナーを目指してー, 第65回日本小児保健協会学術集会(鳥取)
- 2) 北村千章(2019.1): 先天性心疾患の子どものひとり立ちに向けた父親の思い, 第21回日本成人先天性心疾患学会学術集会(岡山)

5. その他の研究活動(1件)

- 1) 北村千章, 野澤祥子, 飯吉令枝, 井上智代, 西條竜也: 先天性疾患をもつ子どもがひとり立ちするための父親の思い, 平成29年度新潟県立看護大学学内共同研究助成.

【学会等における活動】

- ・日本小児看護学会
- ・日本小児保健協会
- ・日本成人先天性心疾患学会
- ・新潟小児看護研究会 役員

【社会活動】 なし

【学内教育活動】

学 部: 小児看護学演習, 小児看護学実習, 総合実習

博士前期課程: なし

博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

ハラスメント相談員, 看護研究交流センター看護職学習支援部門員

【外部資金獲得】

- 1) 野澤祥子(研究代表者)

(2018~2021): 成人先天性心疾患患者のための相互補完型の教育を応用した就労支援モデルの開発, 科学研究費助成事業 (若手研究)

室 亜衣

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 大久保明子, 野澤祥子, 室亜衣, 北村千章(2019.3): 乳幼児をもつ親の子どもの急病における受診行動と支援ニーズ, 新潟県立看護大学紀要, 8, pp1 - 8(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(2件)

- 1) 北村 千章, 室 亜衣, 中込 さと子, 近藤 由佳(2018.11): 遺伝性疾患による特性をあわせもって成長する子どもの出生時の親の思い, 日本新生児看護学会(東京)
- 2) 北村千章、エルダトンサイモン、室亜衣、他(2019.1): 22q11.2 欠失症候群の子どもが望む就学支援 - 就学ガイド作成の取り組み -, 第 17 回臨床教科教育学セミナー2018(東京)

5. その他の研究活動(1件)

- 1) 大久保明子、室亜衣、野口裕子: 学童期・思春期にある医療的ケアを必要とする児を養育する母親の体験と支援ニーズに関する研究, 新潟県立看護大学学内共同研究助成(2018-2019)

【学会等における活動】

- ・第 23 回日本難病看護学会 22q11.2 欠失症候群 交流集会 コーディネーター

【社会活動】

- ・NPO 法人 親子の未来を支える会

【学内教育活動】

学 部: 小児看護学演習, 小児看護学実習, 総合実習

博士前期課程: なし

博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター地域社会貢献部門員

22q11.2 欠失症候群 家族交流会 コーディネーター

【外部資金獲得】

なし

中島 通子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(5件)

- 1) kazuko Ishida, Mitiko Nakashima, Chiaki Ishihara, Tatsuya Aizawa(2018.9):The Impact on Sexual Activities of the Women Who Underwent the Operations by Uterine Cancer or Ovarian Cancer during the Course of Chemotherapy, internationalConference on Cancer Nursing(ニュージーランド)
- 2) 西田絵美 中島通子(2018.10): 学習者の自己教育力育成をめざした反転授業教材の作成—褥婦の看護に関する知識の関連づけに焦点を当てて, 日本母性衛生学会(新潟市)
- 3) 白木京子 中島通子 寺口顕子(2018.10): 看護職種別における母乳育児支援の現状—出生時から1歳まで—第1報, 日本母性衛生学会(新潟市)
- 4) 白木京子 中島通子 寺口顕子(2018.10): 看護職種別における母乳育児支援の現状—第2報—支援時の意識分析, 日本母性衛生学会(新潟市)
- 5) 白木京子 中島通子(2019.3): 妊婦と医療者の歯科衛生に関する意識と現状. 日本助産学会(福岡市)

5. その他の研究活動(2件)

- 1) 上田恵 中島通子 石澤あさみ 定政輝: レズビアンカップルにおける家族形成の意義に関する文献レビュー, 平成31年度新潟県立看護大学学内共同研究助成
- 2) 大庭重治 笠原芳隆 八島 猛 佐藤将朗 増井 晃 上野光博 野口孝則 留目宏美 池川茂樹 境原三津夫 平澤則子 高柳智子 中島通子 大久保明子 永吉雅人 渡辺弘之 加藤喜美江 猪又智子 室橋由貴 足田真智子 大日向仁代: "健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの学級担任を支援するための「地域連携 commons」形成の試み", 平成30年度上越教育大学研究プロジェクト

#### 【学会等における活動】

- ・日本助産学会
- ・日本母性衛生学会
- ・日本不妊カウンセリング学会
- ・日本生殖看護学会
- ・MGT-A 研究会
- ・比較文化研究学会

**【社会活動】**

- ・上越市男女共同参画審議会 委員
- ・産後の母親の精神状態とその背景の実態調査～エジンバラ産後うつ病質問票を用いて～
- ・ホーカベレディースクリニック 研究指導 不妊カウンセリング 妊産婦ケア
- ・NCPR 研修会

**【学内教育活動】**

学 部：ライフステージと看護,母性看護学Ⅰ,母性看護学Ⅱ,母性看護学演習,母性看護学実習,助産学概論,ウイメンズヘルス,地域母子保健,助産学Ⅰ,助産学Ⅱ,助産学実習,総合実習,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：看護研究法,母性看護学特論,母性看護学援助論Ⅰ,母性看護学援助論Ⅱ,母性看護学特別演習

博士後期課程：なし

**【学内委員会等の活動】**

紀要委員会委員長,実習委員会委員,教学委員会委員

**【外部資金獲得】**

なし

西田 絵美

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1件)

1) 西田絵美、中島通子(2018.10): 学習者の自己教育力育成をめざした反転授業教材の作成—褥婦の看護に関する知識の関連づけに焦点を当てて—, 第59回日本母性衛生学会学術集会(新潟)

5. その他の研究活動(1件)

1) 西田絵美、中島通子、永吉雅人: 母性看護学における反転授業による学習活動と学習成果の評価—学生の自己教育力育成をめざした取り組み—, 平成29年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

**【学会等における活動】**

なし

**【社会活動】**

- ・看護研究交流センター出前講座「看護職に必要な『ケアリング』の知識」講師
- ・新潟県看護協会上越地区支部看護師職能研修「看護ケアとケアリング」講師
- ・産後の母親の精神状態とその背景の実態調査～エジンバラ産後うつ病質問票を用いて～

**【学内教育活動】**

学 部: 母性看護学Ⅰ, 母性看護学Ⅱ, 母性看護学演習, 母性看護学実習, 総合実習, 助産学Ⅰ, 助産学Ⅱ, 助産学実習, 看護研究法, 地域母子保健, 助産学概論, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程: 母性看護学援助論Ⅰ

博士後期課程: なし

**【学内委員会等の活動】**

国際交流員会副委員長, 入試・広報委員会委員, 研究推進委員会委員, 助産学履修選考委員会委員, 看護研究交流センター地域課題研究開発部門員

**【外部資金獲得】**

なし

阿部 正子

1. 原著論文(2件)

- 1) 佐々木美果、清水嘉子、塩沢綾乃、阿部正子(2018.7)：未就学児をもつシングルマザーの育児ストレスと蓄積疲労の特徴—背景の違いによる検討，母性衛生，59（2），pp416 - 423(査読有)
- 2) 宮田久枝、阿部正子(2019.1)：高度生殖医療における外来看護の実態，園田学園女子大学論文集，53,pp23 - 31(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(1件)

- 1) 遠藤俊子、渡邊竹美、加藤千晶、阿部正子、他 27名(2019.2)：助産師基礎教育テキスト 第7巻，第3章分娩期の異常とそのケア 第5節分娩に伴う損傷・合併症，日本看護協会出版会(東京)

4. 学会発表(1件)

- 1) 阿部正子(2019.1)：Clinical Judgment of new graduate midwives who encountered major post-partum hemorrhage-Educational application of narrative in OJT-, 22nd. East Asian Forum of Nursing Scholars(EAFONS)(Singapore)

5. その他の研究活動(1件)

- 1) 山岸美奈子、小池潤、阿部正子、樺澤美奈子：急性期看護に携わる看護師が手で「患者に触れてわかること」の実態調査，平成30年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会 評議員
- ・日本看護研究学会
- ・日本母性衛生学会
- ・日本生殖看護学会
- ・日本助産学会
- ・日本母性看護学会
- ・日本子ども虐待防止学会
- ・日本ウーマンズヘルス学会
- ・日本不妊カウンセリング学会

【社会活動】

- ・上越教育大学倫理審査委員
- ・新潟県立高田北城高等学校「社会人講話」講師
- ・M-GTA研究会（東京）・中部M-GTA研究会世話人

- ・長野県看護大学大学院学外指導教員
- ・園田学園女子大学論文集の論文査読
- ・東京医科歯科大学大学院非常勤講師（看護研究方法論：グラウンデッドセリアー）

#### 【学内教育活動】

学 部：母性看護学Ⅰ,母性看護学Ⅱ,母性看護学演習,母性看護学実習,総合実習,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ,助産学Ⅰ,助産学Ⅱ,助産学実習,ウイメンズヘルス,地域母子保健,助産学概論

博士前期課程：母性看護学特論,母性看護学援助論Ⅰ,母性看護学援助論Ⅱ,母性看護学特別演習

博士後期課程：なし

#### 【学内委員会等の活動】

研究推進委員会副委員長,教務委員会委員,助産学履修生選考委員会委員

#### 【外部資金獲得】

1) 伊藤祐紀子(研究代表者)

阿部正子、那須淳子(2018～2020)：「看護する身体」を育成する教育プログラムの開発～現状調査と学生の学びの質的研究～，科学研究費助成事業(基盤研究C)

2) 佐々木美果(研究代表者)

清水嘉子、阿部正子、塩沢綾乃(2017～2019)：未就学児をもつシングルマザーの育児および健康支援に向けた包括的アプローチの検討，科学研究費助成事業(基盤研究C)

天谷 まり子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

**【学会等における活動】**

なし

**【社会活動】**

なし

**【学内教育活動】**

学 部：なし

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

**【学内委員会等の活動】**

学生委員会委員,図書委員会委員,看護研究交流センター地域社会貢献部門員

**【外部資金獲得】**

- 1) 天谷まり子(研究代表者) (2017～2019)：妊娠糖尿病（GDM）妊婦における食事療法の適応状態に関する評価尺度の開発，科学研究費助成事業（若手研究）

中澤 紀代子

1. 原著論文(1件)

- 1) 中澤紀代子, 定方美恵子, 高島葉子(2018.9): 助産師基礎教育におけるシミュレーション教育の現状と課題に関する文献レビュー, 日本シミュレーション医療教育学会雑誌, 第6巻, pp71 - 78(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会 会員
- ・日本母性衛生学会 会員
- ・日本助産学会 会員
- ・日本シミュレーション医療教育学会 会員
- ・日本遺伝看護学会 会員
- ・第23回日本難病看護学会学術集会 査読委員

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：母性看護学Ⅱ,母性看護学演習,母性看護学実習,助産学Ⅰ,助産学実習,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ,総合実習

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

国家試験対策就職委員会委員,実習委員会委員,ハラスメント相談員

【外部資金獲得】

- 1) 中澤紀代子(研究代表者)

定方美恵子, 高島葉子, 境原三津夫(2017～2019): 助産師基礎教育から臨床への連動を意識した分娩後出血に関する教育プログラムの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

高塚 麻由

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

**【学会等における活動】**

なし

**【社会活動】**

- ・ケーススタディ研修における卒後2年目看護師の学びと気づき

**【学内教育活動】**

学 部：助産学Ⅰ,助産学実習,総合実習,母性看護学Ⅱ,母性看護学実習,専門ゼミナールⅠ,  
専門ゼミナールⅡ,母性看護学演習

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

**【学内委員会等の活動】**

入試広報委員会委員,看護研究交流センター看護職学習支援副部門長

学年担任保健指導員合唱サークル、ヘアドネーションサークルサークル顧問

**【外部資金獲得】**

なし

上田 恵

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(1件)

1) 上田恵, 中島通子, 石澤あさみ, 定政輝: レズビアンカップルにおける家族形成の意義に関する文献レビュー, 平成30年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

**【学会等における活動】**

なし

**【社会活動】**

なし

**【学内教育活動】**

学 部: 母性看護学実習

博士前期課程: なし

博士後期課程: なし

**【学内委員会等の活動】**

看護研究交流センター地域社会貢献部門員

**【外部資金獲得】**

なし

小野 幸子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 安斎由貴子、桂晶子、坂東志乃、河原畑尚美、千葉洋子、二瓶映美、小野幸子(2018.12)  
:東日本大震災により津波被害を受けた高齢者の避難所での体験－震災直後から災害急性期に焦点をあてて－, 日本公衆衛生看護学会誌, 第7巻第3号,pp134 - 142(査読有)

3. 著書(1件)

- 1) 坪井桂子、岸上弥栄美、長谷川美智子、杉原陽子、秋定真有、田中智子、小野幸子(2018.10)  
:高齢者看護の実践力を育てる－高齢者ケア施設の看護をベースにして－, 終章(おわりに), 日本看護協会(東京)

4. 学会発表(1件)

- 1) 大倉由貴、原等子、河原畑尚美、小野幸子、小泉美佐子(2018.6): 認知症高齢者の心理的ニーズに関する検討－認知症対応型共同生活介護における3事例の分析から－,  
日本老年看護学会(久留米市)

5. その他の研究活動(3件)

- 1) 小野幸子、河原畑尚美、東條紀子、大倉由貴、原等子、大口洋子: 本県特別養護老人ホームに働く看護職が求める研修会、研究支援および共同研究の現状, 平成29年度新潟県立看護大学学内共同研究助成
- 2) 小野幸子、河原畑尚美、原等子、大口洋子、大倉由貴、東條紀子、坪井井恵子、山崎尚美: 特別養護老人ホームを拠点にした多職種連携教育のあり方: つまり地域多職種協働セミナー2018(看護基礎教育課程における高齢者支援のための多職種連携教育の構築), 平成30年度(2018年度)科学研究費助成(基盤研究C)
- 3) 大橋謙策、石井敏、植田誠、江森光芳、小野幸子、金子智代美、木村哲之、野口典子、山下聡理、山野良夫、秋葉都子、古屋博子、佐橋真理子、中島謙次: 特別養護老人ホームにおける個別ケアの手法開発に関する調査研究, 平成30年度、厚生科研 老人保健事業推進費等補助金

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会 代議員
- ・日本老年看護学会学会 代議員
- ・日本看護学教育学会 会員
- ・北日本看護学会 査読委員
- ・千葉看護学会 査読委員
- ・日本死の臨床研究会 会員
- ・日本認知症ケア学会 会員

- ・日本公衆衛生看護学会 会員
- ・日本災害看護学会 会員
- ・日本看護学会 会員
- ・日本看護管理学会 会員
- ・第 23 回日本難病看護学会学術集会 実行委員

#### 【社会活動】

- ・上越市情報公開・個人情報保護制度等審議会委員
- ・上越市・新潟県立看護大学連携事業 平成 30 年度医療・健康福祉フォーラム実行委員
- ・新潟県厚生農業協同組合連合会上越総合病院看護師の特定行為研修の評価委員
- ・一般社団法人 日本ユニットケア推進センター「ユニットケアのあり方と運営に関する研究会」研究委員
- ・厚生労働省平成 30 年度老人保健健康推進費等補助事業「特別養護老人ホームにおける個別ケアの手法開発に関する調査研究委員会」研究委員
- ・「つまり地域多職種協働セミナー―特養を拠点にした保健医療福祉の学生を対象にした多職種連携教育（3 日間）」の企画・運営
- ・一般社団法人 日本ユニットケア主催の特別養護老人ホームの看護職を対象とした研修会「高齢者の豊かな暮らしの継続をサポートする看護職としての役割」の講師
- ・新潟青陵大学大学院「大学院における授業・研究の指導方法について～経験を通じて～」の講演講師
- ・本学看護研究交流センター主催平成 30 年度公開講座いきいきサロン「予防可能な認知症は予防しよう～今からでも間に合う予防活動」の講師
- ・石巻新聞[女川仮設住宅住民の宮城大学教員・学生による 7 年間の支援]
- ・つまり地域多職種協働セミナー2018 年の企画・運営・評価および報告書作成（30 年 8 月 21 日～23 日に研修会実施）
- ・つまり地域多職種協働セミナー2019 年の企画
- ・東日本大震災における被災者支援（女川町仮設住民の復興住宅移行に伴う支援）
- ・生きる力を引き出す：特別養護老人ホーム「白駒の森」の紹介（日本看護協会機関紙「看護」への掲載）

#### 【学内教育活動】

学 部：老年看護学Ⅰ,老年看護学Ⅱ,老年看護学演習,老年看護学実習,総合実習,専門ゼミⅠ,専門ゼミⅡ,健康医療政策論,老年看護学特論Ⅰ

博士前期課程：老年看護学特論Ⅱ,老年看護学特論Ⅲ,老年看護学特論Ⅳ,老年看護学特別演習Ⅰ,老年看護学特別演習Ⅱ,老年看護学特別演習Ⅲ,老年看護学実習Ⅰ,老年看護学実習Ⅱ,老年看護学実習Ⅲ,老年看護学特別研究,専門分野別課題研究（老年看護 CNS コース）,看護学研究法

博士後期課程：老年看護学特論,看護学特別研究

### 【学内委員会等の活動】

倫理委員会委員長,教学委員会委員,入学委員会委員,法人ワーキンググループ委員,研究科委員会、教育研究審議会委員

研究倫理研修のコーディネーター,市民フォーラムにおける研修講師のコーディネーター,大学院非常勤講師の公開授業の企画運営（コーディネーター）

### 【外部資金獲得】

#### 1) 小野幸子(研究代表者)

河原畑尚美、原等子、大口洋子、大倉由貴、東條紀子、坪井桂子、山崎尚美(2018～2020)  
: 看護基礎教育課程における高齢者支援のための多職種連携教育の構築, 科学研究費助成事業(基盤研究 C)

#### 2) 河原畑尚美(研究代表者)

小野幸子(2018～2020): 看護基礎教育におけるケア倫理教育プログラムの構築, 科学研究費助成事業(基盤研究 C)

#### 3) 坪井桂子(研究代表者)

秋定真有、上瀬芙美代、小野幸子、山崎尚美(2018～2020): 高齢者ケア施設の看護職に向けた新員期看護師の教育支援ガイド作成と支援モデルの構築, 科学研究費助成事業(基盤研究 C)

原 等子

1. 原著論文(1 件)

- 1) 大口洋子, 原等子, 小泉美佐子(2019.3): 豪雪地帯に暮らす後期高齢者のストレスの検討, ルーラルナーシング学会誌, 14, pp1 - 13(査読有)

2. その他論文(1 件)

- 1) 原等子(2019.1): 【重度認知症高齢者のケアとリハビリテーション】ケアと家族支援, 臨床老年看護, 26(1), pp7 - 13(査読無)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(4 件)

- 1) 大倉由貴, 原等子, 河原畑直美, 小泉美佐子, 小野幸子(2018.6): 認知症高齢者の心理的ニーズに関する検討ー認知症対応型共同生活介護における 3 事例の分析からー, 日本老年看護学会第 23 回学術集会(福岡)
- 2) Naoko Hara, Kazuo Kariyama, Motoharu Kawai, Haruyuki Kamata, Kazuyo Hasegawa, Kyoko Eguchi and Noriyo Washizu(2018.7), An Analysis of the Results of the Questionnaire on Traffic Safety Given to People with Dementia and Family Caregivers in Japan, 33rd ANNUAL INTERNATIONAL CONFERENCE OF ALZHEIMER'S DISEASE INTERNATIONAL(CHICAGO, USA)
- 3) Morio Suzuki, Naoko Hara, Kayo Abe and Matsuyo Kamada(2018.7), An Expected Role and Ensuring Continuous Communication of the Association Related Dementia Stakeholders and Supporters Groups in JAPAN, 33rd ANNUAL INTERNATIONAL CONFERENCE OF ALZHEIMER'S DISEASE INTERNATIONAL(CHICAGO, USA)
- 4) 大口洋子, 原奈子, 小泉美佐子(2018.11): 豪雪地帯で暮らす独居後期高齢者のストレスの把握ー独居生活の A さんの場合ー, 第 13 回日本ルーラルナーシング学会学術集会(香川)

5. その他の研究活動(2 件)

- 1) 小野幸子, 原等子, 河原畑尚美, 大口洋子, 東條紀子, 大倉由貴: 本県特別養護老人ホームに働く看護職が求める研修および研究支援, 平成 29 年度新潟県立看護大学学内共同研究助成
- 2) 原等子, 大倉由貴, 大口洋子, 安楽大, 田中美紀: 若年認知症の本人と家族の診断後の生活再構築とピアサポートのあり方, 平成 30 年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・日本認知症ケア学会 評議員

- ・日本老年看護学会
- ・日本老年社会科学会
- ・日本看護科学学会
- ・日本虐待防止学会
- ・新潟口腔ケア研究会
- ・日本老年看護学会第 23 回学術集会
- ・第 19 回日本認知症ケア学会大会
- ・第 23 回日本難病看護学会学術集会

#### 【社会活動】

- ・日本看護協会第 49 回日本看護学会-在宅看護-論文選考委員
- ・国土交通省移動等円滑化評価会議委員
- ・認知症関係当事者・支援者連絡会議世話人
- ・社会福祉法人妙心福祉会特別養護老人ホームブナの里 10 周年記念講演会「認知症にやさしいまちをつくろう(認知症サポーター養成講座兼)」(講師 原等子, 認知症オレンジサークル) 2018 年 6 月 30 日
- ・上越市社会福祉協議会平成 30 年度権利擁護推進事業ミニ講座「いざという時あわてない～医療について～」講師 (ユートピアくびき希望館)2018 年 7 月 7 日
- ・上越市社会福祉協議会平成 30 年度権利擁護推進事業ミニ講座「いざという時あわてない～医療について～」講師 (上越市福祉交流プラザ)2018 年 12 月 15 日
- ・石川県立看護大学認知症看護認定看護師コース「認知症者の家族への支援 家族関係調整」講義 2018 年 8 月 23 日
- ・新潟県看護協会上越地区支部「精神的負担が軽くなる 認知症ケアの考え方のヒント」講師 2018 年 9 月 8 日
- ・佐渡看護専門学校「POTT 講演会」(講師 迫田綾子, 原等子) 2018 年 10 月 13 日
- ・社会福祉法人妙心福祉会特別養母老人ホームブナの里職員研修「POTT プログラム第 1 回(講師 原等子, 大倉由貴, 東条紀子) 2018 年 10 月 16 日
- ・社会福祉法人妙心福祉会特別養母老人ホームブナの里職員研修「POTT プログラム」第 2 回(講師 原等子, 大倉由貴, 東条紀子) 2018 年 11 月 2 日
- ・平成 30 年度一般社団法人新潟県歯科衛生士会第 2 回上越ブロック研修会「ユマニチュードについてー認知症の方の心をつかむケア技法ー」講師 2018 年 11 月 25 日
- ・社会福祉法人十日町福祉会 法人研修会「認知症の理解と援助方法」講師 2018 年 11 月 29 日
- ・平成 30 年度認知症の人と家族の会新潟県支部第 2 回世話人会「ユマニチュードについてー認知症の方の心をつかむケア技法ー」講師 2018 年 12 月 2 日
- ・JA 新潟中央会 新潟県 JA 保健・福祉ネットワーク「認知症の理解と援助」講師 2018 年 12 月 20 日
- ・上越高田東ロータリークラブ「認知症施策の方向性」講師 2019 年 1 月 28 日
- ・【出前講座】南本町 2 丁目みんなの茶の間「認知症という病気に対応する知恵をもとう」講師 2018 年 5 月 21 日

- ・【出前講座】仲五長寿会「認知症という病気に対応する知恵をもとう」講師 2018年7月1日
- ・【出前講座】御殿山老人会「認知症という病気に対応する知恵をもとう」講師 2018年8月6日
- ・【出前講座】知命堂病院看護部「認知症という病気に対応する知恵をもとう(認知症サポーター養成講座兼)」(講師 原等子, 認知症オレンジサークル) 2018年8月29日
- ・【出前講座】知命堂病院看護部「認知症の理解とその対応方法(認知症サポーターステップアップ講座兼)」講師 2018年8月29日
- ・【出前講座】妙高市生涯学習課第1回「認知症という病気に対応する知恵をもとう」講師 2018年8月29日
- ・【出前講座】妙高市生涯学習課第2回「わがごとまるごと認知症 地域の中で上手に付き合うには」講師 2018年10月11日
- ・【出前講座】子安とよばいきいきサロン「認知症という病気に対応する知恵をもとう」講師 2018年8月22日
- ・【出前講座】糸魚川市社会福祉協議会(根知地区公民館)「認知症, 怖い病気から共に歩む病気に」講師 2018年11月26日
- ・【出前講座】上越市社会福祉協議会板倉支所「認知症のこと知りたい(知りたい入門編)」講師 2018年12月21日
- ・【出前講座】上越市社会福祉協議会板倉支所「認知症のこと知りたい(もっと知りたい中級編)」講師 2019年1月25日
- ・【出前講座】糸魚川地区公民館「認知症について知ろう～認知症になっても本人も周りも笑顔でいられるコツ～」講師 2019年2月17日
- ・【出前講座】高田第3地区民生委員児童委員協議会「認知症について知ろう～認知症になっても本人も周りも笑顔でいられるコツ～」講師 2019年2月18日
- ・認知症で複数回不明が8割近く(NHK兵庫・神戸ニュース) 2018年12月11日
- ・認知症の行方不明調査 家族の6割経験 初期で介護軽い時期に(毎日新聞大阪) 2019年1月11日朝刊12面
- ・公益社団法人認知症の人と家族の会 本部理事
- ・公益社団法人認知症の人と家族の会 新潟県支部世話人
- ・上越オレンジサポーター, RUN伴上越世話人
- ・ポジショニングで食べる喜びを伝える(POTT)プロジェクト北陸ブロック指導者研修会主催(新潟県立看護大学, 2018年4月28日)
- ・ポジショニングで食べる喜びを伝える(POTT)プロジェクト北陸信越ブロック指導者研修会主催(長野市民病院, 2019年3月3日)
- ・新潟日報社・新潟県社会福祉協議会・上越市社会福祉協議会主催「福祉・介護・健康フェア 2018in 上越」新潟県立看護大学 TEAM 老年(小野幸子, 原等子, 河原畑尚美, 大倉由貴, 東條紀子, 大口洋子, 大学院修了生)として日ごろの教育研究成果のブース展示
- ・認知症関係当事者・支援者連絡会議主催「認知症で日本をつなぐシンポジウム 2018」実行委員(東京都医師会館, 2018年9月16日)

### 【学内教育活動】

学 部：ライフステージと看護,老年看護学Ⅰ,老年看護学Ⅱ,老年看護学演習,老年看護学  
実習,総合実習,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：老年看護学特論Ⅰ,老年看護学特論Ⅱ,老年看護学特論Ⅲ,老年看護学特論Ⅳ,  
老年看護学特別演習Ⅱ,老年看護学特別演習Ⅲ,専門分野別課題実習<老年  
高度実践看護実習Ⅱ>,専門分野別課題実習<老年高度実践看護実習Ⅲ>,  
フィジカルアセスメント,専門分野別課題研究（CNS コース）

博士後期課程：なし

### 【学内委員会等の活動】

実習委員会委員,FD 委員会委員,国家試験対策・就職委員会委員,看護研究交流センター先  
駆的学習支援部門員

認知症オレンジサークルサークル顧問

### 【外部資金獲得】

#### 1) 小野幸子(研究代表者)

河原畑直美, 大倉由貴, 大口洋子, 原等子ほか(2018～2020)：護基礎教育課程におけ  
る高齢者支援のための多職種連携教育の構築, 科学研究費助成事業(基盤研究 C)

#### 2) 柳澤美直代(研究代表者)

原等子(2018～2018)：POTT プログラムを学ぼう!, 公益社団法人フランスベッド・  
メディカルホームケア研究・助成

#### 3) 山岸麗(研究代表者)

上越オレンジサポーター(2018～2018)：認知症にやさしい地域づくり in 直江津事業,  
上越市地域支援事業

#### 4) 原等子(研究代表者)

鈴木和代, 江口恭子, 荻山和生(2017～2018)：認知症の人の行方不明や徘徊, 自動車  
運転にかかわる実態調査, 東京海上日動火災保険株式会社助成

河原畑 尚美

1. 原著論文(1件)

- 1) 安齋由貴子 桂晶子 坂東志乃 河原畑尚美 千葉洋子 二瓶映美 小野幸子 (2018.12), 東日本大震災により津波被害を受けた高齢者の避難所での体験—震災直後から災害急性期に焦点をあてて—, 日本公衆衛生看護学会誌, 第7巻第3号, pp134-142(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(2件)

- 1) 大倉由貴, 原等子, 河原畑尚美, 小野幸子, 小泉美佐子(2018.6): 認知症高齢者の心理的ニーズに関する検討—認知症対応型共同生活介護における3事例の分析から—, 日本老年看護学会第23回学術集会(福岡県久留米市)
- 2) 山田正実、河原畑尚美、大口洋子、野口裕子、高島葉子(2018.8): 既存インフラである大学サーバーを活用した学生の安否連絡訓練の評価, 日本災害看護学会(神戸市)

5. その他の研究活動(1件)

- 1) 小野幸子(研究代表者), 原等子, 河原畑尚美, 大口洋子, 東條紀子, 大倉由貴: 本県特別養護老人ホームに働く看護職が求める研修及び研究支援, 平成29年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・日本老年看護学会 会員
- ・日本看護学教育学会 会員
- ・日本看護科学学会 会員
- ・日本死の臨床研究会 会員
- ・日本災害看護学会 会員
- ・北日本看護学会 会員
- ・日本感染看護学会 会員
- ・日本循環器看護学会 会員
- ・日本認知症ケア学会 会員
- ・大学病院の緩和ケアを考える会 会員
- ・日本公衆衛生看護学会 会員
- ・第23回日本難病看護学会学術集会 実行委員

【社会活動】

- ・上越災害医療コーディネーターチーム員(上越地域振興局健康福祉環境部管轄)

- ・上越市地域包括支援センター運営協議会委員
- ・つまり地域多職種協働セミナー，企画委員、ファシリテーター
- ・平成30年度 上越地域看護研究発表会 実行委員
- ・卒業者支援（6～7名）茶話会の開催
- ・老人CNS、修士修了者学習会の支援

#### 【学内教育活動】

学 部：老年看護学Ⅰ，老年看護学Ⅱ，老年看護学演習，老年看護学実習，専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ，総合実習

博士前期課程：老年看護学特論Ⅰ，老年看護学特論Ⅱ，老年看護学特論Ⅲ，老年看護学特論Ⅳ，老年高度実践看護実習Ⅰ，老年高度実践看護実習Ⅱ，老年看護学特別演習Ⅲ，老年看護学特別研究

博士後期課程：なし

#### 【学内委員会等の活動】

災害時看護支援特別委員会副委員長，学生委員会委員，教務委員会委員，看護研究交流センター地域課題研究開発部門員

#### 【外部資金獲得】

1) 河原畑尚美(研究代表者)

小野幸子（2018～2020）：看護基礎教育における高齢者のケア倫理教育プログラムの開発，科学研究費助成事業(基盤研究C)

2) 小野幸子(研究代表者)

河原畑尚美 原等子 大口洋子 東條紀子 大倉由貴 坪井桂子 山崎尚美(2018～2020)：看護基礎教育課程における高齢者支援のための多職種連携教育の構築，科学研究費助成事業(基盤研究C)

小池 潤

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

**【学会等における活動】**

なし

**【社会活動】**

なし

**【学内教育活動】**

学 部：老年看護学Ⅱ, 老年看護学Ⅰ, 老年看護学演習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習, 老年看護学実習

博士前期課程：老年看護学特論Ⅰ, 老年看護学特論Ⅱ, 老年看護学特論Ⅲ, 老年看護学特論Ⅳ, 老年看護学特別演習Ⅰ, 老年看護学特別演習Ⅱ, 老年看護学特別演習Ⅳ, 老年高度実践看護実習Ⅰ, 老年高度実践看護実習Ⅱ, 老年高度実践看護実習Ⅲ

博士後期課程：老年看護学特論, 看護学特別研究

**【学内委員会等の活動】**

図書委員会委員, 看護研究交流センター看護職学習支援部門員  
保健指導員

**【外部資金獲得】**

なし

大口 洋子

1. 原著論文(1件)

- 1) 大口洋子、原等子、小泉美佐子(2019.3)、豪雪地帯に暮らす後期高齢者のストレスの検討、日本ルーラルナーシング学会誌、14,pp1 - 13(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(2件)

- 1) 大口洋子(2018.11): 豪雪地帯に暮らす独居高齢者のストレスの把握ー独居生活の A さんの場合-, 第 13 回日本ルーラルナーシング学会学術集会(香川県高松市)
- 2) 山田正美、河原畑尚美、大口洋子、野口裕子、高島葉子(2018.8): 既存インフラである大学サーバーを活用した学生の安否連絡訓練の評価, 日本災害看護学会(兵庫県神戸市)

5. その他の研究活動(3件)

- 1) 小野幸子,河原畑尚美, 原等子, 東條紀子, 大口洋子, 大倉由貴: 看護基礎教育課程における高齢者支援のための多職種連携教育の構築, 平成 29 年度新潟県立看護大学学内共同研究助成
- 2) 大口洋子、長谷川雅美、田口玲子、後田穰: 高齢者が自己のストレスを自覚するための方法を明らかにするーストレスモデルを活用した論文についての文献検討-, 平成 30 年度新潟県立看護大学学内共同研究助成
- 3) 原等子、大倉由貴、大口洋子: 軽度認知症の本人と家族の診断後の生活再構築とピアサポートのあり方, 平成 30 年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 第 23 回日本難病看護学会
- ・ 日本老年看護学会
- ・ 日本ルーラルナーシング学会
- ・ 日本認知症ケア学会
- ・ 日本災害看護学会

【社会活動】

- ・ (公社) 認知症の人と家族の会
- ・ 新潟県認知症ケア専門士会
- ・ うつ病当事者の会ボランティアとして参加 (2019 年 3 月 1 日より)
- ・ 津南町指導者のための精神保健講座に助言者として参加 (2018 年 11 月 8 日)
- ・ POOT プロジェクト 北陸・北関東ブロック指導者研修会 (2018 年 4 月 28 日 新潟県立看護大学)

- ・「つまり地域多職種連携・協働セミナー2018」（2018年8月21日から23日 十日町市市民交流センター）
- ・「福祉・介護・健康フェア 2018in 上越」ブース展示と介護体験発表（2018年11月23日 高田公園オーレンプラザ）

#### 【学内教育活動】

学 部：専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ,精神看護学Ⅰ,精神看護学Ⅱ,精神看護学演習,精神看護学実習,総合実習

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

#### 【学内委員会等の活動】

災害時看護支援特別委員会委員,学生委員会委員,看護研究交流センター先駆的学習支援部門員

#### 【外部資金獲得】

1) 小野幸子(研究代表者)

河原畑尚美, 原等子, 東條紀子, 大倉由貴, 大口洋子(2018~2020): 看護基礎教育課程における高齢者支援のための多職種連携教育の構築, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

大倉 由貴

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1件)

1) 大倉由貴, 原等子, 河原畑尚美, 小泉美佐子, 小野幸子(2018.6): "認知症高齢者の心理的ニーズに関する検討—認知症対応型共同生活介護における3事例の分析から—", 日本老年看護学会第23回学術集会(福岡県久留米市)

5. その他の研究活動(3件)

- 1) 小野幸子, 河原畑尚美, 原等子, 大口洋子, 大倉由貴, 東條紀子, 坪井桂子, 山崎尚美: 看護基礎教育課程における高齢者支援のための多職種連携教育の構築, 科学研究費助成 平成30年度(2018年度)基盤研究(C)(一般)
- 2) 小野幸子, 河原畑尚美, 大口洋子, 大倉由貴, 東條紀子: 県内特別養護老人ホームの看護職が求める研修会, 研究支援および共同研究の現状, 学内共同研究助成
- 3) 原等子, 大倉由貴, 大口洋子, 安楽大, 田中美紀: 軽度認知症の本人と家族の診断後の生活再構築とピアサポートのあり方, 学内共同研究助成

#### 【学会等における活動】

- ・日本老年看護学会 会員
- ・日本認知症ケア学会 会員
- ・日本難病看護学会 実行委員

#### 【社会活動】

- ・公益社団法人認知症の人と家族の会
- ・POTT(ポジショニングで食べる喜びを伝える)プログラム研修会
  - ①2018年4月28日 第1回 POTT プロジェクト北陸ブロック指導者研修会(企画・ファシリテーター)
  - ②2018年10月16日, 11月6日 特別養護老人ホームブナの里 POTT 研修会(ファシリテーター)
  - ③2019年3月3日 第3回 POTT プロジェクト北陸ブロック指導者研修会(企画・ファシリテーター)"
- ・2018年9月15日 RUN 伴(ランとも)上越(救護, 当日協力者)
- ・2018年11月23日 福祉, 介護, 健康フェア 2018in 上越 情報展示コーナーブース出展(企画補助)

・2019年2月23日 認知症にやさしい地域づくり in 直江津（実行委員）

【学内教育活動】

学 部：総合実習,老年看護学演習,老年看護学実習,老年看護学Ⅱ,老年看護学Ⅰ

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター看護職学習支援部門員,先駆的学習支援部門員

【外部資金獲得】

1) 小野幸子(研究代表者)

河原畑尚美,原等子,大口洋子,大倉由貴,東條紀子,坪井桂子,山崎尚美(2018～2020):看護基礎教育課程における高齢者支援のための多職種連携教育の構築,科学研究費助成事業(基盤研究 A)

東條 紀子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(2件)

- 1) 東條紀子, 平澤則子, 川野英子, 飯吉令枝(2018.7): 訪問看護師による高齢の療養者と主介護者への在宅移行期における支援, 日本在宅ケア学会(大阪)
- 2) 東條紀子, 前川絵里子(2018.7): 難病患者のQOL尺度に関する文献検討, 日本難病看護学会(新潟)

5. その他の研究活動(1件)

- 1) 小野幸子, 河原畑尚美, 東條紀子, 原等子, 大口洋子, 大倉由貴: 県内特別養護老人ホームの看護職が求める研修会, 研究支援および共同研究の現状, 2018年度新潟県立看護大学共同研究助成
- 2) 川野英子, 東條紀子: 訪問看護ステーション実習時における終末期ケアに関する学習内容の現状と実習指導上の課題, 笹川記念保健協力財団 2018年度ホスピス緩和ケアに関する研究助成

#### 【学会等における活動】

- ・日本看護学教育学会 (会員)
- ・日本老年看護学会 (会員)
- ・日本在宅ケア学会 (会員)
- ・日本難病看護学会 (会員)
- ・日本看護研究学会 (会員)
- ・第23回日本難病看護学会 企画委員

#### 【社会活動】

- ・県内特別養護老人ホームの看護職が求める研修会, 研究支援および共同研究の現状
- ・POTT プロジェクト北陸ブロック指導者研修会 (2018.4月新潟) 企画・ファシリテーター
- ・POTT プロジェクト北陸ブロック指導者研修会 (2019.3月長野) 企画・ファシリテーター
- ・POTT 研修会 (2018.10月, 11月ブナの里) 研修補助

#### 【学内教育活動】

学 部: 総合実習, 老年看護学演習, 老年看護学実習, 老年看護学Ⅱ, 老年看護学Ⅰ

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

**【学内委員会等の活動】**

看護研究交流センター看護職学習支援部門員

**【外部資金獲得】**

1) 小野幸子(研究代表者)

河原畑尚美，原等子，大口洋子，大倉由貴，東條紀子(2018～2020)：看護基礎教育課程における高齢者支援のための多職種連携教育の構築，科学研究費助成事業(基盤研究 C)

長谷川 雅美

1. 原著論文(1件)

- 1) Koji tanaka, Masami Hasegawa, Yutaka Nagayama, Masato Oe(2018.4) : Nursing Philosophy of community mental health nurses in Japan: A qualitative, descriptive study, International Journal of Mental Health Nursing , Volume 27 Issue 2,pp765 - 773(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1件)

- 1) 長谷川雅美(2018.12): プロセスレコードにおける教員の効果的指導・評価スキルの検討, 日本看護科学学会(愛媛県松山市)

5. その他の研究活動(3件)

- 1) 長谷川雅美, 田口玲子, 後田穰, 安達寛人 : プロセスレコードにおける教員の効果的指導・評価スキルの検討, 平成30年度学長裁量経費助成研究
- 2) 小瀬古伸幸, 進あすか, 田中浩二, 長谷川雅美 : WRAP (Wellness Recovery Action Plan) の視点を取り入れた看護計画に基づく精神科訪問看護の効果, 優美財団助成研究
- 3) 大口洋子, 長谷川雅美, 田口玲子, 後田穰 : 高齢者が自己のストレングスを自覚するための方法を明らかにする, 平成30年度新潟県立看護大学学長裁量経費助成研究

【学会等における活動】

- ・日本精神保健看護学会評議員
- ・日本うつ病学会多職種連携委員, 双極性障害委員, 倫理委員, 学会賞選考委員
- ・日本周産期メンタルヘルス学会顧問
- ・日本看護研究学会査読委員
- ・看護実践学会査読委員
- ・新潟大学看護研究査読委員

【社会活動】

- ・上越市ご当地ナンバー導入検討会議副会長
- ・新潟県精神保健福祉協会上越支部理事
- ・上越市自殺予防対策連携会議委員
- ・上越市市民大学講座コーディネーター
- ・石川県看護協会実習指導者講習会講師
- ・石川県助産師職能研修会講師
- ・魚沼市自殺予防対策研修会講師

- ・南魚沼市自殺予防対策研修会講師
- ・津南町自殺予防対策研修会講師
- ・上越市自殺予防対策研修会講師
- ・日総研出版「プロセスレコード」研修会講師
- ・うつ病当事者グループ U フレンズ主宰
- ・上越うつ病当事者会主宰

#### 【学内教育活動】

学 部：精神看護学Ⅱ,国際看護活動論

博士前期課程：精神看護学特論,精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱ,精神看護学特別演習,看護学領域別特別研究,看護学研究法

博士後期課程：精神看護学特論,看護学特別研究

#### 【学内委員会等の活動】

自己点検・評価特別委員会委員長,ハラスメント防止特別委員会委員長,外部評価特別委員会委員,情報ネットワーク特別委員会委員,教学委員会委員

#### 【外部資金獲得】

なし

田口 玲子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 塩谷幸祐, 田口玲子, 安達寛人, 境原三津夫(2019.3), A 県の指定通院医療機関における多職種チームの実態と課題, 新潟看護ケア研究学会誌, 5,pp16 - 21(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(5件)

- 1) 塩谷幸祐, 田口玲子, 安達寛人, 境原三津夫(2018.10): A 県の指定通院医療機関における多職種チームの実態と課題, 新潟看護ケア研究学会 第 10 回学術集会(新潟)
- 2) 伊藤ひかる, 安達寛人, 後田穰, 田口玲子(2018.8): 日本近代看護の先駆者大関和の思想的背景について一様々な人との関わりにおいて一, 日本看護歴史学会 第 32 回学術集会(広島)
- 3) 安達寛人, 田口玲子, 塩谷幸祐(2018.12): 豪雪地域で生活を継続している精神障がい者の経験, 第 38 回日本看護科学学会学術集会(愛媛)
- 4) 長谷川雅美, 田口玲子, 後田穰, 安達寛人(2018.12): プロセスレコードにおける教員の効果的指導・評価スキルの検討, 第 38 回日本看護科学学会学術集会(愛媛)
- 5) 塩谷孝祐, 田口玲子, 安達寛人, 境原三津夫(2018.6): 医療観察法入院処遇対象者の通院処遇への移行を促進するために一A 県の指定通院医療機関における調査から一, 第 14 回日本司法精神医学会(山口市)

5. その他の研究活動(2件)

- 1) 大口洋子, 安達寛人, 後田穰, 田口玲子, 長谷川雅美: ストレングスモデルを活用した実践介入についての文献検討, 平成 30 年度新潟県立看護大学学内共同研究助成
- 2) 長谷川雅美, 田口玲子, 後田穰, 安達寛人: プロセスレコード演習における教員の効果的指導・評価スキルの検討一教員のプロセスレコードによる学生との相互作用の分析から一, 平成 29 年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

**【学会等における活動】**

- ・日本看護科学学会
- ・日本看護研究学会
- ・日本精神保健看護学会
- ・日本カウンセリング学会
- ・日本カウンセリング学会 認定カウンセラー会
- ・日本心理臨床学会
- ・日本看護歴史学会
- ・新潟看護ケア研究学会 評議員

- ・新潟看護ケア研究学会 査読委員
- ・第 23 回日本難病看護学会学術集会 実行委員
- ・2018 年新潟看護ケア研究学会 第 10 回学術集会 一般演題（口演発表） 2 群 座長

#### 【社会活動】

- ・新潟労災病院倫理委員会平成 30 年度委員
- ・新潟労災病院医学系研究利益相反管理委員会平成 30 年度委員
- ・さいがた医療センター看護研究指導「臨床看護研究について（講演）」講師
- ・さいがた医療センター看護研究指導「第 1 回 グループ指導」講師
- ・さいがた医療センター看護研究指導「第 2 回 グループ指導」講師
- ・さいがた医療センター看護研究指導「第 3 回 グループ指導」講師
- ・さいがた医療センター看護研究指導「第 4 回 グループ指導」講師
- ・さいがた医療センター看護研究指導「第 5 回 グループ指導」講師
- ・さいがた医療センター看護研究指導「第 6 回 グループ指導」講師
- ・さいがた医療センター看護研究指導「看護研究発表会」総評
- ・うつ病当事者の会（仮称）

#### 【学内教育活動】

学 部：精神看護学Ⅰ,精神看護学Ⅱ,精神看護学演習,精神看護学実習,総合実習,看護倫理,  
 専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ,看護研究法  
 博士前期課程：看護倫理特論,看護コンサルテーション論,がん看護学特別演習Ⅰ,精神看護  
 学特論,精神看護学援助論Ⅰ,精神看護学援助論Ⅱ,精神看護学特別演習  
 博士後期課程：精神看護学特論

#### 【学内委員会等の活動】

国家試験対策・就職委員会委員長,教務委員会委員,ハラスメント防止特別委員会委員,看護  
 研究交流センター先駆的学習支援部門員

#### 【外部資金獲得】

なし

後田 穰

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 佐々木美奈子,加藤栄子,後田穰(2018.3): 公立精神科病院における精神科看護技術と職業経験の質に関する検討—個人属性及び精神科に勤務する理由との関連から—,新潟看護ケア研究学会誌, Vol.4,pp23 - 31(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(2件)

- 1) 伊藤ひかる,安達寛人,後田 穰,田口玲子(2018.8): 日本近代看護の先駆者大関和の思想的背景について—様々な人との関わりにおいて—, 日本看護歴史学会第32回学術集会(広島県呉市)
- 2) 長谷川雅美,田口玲子,後田 穰,安達寛人(2018.12): プロセスレコードにおける教員の効果的指導・評価スキルの検討, 第38回日本看護科学学会学術集会(愛媛県)

5. その他の研究活動(1件)

- 1) 長谷川雅美,田口玲子,後田穰,安達寛人: プロセスレコード演習における教員の効果的指導・評価スキルの検討—教員のプロセスレコードによる学生との相互作用の分析から—, 平成29年度新潟県立看護大学学内共同研究

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会
- ・日本看護管理学会
- ・日本看護歴史学会
- ・日本精神医学史学会
- ・日本集団精神療法学会
- ・日本精神保健福祉学会
- ・新潟看護ケア研究学会

【社会活動】

- ・社会福祉法人 てりてりかんぱにい後援会はあぶ (2018.1～)
- ・うつ病者の会支援員(2019.3～)
- ・新潟県立精神医療センター看護部研究指導(2018.4～2019.1)

【学内教育活動】

学 部：精神看護学Ⅱ,精神看護学演習,精神看護学実習,総合実習,精神看護学ゼミナールⅠ,精神看護学ゼミナールⅡ

博士前期課程：精神看護学特論,精神看護学援助論Ⅱ

博士後期課程：なし

**【学内委員会等の活動】**

実習委員会委員,国家試験対策・就職委員会委員,入試・広報委員会委員,図書委員会委員

**【外部資金獲得】**

なし

安達 寛人

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 塩谷幸祐, 田口玲子, 安達寛人, 境原三津夫(2019.3), A 県の指定通院医療機関における多職種チームの実態と課題, 新潟看護ケア研究学会誌, 5,pp16 - 21(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(5件)

- 1) 安達寛人, 田口玲子, 塩谷幸祐(2018.12): 豪雪地域で生活を継続している精神障がい者の経験, 第38回日本看護科学学会学術集会(愛媛)
- 2) 伊藤ひかる, 安達寛人, 後田穰, 田口玲子(2018.8): 日本近代看護の先駆者大関和の思想的背景について一様々な人との関わりにおいて一, 日本看護歴史学会第32回学術集会(広島)
- 3) 塩谷幸祐, 田口玲子, 安達寛人, 境原三津夫(2018.10): A 県の指定通院医療機関における多職種チームの実態と課題, 新潟看護ケア研究学会第10回(新潟県)
- 4) 長谷川雅美, 田口玲子, 後田穰, 安達寛人(2018.12): プロセスレコードにおける教員の効果的指導・評価スキルの検討, 第38回日本看護科学学会学術集会(愛媛)
- 5) 塩谷孝祐, 田口玲子, 安達寛人, 境原三津夫(2018.6): 医療観察法入院処遇対象者の通院処遇への移行を促進するために一A 県の指定通院医療機関における調査から一, 第14回日本司法精神医学会(山口市)

5. その他の研究活動(2件)

- 1) 安達寛人, 中村幸恵, 永吉雅人, 岡村典子: 医療観察法病棟における勤務計画表作成の実体, 平成29年度新潟県立看護大学学内共同研究助成
- 2) 長谷川雅美, 田口玲子, 後田穰, 安達寛人: プロセスレコードにおける教員の効果的指導・評価スキルの検討, 平成29年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会 会員
- ・日本看護歴史学会 会員
- ・日本精神保健看護学会 会員
- ・新潟看護ケア研究学会 会員
- ・第23回 日本難病看護学会学術集会

【社会活動】

- ・うつ病者の会の運営

**【学内教育活動】**

学 部：精神看護学Ⅱ,精神看護学演習,精神看護学実習,総合実習 精神看護学

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

**【学内委員会等の活動】**

看護研究交流センター地域社会貢献部門員,地域課題研究開発部門員

**【外部資金獲得】**

なし

伊藤 ひかる

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1件)

- 1) 伊藤ひかる, 安達寛人, 後田穰, 田口玲子(2018.8): 日本近代看護の先駆者 大関和の思想的背景について一様な人との関わりにおいて一, 日本看護歴史学会 第32回学術集会(広島文化学園大学 呉・阿賀キャンパス 看護学部)

5. その他の研究活動(なし)

**【学会等における活動】**

- ・第23回日本難病看護学会学術集会/実行委員

**【社会活動】**

- ・うつ病当事者の会

**【学内教育活動】**

学 部：精神看護学演習,精神看護学実習,総合実習

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

**【学内委員会等の活動】**

看護研究交流センター地域社会貢献部門員

**【外部資金獲得】**

なし

平澤 則子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 高林知佳子, 平澤則子, 飯吉令枝, 井上智代, 野口裕子, 久保野裕子(2019.3): 専門職における住民との協働によるパートナーシップ型地域診断実習の認識, 新潟県立看護大学紀要, 8, pp9 - 16(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(5件)

- 1) 野口裕子, 川野英子, 平澤則子, 飯吉令枝(2018.7): 難病療養者の災害時個別支援計画に関する文献検討, 第23回日本難病看護学会学術集会(上越市)
- 2) 前川絵里子 平澤則子 飯吉令枝(2018.7): 難病保健を担当する保健所保健師の活動の特徴, 第23回日本難病看護学会学術集会(上越市)
- 3) 高林知佳子, 平澤則子, 飯吉令枝, 井上智代, 野口裕子, 久保野裕子(2018.10): 専門職における住民との協働によるパートナーシップ型地域診断実習の認識, 日本公衆衛生学会総会(福島市)
- 4) 高野真弓, 平澤則子, 飯吉令枝(2019.1): 熟練保健師が処遇困難事例を担当する保健師に行う相談支援, 第7回日本公衆衛生看護学会学術集会(宇部市)
- 5) 東條紀子, 平澤則子, 川野英子, 飯吉令枝(2018.7): 訪問看護師による高齢の療養者と主介護者への在宅移行期における支援, 日本在宅ケア学会(大阪)

5. その他の研究活動(2件)

- 1) 井上智代, 高林知佳子, 平澤則子, 飯吉令枝, 野口裕子, 久保野裕子: 住民との協働によるパートナーシップ型地域診断実習が地域に与える影響ー2年間の継続介入の影響分析ー, 新潟県立看護大学学内共同研究助成
- 2) 藤井和子, 笠原芳隆, 矢島猛, 池田吉史, 佐藤ゆかり, 留目宏美, 平澤則子, 野口裕子, 永井弘子, 他5名: 特別支援教育における多職種連携に基づく子bwつの教育支援計画作成・支援会議の実践的検討ー多職種との連携による学習会を通してー, 上越教育大学研究プロジェクト

【学会等における活動】

- ・日本難病看護学会理事
- ・日本ルーラル看護学会
- ・日本在宅ケア学会代議員
- ・日本地域看護学会代議員
- ・日本看護科学学会評議員
- ・日本公衆衛生学会

- ・日本公衆衛生看護学会
- ・第23回日本難病看護学会学術集会

#### 【社会活動】

- ・新潟県保健師人材育成・評価委員会委員
- ・上越市健康福祉部指定管理者選定委員会委員
- ・上越市総合計画審議会委員
- ・上越市こども・子育て会議委員
- ・魚沼市自殺対策会議委員
- ・新潟県地域自殺対策強化事業 新潟県高齢者自殺対策人材養成等事業講師
- ・佐渡地域健康福祉環境部保健師業務研究会講師
- ・全国保健師長会新潟県支部研修会講師
- ・上越市男女共同参画推進センター研修会講師
- ・新潟県保健所保健師会研修会講師
- ・NPO法人新潟難病支援ネットワーク
- ・NPO法人上越元気塾
- ・上越歩みの会
- ・短期入所施設の看護職が長期利用者のケアにおいて認識する課題

#### 【学内教育活動】

学 部：地域看護学概論,公衆衛生看護学概論,総合科目,公衆衛生看護管理論,疫学,公衆衛生看護論演習,公衆衛生看護学実習,総合実習,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：地域看護学特論,地域看護学援助論Ⅰ,地域看護学特別演習,看護研究法,地域看護学援助論Ⅱ

博士後期課程：なし

#### 【学内委員会等の活動】

FD 委員会委員長,自己点検評価委員会委員,教学委員会委員,ハラスメント防止委員会委員,法人ワーキング委員,看護研究交流センター看護職学習支援部門長

#### 【外部資金獲得】

1) 渡邊路子(研究代表者)

鈴木宏,中平浩人,平澤則子(2016～2018)：ウェアラブル活動量計を併用した運輸業従事者への包括的睡眠支援システム構築, 科学研究費助成事業 (挑戦的研究萌芽)

飯吉 令枝

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 高林知佳子, 平澤則子, 飯吉令枝, 井上智代, 野口裕子, 久保野裕子(2019.2): 専門職における住民との協働によるパートナーシップ型地域診断実習の認識, 新潟県立看護大学紀要, 8, pp9 - 16(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(6件)

- 1) 野口裕子, 川野英子, 平澤則子, 飯吉令枝(2018.7): 難病療養者の災害時個別支援計画に関する文献検討, 第23回日本難病看護学会学術集会(上越市)
- 2) 飯吉令枝, 井上智代, 井比祐未(2018.10): 住民代表者と専門職からみた A 豪雪地域に暮らす高齢者の栄養・食生活行動の現状と課題, 第77回日本公衆衛生学会総会(郡山)
- 3) 高林知佳子, 平澤則子, 飯吉令枝, 井上智代, 野口裕子, 久保野裕子(2018.10): 住民との協働によるパートナーシップ型地域診断実習が地域に与える影響, 第77回日本公衆衛生学会総会(郡山)
- 4) 井比祐未, 井上智代, 飯吉令枝(2018.10): 豪雪地域の食生活におけるソーシャル・キャピタルの現状, 第77回日本公衆衛生学会総会(郡山)
- 5) 高野真弓, 平澤則子, 飯吉令枝(2019.1): 熟練保健師の処遇困難事例を担当する保健師に行う相談支援, 第7回日本公衆衛生看護学会学術集会(山口)
- 6) 東條紀子, 平澤則子, 川野英子, 飯吉令枝(2018.7): 訪問看護師による高齢の療養者と主介護者への在宅移行期における支援, 日本在宅ケア学会(大阪)

5. その他の研究活動(1件)

- 1) 北村千章, 野沢祥子, 飯吉令枝, 井上智代, 西條竜也: 先天性疾患を持つ子どもがひとり立ちするための父親の協力, 平成30年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 題 23 回日本難病看護学会学術集会

【社会活動】

- ・ 上越市介護保険運営協議会 副委員長
- ・ 妙高市介護保険運営協議会 委員
- ・ 看護学生地域・在宅看護実習指導者研修会講師
- ・ 上越保健所管内新採用研修「第1回事例検討」講師
- ・ 上越保健所管内新採用研修「第2回場面の再構成」講師
- ・ 上越保健所管内新採用研修「第3回地域診断」講師

・保健師国家試験問題解説(医学書院)

**【学内教育活動】**

学 部：公衆衛生看護技術論 I ,公衆衛生看護活動論 I ,公衆衛生看護学演習,公衆衛生看護学実習,在宅看護論演習,在宅看護論実習

博士前期課程：地域看護学方法論,地域看護学援助展開論,地域看護学特別演習

博士後期課程：なし

**【学内委員会等の活動】**

教務委員会委員,災害時看護支援特別委員会委員,倫理委員会委員,看護研究交流センター地域課題研究開発部門長

**【外部資金獲得】**

1) 飯吉令枝(研究代表者)

井上智代(2018～2020)：豪雪地域高齢者の運転免許返納後の健康・生活行動とその要因に関する縦断的研究，科学研究費助成事業(基盤研究 C)

高林 知佳子

1. 原著論文(1件)

- 1) 高林知佳子, 坪倉繁美(2018.4): 親の介護をしながら働く女性看護師のワーク・ファミリー・コンフリクト尺度の開発 信頼性・妥当性の検討, 日本健康医学会雑誌, 27(1),pp34 - 43(査読有)

2. その他論文(1件)

- 1) 高林知佳子, 平澤則子, 飯吉令枝, 井上智代, 野口裕子, 久保野裕子(2019.3): 専門職における住民との協働によるパートナーシップ型地域診断実習の認識, 新潟県立看護大学紀要, 8,pp9 - 16(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(2件)

- 1) 高林知佳子, 平澤則子, 飯吉令枝, 井上智代, 野口裕子, 久保野裕子(2018.10): 住民との協働によるパートナーシップ型地域診断実習が地域に与える影響 - 専門職の総合実習に対する認識を通して -, 第 77 回日本公衆衛生学会(福島)
- 2) 井上智代, 高林知佳子, 駒形三和子(2018.7): パーキンソン病による嚥下障害におけるリハビリテーションについての文献検討, 日本難病看護学会(新潟)

5. その他の研究活動(1件)

- 1) 井上智代, 高林知佳子, 平澤則子, 飯吉令枝, 野口裕子, 久保野裕子: 住民との協働によるパートナーシップ型地域診断実習が地域に与える影響 - 2 年間の継続介入の影響分析 -, 平成 30 年新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・日本公衆衛生学会 会員
- ・日本看護科学学会 会員
- ・日本地域看護学会 会員
- ・日本健康教育学会 会員
- ・日本生殖看護学会 会員
- ・日本看護管理学会 会員
- ・日本難病看護学会 会員
- ・北陸公衆衛生学会会員 会員
- ・第 23 回日本難病看護学会事務局

【社会活動】

- ・妙高市こころと命のネットワーク会議委員
- ・上越市健康づくり推進協議会委員

- ・妙高市健康づくり推進協議会委員
- ・新潟県国民健康保険団体連合会保健事業支援・評価委員会委員
- ・富山福祉短期大学非常勤講師
- ・高田ロータリークラブ平成30年11月例会研修講師
- ・平成30年度上越圏域採用3年目から5年目保健師研修会講師
- ・平成30年度第3回柏崎市保健師現任研修会講師
- ・妙高市こころと命のネットワーク会議の活動について（JCV妙高チャンネル）
- ・新潟県立看護大学地域看護学通信（第1号）発行：妙高市上町地区用
- ・新潟県立看護大学地域看護学通信（第1号）発行：妙高市猪野山地区用
- ・妙高市自殺対策強化月間広報活動
- ・平成30年度上越市・新潟県立看護大学連携事業「医療・健康福祉市民フォーラム」実行委員

#### 【学内教育活動】

学 部：公衆衛生看護技術論Ⅰ,公衆衛生看護技術論Ⅱ,公衆衛生看護活動論Ⅱ,公衆衛生看護学演習,公衆衛生看護学実習,在宅看護論演習,在宅看護論実習,疫学,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ,総合実習

博士前期課程：地域看護学特論,地域看護学援助論Ⅰ,地域看護学援助論Ⅱ,地域看護学特別演習

博士後期課程：なし

#### 【学内委員会等の活動】

紀要委員会副委員長,実習委員会委員,国際交流委員会委員,看護研究交流センター地域社会貢献部門長

学年担任

#### 【外部資金獲得】

なし

川野 英子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(なし)

3. 著書(1件)

1) 川野英子, 他 41 名(2018.6): "病院からはじめる在宅ケア看取りケア, 第V章 2 心不全の看取りケア", メジカルフレンド社(東京)

4. 学会発表(3件)

1) 野口裕子, 川野英子, 平澤則子, 飯吉令枝(2018.7): 難病療養者の災害時個別支援計画に関する文献検討, 第23回日本難病看護学会総会(新潟)

2) 川野英子(2018.7): 神経難病の在宅療養者における終末期に出現する症状, 第23回日本難病看護学会(新潟)

3) 東條紀子, 平澤則子, 川野英子, 飯吉令枝(2018.7): 訪問看護師による高齢の療養者と主介護者への在宅移行期における支援, 第23回日本在宅ケア学会(大阪府)

5. その他の研究活動(2件)

1) 川野英子, 東條紀子: 訪問看護ステーション実習時における終末期ケアに関する学習内容の現状と実習指導上の課題, 笹川記念保健協力財団 2018 年度ホスピス緩和ケアに関する研究助成

2) 臼井孝子, 谷口美穂, 川野英子, 池田美里, 渡邊美香, 柳澤篤志, 安倍雅子, 古川祐子: 未就学児を療育する看護職のキャリアチャートの作成およびレジリエンス尺度との関連性, 平成 30 年度一般社団法人日本赤十字社看護師同方会看護研究助成

#### 【学会等における活動】

- ・日本家族看護学会
- ・日本看護管理学会
- ・日本公衆衛生学会
- ・日本在宅ケア学会
- ・日本地域看護学会
- ・日本看護科学学会
- ・日本難病看護学会
- ・第23回日本難病看護学会／企画委員

#### 【社会活動】

- ・介護支援専門員研修「専門研修課程Ⅰ」研修企画委員
- ・新潟県介護支援専門員協会「養成研修委員会」委員
- ・上越市介護保険運営協議会委員

- ・新潟県福祉保健部 平成 30 年度看護学生公衆衛生・在宅・母性看護実習指導者研修会  
講師
- ・看護職員再就職セミナー 講師
- ・国立病院機構宇都宮病院 看護研究指導 講師
- ・看護研究交流センター出前講座「訪問看護師の 1 日」講師 2018.11. 8
- ・看護研究交流センター出前講座「家族の健康を考える」講師 2018.8. 7
- ・看護研究交流センター出前講座「家族の健康を考える」講師 2018.8. 23
- ・看護研究交流センター出前講座「家族の健康を考える」講師 2018.8. 29
- ・看護研究交流センター出前講座「家族の健康を考える」講師 2018.10. 20
- ・新潟県介護支援専門員協会 「専門研修課程 I」講師
- ・新潟県福祉保健部 平成 30 年度新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会 講師
- ・看護研究交流センター出前講座「家族の健康を考える」講師 2018.11. 14

#### 【学内教育活動】

学 部：在宅看護論,在宅看護論演習,在宅看護論実習,公衆衛生看護学実習,公衆衛生看護学演習,看護研究法,総合実習,専門ゼミナール I ,専門ゼミナール II

博士前期課程：がん看護学特論 I ,老年看護学特論 III,地域看護学特論,地域看護学援助論 I ,  
地域看護学援助論 II ,地域看護学別演習

博士後期課程：地域・在宅看護学特論

#### 【学内委員会等の活動】

教務委員会委員,入試広報委員会委員,紀要委員会委員,看護研究交流センター地域社会貢献  
部門員

#### 【外部資金獲得】

なし

井上 智代

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 高林知佳子, 平澤則子, 飯吉令枝, 井上智代, 野口裕子, 久保野裕子(2019.3): 専門職における住民との協働によるパートナーシップ型地域診断実習の認識, 新潟県立看護大学紀要, 8, pp9 - 16(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(6件)

- 1) 井上智代, 高林知佳子, 駒形三和子(2018.7): パーキンソン病による嚥下障害におけるリハビリテーションについての文献検討, 第23回日本難病看護学会学術集会(上越市)
- 2) 井上智代, 渡辺修一郎(2018.10): 農村のソーシャル・キャピタルと65歳以上高齢者の健康診査との関連, 第77回日本公衆衛生学会総会(福島市)
- 3) 渡辺修一郎, 井上智代(2018.10): 70歳以上高齢者のBody Mass Indexおよび喫煙状況と各種自覚症状との関連, 第77回日本公衆衛生学会総会(福島市)
- 4) 飯吉令枝, 井上智代, 井比祐未(2018.10): 住民代表者と専門職からみたA豪雪地域に暮らす高齢者の栄養・食生活行動の現状, 第77回日本公衆衛生学会総会(福島市)
- 5) 井比祐未, 井上智代, 飯吉令枝(2018.10): 豪雪地域の食生活におけるソーシャル・キャピタルの現状, 第77回日本公衆衛生学会総会(福島市)
- 6) 高林知佳子, 平澤則子, 飯吉令枝, 井上智代, 野口裕子, 久保野裕子(2018.10): 住民との協働によるパートナーシップ型地域診断実習が地域に与える影響, 第77回日本公衆衛生学会総会(福島市)

5. その他の研究活動(1件)

- 1) 井上智代, 高林知佳子, 平澤則子, 飯吉令枝, 野口裕子, 久保野裕子: 住民との協働によるパートナーシップ型地域診断実習が地域に与える影響ー2年間の継続介入の影響分析ー, 2018年度 新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・日本公衆衛生学会 会員
- ・日本農村医学会 会員
- ・日本保健福祉学会 会員
- ・日本老年社会科学会 会員
- ・日本健康学会 会員
- ・日本看護科学学会 会員
- ・日本在宅ケア学会 会員
- ・日本地域看護学会 会員

- ・日本看護研究学会 会員
- ・日本母性衛生学会 会員
- ・日本応用老年学会 会員
- ・日本難病看護学会 会員
- ・第23回日本難病看護学会学術集会

#### 【社会活動】

- ・上越市食育推進会議 委員
- ・新潟県看護協会 在宅看護研修会 「地域ケアシステム」講師
- ・新潟県立新井高校 出前模擬授業
- ・社会福祉法人大石福祉会 外部委員
- ・桜美林大学老年学総合研究所プロジェクト客員研究員
- ・日本曹達株式会社二本木工場 研究指導
- ・JA新潟厚生連中央看護専門学校 研究指導
- ・新潟県立看護大学（地域看護学）通信第1号：妙高市上町地区
- ・新潟県立看護大学（地域看護学）通信第1号：妙高市猪野山地区

#### 【学内教育活動】

学 部：公衆衛生看護学演習,公衆衛生看護学実習,在宅看護論実習,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ,総合実習,対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ,公衆衛生看護技術論Ⅰ,公衆衛生看護技術論Ⅱ,対象別公衆衛生看護活動論Ⅲ

博士前期課程：老年看護学特論Ⅲ,地域看護学特論,地域看護学援助論Ⅱ

博士後期課程：なし

#### 【学内委員会等の活動】

国家試験就職委員会委員

保健指導員

#### 【外部資金獲得】

1) 飯吉令枝(研究代表者)

井上智代(2018～2020)：豪雪地域高齢者の運転免許返納後の健康・生活行動の維持とその要因に関する縦断的研究，科学研究費助成事業(基盤研究C)

野口 裕子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 高林知佳子、平澤則子、飯吉令枝、井上智代、野口裕子、久保野裕子(2019.3)：専門職における住民との協働によるパートナーシップ型地域診断実習の認識,新潟県立看護大学紀要, 8,pp9 - 16(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(3件)

- 1) 野口裕子、川野英子、平澤則子、飯吉令枝(2018.7)：難病療養者の災害時個別支援計画に関する文献検討, 第23回日本難病看護学会学術集会(新潟県上越市)
- 2) 山田正実、高島葉子、河原畑尚美、大口洋子、野口裕子(2018.8)：既存インフラである大学サーバーを活用した学生の安否連絡訓練の評価, 第20回日本災害看護学会学術集会(兵庫県神戸市)
- 3) 高林知佳子、平澤則子、飯吉令枝、井上智代、野口裕子、久保野裕子(2018.10)：住民とのパートナーシップ型地域診断実習が地域に与える影響, 第77回日本公衆衛生学会総会(福島県郡山市)

5. その他の研究活動(3件)

- 1) 大久保明子、室亜衣、野口裕子：学童期・思春期にある医療的ケアを必要とする児を養育する母親の体験と支援ニーズに関する研究, 2018年度新潟県立看護大学学内協同研究助成
- 2) 井上智代、高林知佳子、平澤則子、飯吉令枝、野口裕子、久保野裕子：住民との協働によるパートナーシップ型地域診断実習が地域に与える影響－2年間の継続介入の影響分析－, 2018年度新潟県立看護大学学内協同研究助成
- 3) 藤井和子、笠原芳隆、八島猛、池田吉史、佐藤ゆかり、留目宏美、平澤則子、野口裕子、永井弘子、岩脇勉、今井賢一、引場陽子、横田恵、高地朋美：特別な教育的ニーズのある子どもの学びと生活を支える多職種協働による個別の教育支援計画作成・支援会議のあり方の検討－地域の大学との連携による事例検討会の実践を通して－, 平成30年度上越教育大学研究プロジェクト

【学会等における活動】

- ・日本公衆衛生学会
- ・日本災害看護学会
- ・日本地域看護学会
- ・日本子ども虐待防止学会
- ・日本難病看護学会

- ・日本看護科学学会
- ・第23回日本難病看護学会学術集会 企画委員

#### 【社会活動】

- ・新潟県看護協会 助産師職能研修会（新潟東支部・新潟西支部・佐渡支部）講師
- ・新潟県立十日町高等学校 大学講義体験 講師
- ・第23回日本難病看護学会 一般演題査読

#### 【学内教育活動】

学 部：公衆衛生看護技術論Ⅰ,公衆衛生看護技術論Ⅱ,対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ,対象別公衆衛生看護活動論Ⅲ,公衆衛生看護学演習,公衆衛生看護学実習,在宅看護論演習,在宅看護論実習,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

#### 【学内委員会等の活動】

災害時看護支援特別委員会委員,図書委員会委員

学年担任,研究推進委員会主催 第3回研修会「論文査読と論文修正」講師

#### 【外部資金獲得】

なし.

久保野 裕子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 高林知佳子, 平澤則子, 飯吉令枝, 井上智代, 野口裕子, 久保野裕子(2019.3): 専門職における住民との協働によるパートナーシップ型地域診断実習の認識, 新潟県立看護大学紀要, 8, pp9 - 16(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1件)

- 1) 高林知佳子, 平澤則子, 飯吉令枝, 井上智代, 野口裕子, 久保野裕子(2018.10): 住民との協働によるパートナーシップ型地域診断実習が地域に与える影響ー専門職の総合実習に対する認識を通してー, 第77回日本公衆衛生学会(福島)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本産業衛生学会
- ・日本公衆衛生学会
- ・日本産業衛生学会北陸甲信越地方会 会員
- ・新潟県産業看護部会 会員
- ・第23回日本難病看護学会学術集会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部: 在宅看護論演習, 在宅看護論実習, 公衆衛生看護学演習, 公衆衛生看護学実習, 在宅看護論実習

博士前期課程: なし

博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

衛生委員会委員, 看護研究交流センター地域社会貢献部門員

【外部資金獲得】

- 1) 春山早苗(研究代表者)

田村須賀子, 小谷和彦, 由田克士, 中田由夫, 浅田義和, 廣江貴則, 江角伸吾, 大神あゆみ, 田中

和美,鈴木達也,横山絢香(2018～2020)：循環器疾患・糖尿病等生活習慣病を予防するための情報通信技術を活用した保健指導プログラム及びその実践のための手引きの作成と検証，厚生労働科学研究費助成（循環器・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）

小泉 美佐子

1. 原著論文(1件)

- 1) 大口洋子、原等子、小泉美佐子(2019.3): 豪雪地帯に暮らす後期高齢者のストレスの検討, 日本ルーラルナーシング学会誌, 14, pp1 - 13(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1件)

- 1) 大倉由貴, 原等子, 河原畑尚美, 小泉美佐子, 小野幸子(2018.6): 認知症高齢者の心理的ニーズに関する検討—認知症対応型共同生活介護における3事例の分析から—  
日本老年看護学会第23回学術集会(福岡県)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・日本看護研究学会 評議員
- ・日本老年看護学会 評議員
- ・日本認知症ケア学会 代議員
- ・日本看護科学会
- ・日本創傷・オストミー・失禁管理学会
- ・日本老年泌尿器科学会
- ・日本保健医療福祉関係教育学会
- ・日本高齢者虐待防止学会
- ・日本老年社会科学学会 査読員
- ・日本ルーラルナーシング学会
- ・△□学会 査読委員
- ・○○○○学会
- ・日本老年看護学会 第15回学術集会

【社会活動】

- ・上越市総合計画審議会 委員
- ・一般社団法人上越環境科学センター 評議員
- ・国民文化祭 PR サポーターズ&インタビュー・コラム「ナイチンゲールの言葉」

【学内教育活動】

学 部：老年看護学Ⅱ

博士前期課程：老年看護学持論Ⅰ, 老年看護学持論Ⅱ

博士後期課程：老年看護学持論,看護学特別研究

**【学内委員会等の活動】**

副委員長,委員,相談員,看護研究交流センター地域社会貢献部門員  
保健指導員

**【外部資金獲得】**

なし

# 各種委員会等の 活動報告

## 活動報告掲載順

ハラスメント防止特別委員会	103
自己点検・評価特別委員会	104
情報ネットワーク特別委員会	105
国際交流委員会	106
災害時看護支援特別委員会	108
倫理委員会	109
教務委員会	111
実習委員会	114
学生委員会	117
研究推進委員会	118
FD委員会	120
国家試験対策・就職委員会	122
入試・広報委員会	123
図書委員会	125
紀要委員会	127
教学小委員会	128
入学小委員会	131

## 平成 30 年度 ハラスメント防止特別委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎長谷川雅美、○水沢泰正、平澤則子、田口玲子、小林綾子、谷内田潤子

相談員：酒井禎子、北村千章、中澤紀代子、野澤祥子

事務局：大國祐子

### 2. 活動概要

- (1) 新入の学部生・大学院生に対し、大学におけるハラスメント防止と相談対応についてガイダンスを実施し、チラシを配布して周知を図った。  
また、新入教職員に対しても大学におけるハラスメント防止と相談対応についてガイダンスを実施した。
- (2) ハラスメント防止の啓発に向けて、名刺サイズのカードを作成し、学部生の男女更衣室、院生室、教員談話室に設置した。
- (3) ハラスメント相談のしやすい環境を整えるため、今年度から上越教育大学の教員に学外相談員を委嘱した。

### 3. 次年度に向けた課題

- (1) ここ数年来、ハラスメント防止に関する学内研修会を開催していないので、開催について検討する。また、ハラスメントと関連する学外研修会等があれば本委員会委員等の教職員を参加させ、教授会で伝達講習等を行う。
- (2) 委員会にあげるまでに至らないが、学生からハラスメント相談員への相談事例はある。秘密性は保ちながら、相談は何時でも対応する体制をとっており、引き続きの課題としたい。

## 平成 30 年度 自己点検・評価委特別委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎長谷川雅美、○水沢泰正、平澤則子、舟島なをみ、水口陽子、境原三津夫  
橋本明弘  
事務局：大國祐子

### 2. 活動概要

#### (1) 教員評価の実施（平成 29 年度業績に対する評価）

今年度は、本格実施 3 年目となり、前年度の教員活動業績の自己申告シートを今年度の当初に提出して貰っていたことから、集計作業を早く行うことができた。そのため、7 月の教授会において、集計結果を報告するとともに、学長表彰者の氏名公表も行い、9 月には、学長表彰者へ各 5 万円ずつ個人研究費の追加配分を行うことができた。

#### (2) 平成 29 年度自己点検評価報告書の編集

全根戸の専任教員の活動業績及び各種委員会の活動報告を今年度の当初に提出して貰い、5 月末には、本学リポジトリに登録することができた。

#### (3) 教員評価にかかる新たな入力フォームの作成（平成 30 年度業績の入力用）

教員評価にかかる自己申告シート（Excel 形式）の入力と、リポジトリに登録する教員活動業績シート（Word 形式）の作成を行うことが、教員にとって負担感の大きい作業であった。

そのため、データを入力すると教員評価用の自己申告シートとリポジトリに登録する教員活動業績シートが自動的に作成される、教育研究活動業績入力フォームを作成した。

各教員から平成 30 年度業績を入力して貰い、年度末までに入力・提出して貰う予定である。

### 3. 次年度に向けた課題

#### (1) 教員評価

平成 30 年度教員業績の評価・結果分析を行うとともに、平成 31 年度以降の教員評価の仕方や評価項目、評価基準の見直し等を行い、入力フォームに反映させる。

#### (2) 平成 30 年度自己点検評価

平成 30 年度の各教員の著書・研究論文数や学会発表数を集計し、法人の中期計画・評価の実績値として計上するとともに、次期中期計画・評価の指標となる著書・研究論文数や学会発表数について検討する。

## 平成 30 年度 情報ネットワーク特別委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎橋本明浩、○永吉雅人、境原三津夫、藤田尚、水沢泰正、佐藤一敏、大國祐子  
事務局：本山宏一

### 2. 活動概要

- (1) 第 2 期中期目標の検討を行った。
- (2) 情報管理・倫理要綱の改正を行った。
- (3) 情報科学教室の SPSS Statistics のアップグレードを行った。
- (4) SINET 先端ネットワーク関連の研修等へ参加することとした。
- (5) 情報セキュリティに係る次のポリシー等を新たに策定した。
  - ・情報セキュリティポリシー
  - ・ソーシャルメディア利用に関するガイドライン
  - ・パスワードポリシー

### 3. 次年度に向けた課題

情報環境が著しく変化し、迅速かつ安全なセキュリティ対策が必要とされる事案が発生している。このため、円滑かつ安全な情報環境の維持が図れる体制維持・整備が引き続き大きな課題である。また、今後「ユーザーアカウント管理マニュアル」を策定し、アカウント管理を行っていく必要がある。

## 情報ネットワーク特別委員会 実行部会

### 1. 委員構成

部会長 永吉雅人 副部会長 橋本明浩 委員 藤田尚、佐藤一敏、本山宏一、岡本剛、宮崎達也  
事務局 杉田康裕

### 2. 活動概要

- (1) 自習室の情報機器の監視管理のための見回りを行っている。
- (2) プリンター出力超過管理として毎月のプリンター出力を確認し、超過の学生に関して指導を行っている。
- (3) 盗難防止システム確認  
盗難防止装置としての装置の稼働確認を行い、物品の保全につとめている。
- (4) その他

## 1. 委員会構成

委員：◎渡辺弘之、○西田絵美、高林知佳子、エルダトン サイモン、樺澤三奈子、谷内田潤子  
事務局：金津和利、関口詩織

## 2. 活動概要

### (1) ニュージーランド研修プログラム報告会の実施

平成 30 年 3 月に行われたニュージーランド研修報告会が 4 月に学内で実施された。学生（報告者含む）30 人、教職員計 18 人、合計 48 人の参加者があり、活発な質疑応答がなされた。

### (2) 本学卒業生による講演会の実施

平成 30 年 4 月に本学の前身である短期大学卒業生による講演会「海外で働く先輩に聞くーミャンマーの農村部で生きるお母さんと助産師たちー」が開かれた。学生 15 人、教員 12 人、職員 2 人の合計 29 人参加した。講演会終了後に参加学生から活発な質問がなされた。

### (3) 新潟県国際交流連絡会議への参加

平成 30 年 4 月に上越市で開催された新潟県国際交流連絡会議に委員長が出席し、新潟県内の国際交流についての意見交換および情報の共有を行った。

### (4) 国際看護演習の学生選抜から単位認定までの整備

国際看護演習の学生選抜と成績評価、単位認定までの流れについての整備を行った。

### (5) 海外研修時の緊急対応システムの整備

ニュージーランドやベトナムなどに研修で出かけた際、現地でのトラブルを想定した緊急対応システムの素案づくりを行った。

### (6) 本学の英文パンフレットの作成

長い間更新されていなかった本学の英語版パンフレットの内容について全面的な見直しと更新を行い、あらたな英語版パンフレットの作成を行った。

### (7) オープンキャンパスでの海外研修体験紹介

平成 30 年 8 月のオープンキャンパスにてニュージーランド研修に参加した学生からの体験報告がなされた。

### (8) ニュージーランドの交流提携校からの担当者による講演会の実施

平成 30 年 10 月に、本学と交流協定を締結しているニュージーランドのクライストチャーチ工科大学の国際交流センターからティム・ハヤシ氏が来校し、ニュージーランドにおけるワーク・ライフ・バランスについての講演会を開催した。

(9) エジプト看護管理者研修の受け入れ

平成 31 年 3 月にエジプト看護管理者の研修を受け入れ協力をを行い、本委員会が中心となり本学や近隣医療施設の紹介、案内のほか、県内の老人保健施設や子育て支援施設などへの案内を行い、本邦の医療福祉制度についての理解を深める機会を提供した。

3. 次年度に向けた課題

今年度、ベトナムでの看護研修が予定されていたが、諸事情により中止となった。また、同時期に予定されていたベトナムの医療技術短大との MOU についても保留扱いとなった。このため、参加を希望していた学生に対し説明会を開催し、謝罪するとともに、保護者に対しても謝罪の文書を送付した。これまで海外での研修については委員会内ばかりでなく学内からも引率教員を募ってきたが、なかなか協力が得られない状況があり、今年度も改善されなかった。今後海外での研修についてはさまざまな教員が担当できるようにプログラムを見直し、新たな交流提携先の開拓も視野に入れた取り組みが必要である。

## 1. 委員会構成

委員：◎山田正実、○河原畑尚美、飯吉令枝、川島良子、野口裕子、大口洋子  
事務局：本山宏一、杉田康裕

## 2. 活動概要

### (1) 学生および学内教職員への研修活動

#### ①学生（学部、院）を対象とした研修・訓練

新入生ガイダンスでは、防災のための日頃の備え、災害発生時の行動および大学への連絡方法を周知した。防災啓発活動として、非常持ち出しグッズの展示を実施した。

安否報告訓練では、学部生と院生を対象に「電子メールを使った安否連絡訓練」を4月～6月に実施した。院生の数名を除き、安否報告を確認した。加えて、9月から導入された「安否情報システム ANPIC」を使い、11月と2月に安否報告訓練を実施した。ANPIC への未登録者や安否未報告者への対応は、図書学生係と連携し、個別にサポートした。学部1～3年生対象の2月訓練では、登録は100%、安否報告は1週間後で90%であった。

#### ②教職員を対象とした研修・訓練

新任教職員を対象に、避難所開設支援初動対応マニュアルの周知と理解を目的に「避難所開設支援初動対応シミュレーション研修会」を2回実施し、18名の参加があった。

「安否情報システム ANPIC」を使い、学生と同日に計2回の安否報告訓練を実施した。2月訓練では、登録は100%、安否報告は1週間後で98.9%であった。

### (2) 他団体との連携事業

①新潟県大学災害支援連携協議会：第28回会議（8/1：新潟医療福祉大学）に参加した。

②上越災害医療コーディネーターチーム：通信訓練（11/16）に参加した。

③避難所開設支援関連：「避難所開設支援初動対応マニュアル第3版」を4月に全教職員に配布した。上越市の避難所開設・運営にかかる「事前打合せ（5/16）」に参加した。

④新潟県看護協会の災害支援メールシステム運用テストに参加した（8月）。

### (3) 災害時支援の必要物品の管理、啓発活動等

委員会管理の物品点検・確認を行い、支援時物品の補充と充実を図った。災害掲示板前には、災害時の学内外者の速やかな誘導および避難所開設の支援が行えるように、必要物品を設置した。

### (4) 実習期間中の学生の安否確認・報告に関する検討

学長の指示により各領域代表からなるワーキンググループが組織され、3回の会議と各領域での検討を経て、「臨地実習の概要」に、学生と教員の災害時の安否報告方法が記載された。緊急時や災害発生に備え、実習中の学生および教員の配置表を教務係で保管管理することになった。

## 3. 次年度に向けた課題

ANPIC の機能を活用した安否報告等の訓練の実施、基準化された実習中の学生の安否確認・報告方法の検証のための訓練、災害支援のための準備、防災啓発活動等を行っていく。

## 平成 30 年度 倫理委員会活動報告

### 1. 委員会構成

学内委員は平成 29 年度の 6 名から平成 30 年度 5 名の 1 名減での構成であった。

委員：◎小野幸子、○酒井禎子、岡村典子、飯吉令枝、藤田尚

学外委員：村中智彦、小林優子、関谷伸一

事務局：佐藤一敏、関口詩織

### 2. 活動概要

#### (1) 倫理審査とその結果について

倫理審査委員会は、研究計画書の申請がなかった 6・12 月および夏季休暇期間の 8 月を除いて毎月開催し、総計 9 回実施した。

倫理審査申請書（研究計画書）の審査は、基本方針である「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（平成 26 年文部科学省・厚生労働省告示第 3 号）を遵守するとともに、本学の倫理委員会規程の研究倫理規程に則って行った。

審査件数は、総計 20 件（新規申請 18 件、変更申請 2 件）であり、3 月末時点の承認件数は 18 件、条件付き承認 2 件であった。

なお、審査委員数が 30 年度において、1 名減になったことから、委員がやむなく欠席する場合は、審査委員会の開催を遅滞なく進める（学外の審査員への期日変更による負担、申請者の審査の遅延などを回避する）ために、事前に配布された申請計画書を精読して審査会までに審査結果を文書（メモでも OK）で、事務局に提出し、欠席の代替とした。

#### (2) 申請された研究に関する審査結果の公表について

平成 29 年度の決定に基づき、上記(1)の審査件数と審査結果を教授会で、公表（報告）した。

#### (3) 教員・院生対象の研究倫理に関する研修会について

平成 30 年 11 月 13 日、新潟大学医学部保健学科兼保健学研究科の宮坂道夫教授（本学大学院前期課程における「看護倫理特論」の非常勤講師）を招聘し、本学の倫理審査会を通じて、必ずしも明確でない案件を提示した内容への回答も踏まえて、「研究倫理～看護研究に求められる倫理的配慮」をテーマに研修会を開催した。

また、当日研修会に参加できなかった教員、大学院生を対象に宮坂講師の了解の下に研修内容を保存した DVD による視聴を通じて受講の代替とし、3 回にわたって追加研修した。その結果、教員は全員受講した。未受講者は、①博士前期課程の院生の長期欠席者 1 名と、②博士後期課程の院生 3 名であったが、①については、次年度に、②については、いずれも大学組織に所属している院生であることから、所属大学で行われる倫理研修の受講でも代替可能であることを確認した。また、その点について 2019 年度の大学院学生便覧に記載し、周知徹底を図ることとした。

#### (4) 倫理委員会メンバーの FD の開催

昨年に引き続き、東京大学医科学研究所 生命倫理研究分野のメンバーによって開発・配信された「倫理審査の質向上を目的とした倫理審査委員向け教材の開発」の動画活用による研修会を倫理委員会開催時の平成 30 年 6 月「インフォームド・コンセントに関する審査のポイント①②」と、平成 31 年 2 月「インフォームド・コンセントに関する審査のポイント③④」）研修会を実

施した。

また、この動画による研修会で得られた「倫理審査の観点（科学的合理性と倫理的視点）に基づくチェックポイント」を明記した「倫理審査チェックシート」を教授会で提示して、その内容を確認・周知した。

(5) 平成 31 年度大学院看護学研究科の便覧について

研究計画書の審査、倫理審査、論文作成に至るまでの流れに関する要領について、とりわけ倫理研修受講の必要性を含めて倫理審査に関する内容を現行に即した形で文言の修正した（倫理委員会所掌事項以外のものは教学委員会で修正）。

(6) 予算の執行状況について

平成 30 年度予算額の 50,400 円のうち、倫理研修会開催（11 月 13 日）に伴う費用（講師謝金+講師旅費：18,950 円）の支出で、31,450 円の残となったが、今後の必要な執行予定もないことから、大学に返納することとした。

### 3. 次年度に向けた課題

- (1) 本学研究倫理規程に基づくとともに改正された個人情報保護の観点から修正した申請書のひな型（教員用はUドライブ、院生用はVドライブに明示）の活用状況を確認しつつ審査を継続し、改善の必要な点について、さらに検討する。特に、「倫理審査申請書」をフルに活用し、計画書は添付する本来の在り方を踏襲することについて、継続検討し、教授会などで周知徹底を図る。
- (2) 研究倫理に関する感受性を維持・向上し、倫理的規定に基づく研究を実施できるよう委員会主催の研修会の開催を継続する。また、倫理委員会教員のFDも東京大学医科学研究所より配信される動画活用による研修会を継続する。
- (3) 審査結果の報告書は、引き続き遅滞なく可能な限り早期に作成して学長に提出し、申請者に報告できるよう努力する。
- (4) 倫理委員会メンバーの欠席に伴い、規定により倫理審査会開催が困難になり、開催日の延期・変更に伴う審査員への負担、申請者の審査結果報告の遅延などを回避するための方策について、学長・副学長に相談する。

## 1. 委員会構成

委員：◎高柳智子、○水口陽子、石田和子、中村義実、大久保明子、河原畑尚美、飯吉令枝  
田口玲子、渡辺弘之、川野英子、岡村典子、阿部正子  
事務局：大國裕子、山崎潤一

## 2. 活動概要

### (1) シラバスに関する事項

シラバス記入要領の「評価方法、評価基準」におけるあいまいな表記や評価基準は、昨年度までの学内外の教員への周知徹底の結果、ほぼみられなくなった。科目担当教員として助手も含めて名前を記載すること、科目担当責任者に◎をつけることについては、やや不徹底な科目もあり、担当者で対処した。今後の課題として、学生の学習にシラバスをさらに有効活用させ、学習効果を向上させるための取り組みが必要である。

### (2) 時間割に関する事項

新カリキュラムへの移行期（四年目）であり、看護師課程、看護師・保健師課程、看護師・助産師課程を選択する学生があり、時間割表の枠組みを、必要な学年は課程別に表示できるよう変更した。上越教育大学の時間割の改組の年であったが非常勤講師の先生方の協力もあり大きな問題は起こらなかった。ただし、非常勤科目の担当者が遅い時期に決まった科目もあり、調整に努力を要した。学内教員の科目は変更希望もあったが、それに伴う変更を承諾していただいた科目もあり先生方に協力していただいて今年度は組むことができた。今後希望が多くなると、特に時間割の空きコマが少ない学年は、調整が難しいことが考えられる。また、シラバスの授業回数以上の時間割を組んでいる科目がチェックされ調整したが、今後も調整を続けていく必要がある。

### (3) 専門ゼミナールの実施に関する事項

#### ①看護研究フィールド調整

実習 4 病院については、「看護研究のフィールドについての実習病院側の意向とフィールド依頼をする際の留意点」について全指導教員に周知を図った。希望とりまとめは特に困難なく、施設側との調整についても担当教員と連携しつつ、円滑に進められた。実習 4 病院以外の施設等を使用する学生や学生を対象とした研究についても調整に困難を来たしたケースはなかった。今年度の学生の研究課題、研究フィールドとして実習病院を希望する学生が 21 名、その他のフィールドが 39 名、文献研究が 27 名、学生対象が 4 名であり、昨年同様の割合で実習病院を希望する学生が少なかったことも影響している可能性もある。

今後も学生の希望に応じて、実習病院側の意向の確認をしつつ、調整を図る必要があることが再認識された。

#### ②専門ゼミナール希望調査と振り分け

1 月 7 日に専門ゼミナール希望調査についてオリエンテーションを行った。昨年と同様にテーマに優先順位をつけ「第 1 希望」「第 2 希望」とし、振り分ける教員側が記述内容からその学生の配置領域を判断するのではなく、学生自らが書いた「希望する領域」を最大限尊重した。今年度は共通基礎系の教員への希望が少なく、看護系の領域のうち、基礎看護学、成人看護学、地域看護学で定数より 1 名ずつ多くとってもらったこととなった。また第 2 希望までで定員を満たない領域もあり、

キーワードをみて学生を呼びだし、2名の学生が第1、2希望以外の領域に変更することとなった。今年度は昨年と比べて締め切りを1週間早くしたため調整を行う時間はあったが、第2希望までに偏りが生じたため、最終的に教員当たりの定数に差が生じてしまった。オリエンテーションでの各領域の説明や、希望の取り方（第2希望まででいいか、「希望する領域」を優先させるか等）について今後検討していく必要があると思われる。

#### (4) 看護研究発表会に関する事項

8月下旬から準備を開始し、運営要領に従って計画的に進めた。看護研究発表会は、12月18日に行われ、4年生90名のうち88名が看護研究発表会に出席した。学生が看護研究発表会を欠席することに関して、担当教員や教務委員の担当者が把握できず、混乱が生じた。学生には、論文提出と発表を含めて評価する旨を周知すること、また、学生の準備状況を確認していくことが課題として挙げられた。当日の参加人数は、領域別実習中のために参加できない3年生もいたが、学外者20名を含む253名であった。昨年度の反省から、今年度は各発表会場の室温調節や換気を行ったところ、体調不良を訴える学生はいなかった。ポスター印刷に関して、一部トラブルがあり、事務局で対応していただいたが、学生が説明した手順通りに印刷していなかった可能性があり、次年度は説明を徹底する必要がある。また、今年はポスター掲示用のテープを購入して使用した。手剥がれにくく、貼付や取り外しが容易でよかった。新カリキュラムの導入に伴い、次年度の看護研究発表会の方法について教務委員会で検討した結果、例年通りの方法で、看護研究発表会を行うことが決定した。それに伴い次年度も実習のために看護研究発表会に参加できない3年生がいることを考慮し、次年度も引き続き、2年生への参加を促していく必要があると思われる。

#### (5) 教務ガイダンス・成績確認・実習先行要件の確認・各教育課程履修学生の確認

学年別に半期ごとに教務ガイダンスを行い、その学年での履修科目の特徴や学習上の留意点など学年に応じた学習指導を行った。特に、オフィスアワーやシラバスの有効活用について強く推奨した。また、1～2年生については、ディプロマポリシーの学年別到達目標の自己評価調査を行い、各学年における到達目標の意識づけを図った。前期および後期の成績確認を行い、教授会に諮った。さらに、2年次以降の看護学実習における先行要件となる科目の履修状況の確認を行い、教員及び学生に周知した。また、半期ごとのGPAが2.0未満の学生について、クラス担任に学習支援を依頼した。それ以外にも必要時、クラス担任や学生委員会と連携を図り、指導を行った。2年次基礎看護学実習Ⅱ以降の看護学実習の履修先行要件となる単位取得状況を正・副委員長で確認し、担当教員に周知するとともに学生にも掲示にて周知した。また、看護師課程、看護師・保健師課程、看護師・助産師課程の履修者名簿および卒業要件を確認し、教授会で報告するとともに学生にも掲示にて周知した。辞退期限までの辞退学生は1名おり、看護師・保健師課程から看護師課程に変更となった。

#### (6) 学年歴作成

学生委員会、入試広報委員会、実習委員会等に各所掌事項の日程を確認するとともに、前期・後期の授業コマ数を確保できるよう配慮し、平成31年度学年歴を作成した。

#### (7) 看護学教育モデルコアカリキュラムの本学対応科目の確認

学長からの委託事項として、平成28年度入学生から開始した新カリキュラムでの対応科目を各科目群に調査し、集約した。その結果、看護学教育モデルコアカリキュラムの学修内容は本学カリキュラムでほぼ網羅していることを確認し、教授会で報告した。集約結果は組織的な教育活動に活用できるよう、一覧表にして教員に配布した。

#### (8) 非常勤講師の採用・ゲストスピーカー申請の確認

新規の非常勤講師について審議を行い、その結果を教育研究審議会に報告した。非常勤講師とは辞令交付を利用し、学生の学習状況について情報交換を行うとともに、看護学教育モデルコアカリキュラムの該当学習目標を説明し教育目標の共有に努めた。また、非常勤講師が試験監督を行えない場合は、教務委員と事務局が担当した。今年度より教務委員が担当できない場合は、他の教員にも協力を要請することとなったが、実際は教務委員と事務局で全て対応できた。ゲストスピーカーの申請においても、規程に見合った申請内容であるかを確認・検討し、その結果を教育研究審議会に報告した。

### 3. 次年度に向けた課題

#### (1) 学長からの委託事項：成績評価の疑義照会および異議申し立てに関する検討

平成31年1月に学長より検討依頼があった。今年度末で委員会改組となることから、翌々年度からの実施を目指して次年度委員会で検討してもらうこととした。

#### (2) 新カリキュラム評価

平成28年度入学生から開始された新カリキュラムについて、次年度で新カリー一期生が4年生となることから、今までのプロセス評価に加え総括評価を行う時期にきている。今年度、看護学教育モデルコアカリキュラムの学修内容は本学カリキュラムでほぼ網羅していることを確認できているが、専門支持科目の学習順序性について非常勤講師からも意見が複数寄せられている状況であり、継続的に検討していく必要がある。

#### (3) 時間割作成

新カリキュラムでは特に履修科目が多い1・2年次時間割において、各教員との調整が必要であり、担当委員の負担は大きい。そのため、担当委員がなかなか決まらない事態が毎年生じている。事務局にも入力ミス等のチェック機能を担っていただき、今まで担当していない委員を中心に選出してきたが、作成方法や体制について検討する時期に来ていると思われる。

#### (4) 高等教育無償化制度に向けた機関要件の準備

2020年度からの開始に向けて申請の具体的内容が明らかになり次第、シラバスに関する事項については事務局と協力して準備を進めていく必要がある。

## 平成 30 年度実習委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎石田和子、○岡村典子、中島道子、原等子、高林知佳子、後田穰、北村千章  
中澤紀代子、石岡幸恵  
事務局：佐藤一敏、山崎潤一

### 2. 臨床実習施設の選定、交渉及び調整に関する事項

#### (1) 実習懇談会（担当：中島、岡村、石岡）

平成 30 年 5 月 30 日（水）15:00～17:00、実習施設 18 施設 64 名、大学 43 名、計 107 名の出席により実施した。第 1 部として臨床講師への委嘱状交付後、改正カリキュラムについての説明、今年度の実習計画の説明を行った後、領域別看護学実習懇談を行った。懇談会の内容の整理等を行い、予定通り実施することができた。準備では当日差し替えあったことなどの資料内容確認等の課題はあるが、実習委員、委員外の先生方の協力を得て円滑に進めることができた。

#### (2) 実習指導者研修会（担当：中島、岡村、石岡）

平成 30 年 5 月 30 日（水）17:30～18:50 に「実習指導者としてのキャリア発達-指導上の問題とその克服を通して-」として、舟島教授よりご講演いただいた。実習施設 11 施設 66 名の参加があった。アンケートからは、非常によく実践に活用できるとの意見が多く、次年度も指導者研修会内容について、より臨床指導者の希望に即したものを実施していくことを確認した。今回、懇談会后に実施したが、スケジュール上の課題もあり検討が必要であるとの意見があった。

#### (3) 領域別実習配置表（担当：原、北村）

平成 30 年度の 3 年次看護学実習配置は、3 月中に概ね決定 4 月中に調整し、履修申請のあった 97 名（新カリキュラムに伴い在宅看護論実習のみ履修者 1 名、再履修実習科目のある者 1 名を含む）の学生配置を行った。5 月の実習懇談会で完成した配置表を配布し、懇談会終了後に学生にも掲示した。新カリキュラムによる領域別実習の実施初年度で、7 月より実習を開始した。

7 月の実習履修後休学をした学生が 1 名、11 月以降実習ローテーション途中で休学した学生が 2 名おり、領域ごとに実習病棟との調整を行い実施した。

看護専門学校と実習病院との実習調整会議に委員長・副委員長が 11 月に参加し、31 年度の実習施設の調整を行った。

#### (4) 総合実習（担当：高林、後田、中澤）

昨年度と同様に総合実習は完全パッケージ化にて実施した。パッケージ化も 4 年目を迎え各領域の運営に関しては安定化したと考える。しかし学生の希望が精神看護学と在宅看護に集中したために配置が困難となり、第 3 希望へ配置する学生もいた。また 2019 年度総合実習にむけた総合実習オリエンテーションは、2 月 14 日(木)に実施し、希望調査票を 2 月 22 日(金)まで切とし、コース決定の掲示は 3 月 4 日に発表した。

### 3. 臨床実習の実施方法に関する事項

#### (1) 実習オリエンテーション（担当：原、北村）

3 年次の新カリキュラム初年度であり、7 月 16 日からの実習約 1 カ月前として、実習配置

表は6月1日に学生へ掲示し、平成30年6月13日(水)10:30～12:00に、3年次領域別実習オリエンテーションを実施した。情報倫理を含む実習の概要や領域別のオリエンテーションの他、看護技術到達度リストの使用方法についても説明を行った。

その他、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱオリエンテーション時に、情報倫理に関する説明を委員が実施した。

#### (2) 技術到達度リスト (担当：原、高林、石岡)

実習前の段階で3年生のリスト紛失が目立ち、領域別実習オリエンテーション時に実習資料に関する管理の徹底を周知した。1年次のふれあい実習オリエンテーション時に配布し、委員が活用方法と管理について説明した。基礎実習時には実習委員と基礎看護学教員と連携して説明を行い、記載を促した。領域別実習オリエンテーション時には、担当者が改めて管理法について説明を行った。総合実習終了後に、全学生のリストを回収し、昨年度(2017)と今年度(2018)の4年生実習終了時の到達度の比較を行った。その結果、昨年度に比べ目標の到達度に達しなかった割合が増加した項目は、178項目中20項目であった。回収した技術到達度リストの返却は、11月20日(火)Ⅲ限国家試験記入確認会時に時間をいただき行い、今後の技術到達度リスト活用方法について伝えた。

### 4. 臨床実習要項に関する事項

#### (1) 実習要項 (担当：石田、中澤)

次年度5月29日に開催される実習懇談会に合わせ、基礎看護学、成人看護学、母性看護学、小児看護学、老年看護学、精神看護学、在宅看護論の実習要項を各300部作成した。臨地実習の概要は2019年度入学生用として、「気象警報発令等の休講」と「実習期間中の災害発生時の安否確認報告」の項目を追加して300部作成した。

### 5. その他

#### (1) 継燈式 (担当：岡村、北村、中澤)

平成30年7月7日(土)13:00～14:10、新潟県立看護大学第1・2ホールにおいて平成30年度継燈式を実施した。2年次生95名が中心になって挙行し、保護者175名(概数)、来賓・教職員24名が出席した。土曜日開催となって二年目だが、保護者の参加者数が、昨年度よりさらに増加しており、平日よりは出席しやすいことが伺えた。現在、次年度開催に向けて1年生の実行委員13名が準備を進めている。

#### (2) ユニフォーム (担当：高林、北村)

昨年度の見積合わせの結果、今年度から2年間は(株)ことりやに依頼することとなり、6月8日(金)13～17時に採寸を実施した。採寸日に合わせカーディガン、ナースシューズの注文も行った。学生への販売は9月27日(木)12時～12時40分に行った。2020年度からは、新たに見積合わせで決定した業者に依頼することになるため、2019年度中に複数の業者に見積依頼を出し、一番安い業者を決定していく予定である。

#### (3) 実習物品購入 (担当：後田)

今年度は10万円の実習用物品購入費が配分された。委員会で優先購入の決まった感染症対応のためのディスポエプロンとアイガードを購入し、残りの金額を8病院1部門で分けた。主な物品はハンドソープ、ペーパータオル、サージカルマスク、ゴミ袋であった。

## 6. 次年度への課題

- (1) 新カリキュラムの実習が開始となり実習における問題点を明確にする。
- (2) 新カリキュラムが開始となり、実習と実習の間隔がほとんどない状態である。実習時間（8時30分から16時まで）を延長しないなど確認したが、今後の状況を把握する。
- (3) 実習懇談会・実習指導者研修会における開催時間などスケジュール上の問題があり検討が必要である。
- (4) 実習施設の調整が難しくなり、看護学校との調整により検討を続けていく。

## 平成 30 年度 学生委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎酒井禎子、○永吉雅人、山田正実、河原畑尚美、エルダトン サイモン、小林綾子、石原千晶、大口洋子  
事務局：亀井宣幸、岡田優佳

### 2. 活動概要

#### (1) 学生自治会活動支援（担当：山田、小林、酒井）

4/21（土）球技大会、6/6（水）自治会総会、11/4（日）桜蓮祭を実施した。「地域とともに踏み出す一歩」をテーマとし、来場者は約 550 名であった。全国公立大学学生大会（10/6-8：静岡市）に学生 3 名が参加した。高等教育コンソーシアムにいがた看護系大学タスクフォースの当番校として、「リレー・フォー・ライフ・ジャパン」（9/22：新潟市）参加と公開講座「看護って何だろう？～私がこの道を選んだ理由～」(3/3：上越市)を行った。

#### (2) 学生との意見交換会（担当：河原畑、永吉、小林）

2019 年 1/10（木）16:10～17:40 に開催、学生 28 名、教職員 28 名が出席した。大学への要望や学年別の課題、オフィスアワーの活用などについて話し合い、議事のまとめを教職員に配布、学生には掲示した。

#### (3) 学生生活実態調査（担当：永吉、河原畑、小林）

10 月に調査を行い、集計結果を学内 HP に掲載するとともに、ポスター掲示や教授会での資料配布により学生の生活指導・学習環境改善の資料として活用した。

#### (4) 学生の地域交流支援（担当：エルダトン、石原、大口）

7/25（水）「高田祇園まつり民謡流し」に学生・教職員 75 名が参加した。

#### (5) 学生のボランティア活動支援（担当：エルダトン、石原、大口）

37 件のボランティア募集があり、掲示で周知した。学外活動届より把握した学生参加のボランティア活動は 38 件、参加学生数は延べ 178 名(3 月 31 日現在)であった。

#### (6) 新入生オリエンテーション（担当：山田、エルダトン、大口）

4/13（金）～14（土）に学内・黒姫ライジングサンホテルで実施した。新入生 95 名、上級生 11 名（2 日目のみ）、教職員 17 名が参加した。

#### (7) 教育環境の向上他（担当：酒井、河原畑、石原）

オフィスアワー活用促進に向け「研究室訪問 week」を 7 月と 1～2 月に実施した。1～2 月は、教務委員会と共同開催として実施した。

#### (8) その他

- ・計 209 名の学生が奨学金を利用。成績不良者に対して担任より個別指導を行った。
- ・学生相談関係者会議を 2 回開催した。また、情報倫理ガイダンスの検討会議を行った。
- ・成績優秀賞 2 名の他、優秀課外活動賞として「認知症オレンジサークル」の推薦を行った。

### 3. 次年度に向けた課題

オフィスアワー企画「研究室訪問 week」の効果的な実施、学生相談・支援体制の充実、他大学の学生との交流を含む自治会活動支援、情報倫理ガイダンスの見直しが課題である。

## 平成 30 年度 研究推進委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎舟島なをみ、○阿部正子、大久保明子、西田絵美、徐淑子

事務局：河野真実

### 2. 活動概要

#### (1) コンサルテーションシステム（Research Proposal Consultation 以下 R.P.C.）の構築、試行について

- ・本年度より科学研究費の採択率向上に向け、研究計画書の質向上を目的として R.P.C.を構築し、試行を開始した。本年度については、7名の教員をコンサルタントとして選任し、3名の教員の利用があった。
- ・外部講師を招聘し、コンサルテーターの役割を担う7名の教員を対象とした研修会を実施した。
- ・コンサルタント及び利用者へアンケート調査を実施し、次年度以降の運用の参考とした。

#### (2) 科研費申請に関する説明会の開催について

2018年9月25日(火)に平成30年度科研費申請学内説明会を開催し、科学研究費の制度や制度の変更点に関する情報提供や科研費電子申請システムによる平成31年度応募書類の学内送信スケジュールについて事務局杉田主任よりご説明いただいた。

#### (3) 研修会の開催について

- ・2018年5月8日(火)に研究推進委員会主催で研修会「優れた研究計画の作成-科研費の採択申請書と不採択申請書の比較-」を開催し、25名の教職員の参加があった。講師については、本学の酒井禎子先生及び野澤祥子先生へ依頼し、研究計画書作成上のポイントについてご説明いただき、研修会の後半には参加者による意見交換を行った。
- ・2019年3月7日(木)に研究推進委員会主催で研修会「論文査読と論文修正 著者の修正意欲を喚起する査読のあり方」を開催し、35名の教職員・大学院生の参加があった。講師については、本学の舟島なをみ先生及び野口裕子先生へ依頼し、論文を査読する側、査読を受ける側のそれぞれの立場からご自身の経験を織り交ぜながらご説明いただいた。

#### (4) 学内共同研究助成について

##### ①学内共同研究助成募集について

前年度に引き続き、学内共同研究助成に関する募集を行い、8件の応募があった。委員会にて審査を行い、委員会意見として学長へ報告し、6件に研究助成を行うことを決定した。

##### ②平成29年度採択 学内共同研究助成成果報告について

- ・2018年11月21日(水)に平成29年度に採択された5件の学内共同研究に係る研究成果報告会を開催した。
- ・報告形式については、前年度同様、ポスターセッションによる報告会とし約40名の教職員の参加があり、活発なディスカッションが展開された。
- ・研究成果報告書については、別に様式を定め、2019年3月22日(金)までに全ての研究代表者

からの提出が確認された。

(5) 科学研究費の新規申請件数及び採択件数について

区 分	H30 申請件数	H30 採択件数	H31 申請件数
基盤研究 (S)	0	0	0
基盤研究 (A)	0	0	0
基盤研究 (B)	2	0	2
基盤研究 (C)	24	5	17
挑戦的研究	4	2	3
若手研究	6	2	7
合 計	36	9	29

(6) 予算執行の状況について

・平成 30 年度予算

研究推進委員会運営費 50,400 円

・平成 30 年度予算執行額

①R P C 活動経費 28,293 円

②図書購入経費 19,921 円

## 1. 委員会構成

委員：◎平澤則子、○小林綾子、高柳智子、原等子、樺澤三奈子、徐淑子  
事務局：宮崎達也

## 2. 活動概要

### (1) 教員の教育評価及び教育能力の開発に関する事項

#### ①学生による授業評価アンケート調査（担当：平澤、宮崎）

授業評価アンケートの OCR 化（担当：小林）

授業評価アンケートの実施率は、前期は 100%、後期は 1 科目未実施であった。集計結果は、本学ホームページ「学内専用」に以下の構成で公開した。

ア. 授業評価アンケート実施科目（教員数・科目数・履修者数・回答者数）

イ. 全体集計結果（調査項目 13 項目の平均） 前期・後期ともに 4.6 であった。

実習用授業評価アンケートを作成した。次年度から運用していく。

\*実習終了後、学生配布時に実習用であることを説明する。ふれあい実習では、いくつかの項目で読み替えが必要であり、配布時にその説明を行う。読み替えについては、徐委員が次年度委員会に提案する予定。コーディネーターの永吉准教授には経緯を説明済み。

#### ②アクティブラーニング研修会（担当：高柳、徐）

「看護学教育における授業評価」（講師：舟島なをみ先生）を開催した。

参加者は 34 名（教員 32 名、大学院生 1 名、事務職員 1 名）であり、すべての参加者が有意義だったと回答していた。また「教育活動に活かせるか」という問いには、全員が活かせると回答しており、授業評価の理解が深まったことが確認された。

#### ③新任教員研修会（担当：平澤、原）

初任者研修には 7 名（教員 4 名、事務職員 3 名）の参加があり、「長さが丁度よく初任者が他の教員や職員と顔合わせができて良かった」「教員ハンドブックの見直しのきっかけになった」という感想があった。座席の配置や時間の長さについて検討の余地があることが分かった。また、教育活動のあり方や、教育の目標を共有するために FD 委員会の活動として実施してきたが、事務的な内容も多く含まれていたことから、今後は SD 研修として実施されることとなった。

#### ④FD 通信の発行（樺澤、小林、平澤）

非常勤講師を含む科目担当者を対象に、「学生による授業アンケート」結果活用調査を実施し、その結果は FD 通信（第 2 号）を発行して教職員、学生に配布、機関リポジトリ・学内ホームページに公開した。

### (2) 教育方法の開発に関する事項

特になし

### (3) カリキュラム開発への協力に関する事項

特になし

### (4) その他学長から付託を受けた事項

特になし

### 3. 次年度の課題

法人中期計画において、教育活動の評価「卒業生の就職先と情報交換を行い、学内で情報共有を行う」の担当部署について検討し、これはFDの枠を超えた事項であるとして法人ワーキングに報告した。

学生の授業満足は高く、教員の授業方法の改善や指導能力の更なる向上を目的とした組織的な研修等を継続する。以下の取組を検討する。

- ①授業評価アンケート項目の見直しを行うとともに、「授業評価アンケート結果の活用方法」調査結果及び学生による授業評価の高い授業方法を分析し、優れた点を抽出して教員へ紹介する。
- ②授業方法、授業内容・展開に関する研修会を開催するとともに、授業検討会や教員相互の授業参観、教員相互の授業評価などの取組について検討する。

## 1. 委員会構成

委員：◎田口玲子、○酒井禎子、原等子、井上智代、後田穰、北村千章、中澤紀代子、石原千晶、石岡幸恵、山岸美奈子

事務局：岡田優佳

## 2. 活動概要

### (1) 国家試験対策の企画および実施について

#### ①国家試験対策講義

看護師・保健師国家試験の受験対応として、7月～11月にかけて国家試験対策講義を20回実施した。昨年度の学生へのアンケート結果を踏まえ、昨年同様の科目構成で実施した。学生からの反応は好評だった。助産師に対しては学生の学習状況をみて個別に指導した。学生への国家試験対策指導の充実のための教員セミナーを、今年も実施した。

#### ②国家試験模擬試験のサポート

業者模試および委員会作成（各1回）で看護師は8回、保健師は4回、助産師は5回の模試を実施した。結果をふまえ、ゼミ担当教員および国家試験対策委員会で継続的にフォローした。また、気がかりな学生については特に、注意深くフォローした。

#### ③国家試験激励会および国家試験受験状況及び結果

		受験者数	合格者数	合格率	全国合格率 (新卒のみ)	全国合格率 (既卒含む)
看	新卒	90名	89名	98.9%	94.7%	89.3%
保	新卒	90名	79名	87.8%	88.1%	81.8%
助	新卒	4名	4名	100%	99.9%	99.6%

### (2) 進路指導について

学生がキャリア形成の意義を理解し自らの進路が決定できるように、進路ガイダンスを4回実施した。低学年向けには将来のキャリアと学修コース選択の準備を（7月）、2年次には「適切な職場探しのコツ」を説明、外部の就職説明会などの情報提供も行った。3年次には「就職活動の基礎知識」として具体的な助言を（1月）、4年次には卒業直前に、看護師・助産師・保健師として働く卒業生からの助言をいただいた（3月）。

今年度は県内就職率が減少し51.8%（昨年度：71.7%）、新潟県出身者の県内就職率は67.2%（昨年度：84.4%）であった。

### (3) 求人訪問対応と進路情報の提供

38件の求人訪問に対する対応を行った（前年度より1件増）。就職情報コーナー、Vドライブの求人施設情報などにおける情報提供を周知した。

### (4) 進路状況調査

進路ガイダンス、国家試験手続き、ゼミを通じて学生に周知した。

## 3. 次年度に向けた課題

- (1) 国家試験対策のボトムアップ、気がかりな学生への対応方法につき引き続き検討する。
- (2) 学生への進路ガイダンスの周知と参加の促し。学生の準備状況による実施時期の再考。

平成 30 年度 入試・広報委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎中村 義実、○大久保 明子、○山田 正実、川野 英子、西田 絵美、  
後田 穰、エルダトン サイモン、高塚 麻由、川島 良子、石岡 幸恵  
事務局：岡本 剛、杉田 康裕、星野 史

2. 活動概要

(1) 入試実施本部会議に関する事項

①平成 31 年度入学者選抜試験の実施

推薦・社会人入学試験（11/18）、一般入学試験〔前期日程（2/25）、後期日程（3/12）〕を実施した。総計 101 名が選抜され、97 名が入学手続きを行った。推薦入試の志願倍率は 2.11 倍(実質倍率 2.06 倍)、一般入試の志願倍率は 4.05 倍(実質倍率 2.34 倍)だった。前年度との対比を含めた詳細は下表参照。

推薦入試、及び一般入試従事者のための学内説明会（10/31、2/13）、入試実施本部会議における合否判定（2/28、3/19）、合格発表(11/30、3/5、3/21)を実施した。

科目等履修生入学試験、聴講生選考の概要の提案を行った。

H31(上段) H30(下段)	募集人員 (人)	志願者数 (人)	志願倍率 (人)	受験者数 (人)	受験率 (%)	受験倍率 (倍)	合格者数 (人)	実質倍率 (倍)
推薦入試	35	74	2.11	74	100	2.11	36	2.06
	35	51	1.45	51	100	1.45	35	1.46
社会人入試	若干名	2		2	100		2	
	若干名	3		3	100		0	
一般入試(前)	50	99	1.98	95	96.0	1.90	53 (辞 4)	1.79
	50	94	1.88	89	94.7	1.78	55 (辞 7)	1.61
一般入試(後)	10	144	14.4	53	36.8	5.30	10 (辞 0)	5.30
	10	102	10.2	25	24.5	2.50	15 (辞 2)	1.67
一般入試(計)	60	243	4.05	148	60.9	2.47	63 (辞 4)	2.35
	60	196	3.26	114	58.2	1.90	70 (辞 9)	1.63

(2) 大学入試センター試験の実施に関する事項

大学入試センター試験（1/19、1/20）を実施した。2 回の大学入試センター試験入試担当者連絡協議会(8/24、12/3)に参加し、試験従事者説明会およびリスニング説明会(12/26)を実施した。

大学入学共通テスト・プレテスト（11/10）を実施した。

(3) 入試問題の作成、管理、実施に関する事項

「入学者選抜におけるミス防止マニュアル」を作成し、入学者選抜試験におけるミス防止の徹底を図った。類型毎のミス防止のガイドライン、チェックリスト、ミス発生時の対応フローを策定し、

ミス防止に万全を期した。

大学入試センター試験に関しては、問題の受け取り、仕分け、保管などを厳正な管理のもとに行い、全ての業務に関して厳正かつ適正に行った。

いずれの試験においても、大きなトラブルが発生することなく無事に終了した。

#### (4) 学生募集に関する事項

##### ①学校説明会、出前講義、学内見学について

年度を通して、学校説明会 43 回（うち県外 18、資料参加のみ 28 回）、出前講義 9 回、学内見学説明会受入れ 10 回、オープンキャンパス 2 回（8/6、8/20）を行った。

オープンキャンパスの参加者合計は 599 名（うち保護者 196 名）だった。アンケート調査を学年別に分析した結果、高校 3 年生の 6 割が本学を第一志望としていることが分かった。

出前講義について、大学ホームページを通して申し込みを行うシステム導入に向けて準備を整えた。来年度 4 月より 36 講義のリストが公開され、新システムが動き出す予定である。

##### ②高校訪問について

高校訪問を実施した。実施マニュアルを作成し、対象校（上越地区の高校、過去 5 年間に入学人数 3 人以上の高校、医療専攻のある高校等）を定めた。年度を通して、38 校、延べ 41 校を訪問し、本学 PR、ならびに高大連携の強化を図った。

##### ③広報誌の作成

大学案内(キャンパスガイド)を作成し 7 月に発行した。広報誌(ポルティコの広場)2 号分（第 33 号/7 月、第 34 号/1 月）を発行した。

##### ④大学のホームページに関する事項

入試関連の情報を随時更新するなど、大学ホームページの管理及び運営を行った。

##### ⑤予算

入試・広報委員会予算より、大学入試センターとの連絡用 PC、入試関連事務用品の購入等、100,638 円を執行した。

#### 3. 次年度に向けた課題

18 歳人口減によるいわゆる「2018 年問題」、および、近隣看護大学・学部の新設ラッシュが脅威になる年度であったが、2 年続いた志願者数、志願倍率の低下に歯止めがかかった。いわゆる「隔年現象」の影響も無視できないため、次年度も油断することなく入念な広報活動を積み重ねていく必要がある。本学 PR の質を高め、機会を増やすとともに、出前講義や高校訪問を通して、高校との連携、関係性を深めていく努力が求められる。

#### 4. その他

特になし

## 1. 委員会構成

委員：◎橋本明浩、舟島なをみ、○藤田尚、小池潤、後田穰、野口裕子  
事務局：亀井宣幸、大滝いずみ（司書・8月まで）、飯田孝枝（10月から）

## 2. 活動概要

### (1) 管理運営

- ①図書館費 13,885 千円
- ②入館者数、貸出冊数、文献依頼件数などの利用統計を月別にまとめ分析した。
- ③各種協議会・研修会等への参加
  - ・公立大学協会図書館協議会総会（橋本図書館長、亀井係長）
  - ・新潟県大学図書館協議会総会（亀井係長、大滝司書）
  - ・公立大学協会図書館協議会関東・甲信越地区館会議（本学開催：8/24）
- ④上越教育大学附属図書館と共同で蔵書交換展示会を実施した。  
期間：第1回 12月3日～1月18日  
交換展示図書は 100 冊。

### ⑤蔵書点検

図書館 2月19日～2月27日、研究室 1月7日～31日に実施した。

### ⑥書架増設（予定）

### (2) 図書館のちからプロジェクト

図書館の利用促進を図るプロジェクトとして以下の活動を行った。

#### ①新入生図書紹介（4月24日）

1回実施し、5名の参加があった。

#### ②ブックハンティング（11月28日）

学部生8名が自ら書店で選書を行った。49冊全てを購入し、学生作成のPOPを付けて館内展示した。

#### ③次年度実施にむけて、「学生による本学図書館に所蔵されている書籍紹介」を計画した。

### (3) 広報活動

「新潟県立看護大学図書館 Library Newsletter」No.42を9月に発行した。大学配布先は、大学役員・県内大学図書館・病院を中心に、73箇所であった。

### (4) 図書館ホームページ

教員推薦図書「おすすめの一冊」について、学内教員に依頼して実施した。

### (5) 図書購入

#### ①教員選書図書及び推薦図書

予算 1,630,000 円で選書図書及び推薦図書を募った。結果、図書 291 冊の推薦があり、全てを購入した。

#### ②学生リクエスト図書

6名の学生より8冊のリクエストがあり、全てを購入した。

③重点収集図書

予算 200,000 円を計上し、「障害者教育に関する本」として 184 冊、「災害看護に関する本」として 10 冊の図書を購入した。

(6) 雑誌購入

購読雑誌の継続購入について審議し、継続を決定した。購読雑誌の利用状況については、通年にて調査を実施した。

(7) 蔵書の更新・除籍に関すること

①寄贈図書（2月末現在）：図書 183 冊，視聴覚 0 巻

②除籍：図書 231 冊，視聴覚 0 巻

3. 次年度に向けた課題

(1) 新規購入図書のスペースを確保するため、古い雑誌、古い図書の除籍をさらに進める。

(2) 図書館のちからプロジェクトは今後も継続する。

## 1. 委員会構成

委員：◎中島通子 ○高林知佳子、岩永喜久子、水口陽子、川野英子

事務局：亀井宣幸、飯田孝枝

## 2. 活動概要

### (1) 新潟県立看護大学紀要 第8巻発行

新潟県立看護大学紀要 第8巻発行に向け1年間の活動を執り行った。投稿状況をふまえて投稿受付期間を1か月とし、投稿事前届出書の提出期間を設け投稿状況を観た。さらに、大学院ガイダンスや、大学ホームページや学内メールでの周知にて積極的に投稿の呼びかけを行った。投稿論文数は2件(報告2論文)あり、査読者の意見をふまえ編集会議にて採否を決定した。また、昨年度までの査読者リストを作成し、平等に査読していただけるように情報を整理した。

紀要発行形態は電子ジャーナルであり、平成30年2月28日に本学リポジトリに登録した。本年度紀要委員会の予算配分のうち、紀要第8巻電子組版費用51300円、その他34476円、計85776円を執行した。

### (2) 新潟県立看護大学紀要投稿要項の見直し

今年度の編集過程において、論文種類の意見や査読者に対する修正・訂正文の作成等に対し意見をいただいた。

①新潟県立看護大学紀要規定 投稿資格について

②新潟県立看護大学紀要投稿要項 図表の記載方法について

③査読者リストの作成 著者資格の掲載について

上記を検討した。改訂については次年度の活動とする。

査読方法及び査読に対する返答・修正の方法等については、研究推進委員会主催による「論文査読に必要な態度と方法」舟島なをみ先生の研修会に参加していただくこととする。

### (3) その他 平成30年1月～12月の本学紀要第1巻から6巻のダウンロードの総計29,878件であった。

## 3. 次年度に向けた課題

大学院ガイダンスでの投稿呼びかけ、大学院生が紀要を論文作成の入口として査読やその応答など様々なジャッジを経て論文完成にたどり着くプロセスを経験することができる機会として委員会の位置づけ、価値を再認識し、経験を積んでもらうことを意図して、次年度も大学院ガイダンスでの周知を行う、また、投稿者規定を広げ、多くの方が投稿できる機会を作っていく。

## 平成 30 年度 教学委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎石田和子、○平澤典子、舟島なをみ、長谷川雅美、水口陽子、岩永喜久子、高柳智子、  
中島通子、小野幸子

事務局：大國裕子、亀井宣幸

### 2. 活動概要

#### (1) 年間活動計画について

平成 30 年度大学院の教務運営に関して研究科委員会と連動した年間活動計画を立て活動した。  
平成 30 年度の教学委員会内の役割分担を検討し、以下のとおり決定した。

役 割	担 当
教育環境整備	舟島教授，石田委員長
論文発表会	水口教授，平澤教授
学生便覧	石田委員長，岩永教授
シラバス	高柳教授，小野教授，石田委員長
時間割	中島教授，舟島教授，石田委員長

#### (2) 時間割ワーキング

時間割については、「記入欄と文字が小さく見えづらい」「博士前期と後期課程の区別がわかりにくい」「学年別になっていないため、学生は自分の履修する科目がどの時限なのかわかりにくくて困っているようだ」という意見があった。

また、時間割作成作業において、必修科目と専門科目の振り分けや入力方法等について多くの課題があることが示された。

今年度、時間割編成の基本的な考え方や表枠・入力方法等を整理して、次年度以降事務局へ引き継げるようなシステムを検討していくことを確認し、時間割ワーキング担当（中島教授，舟島教授，石田委員長）でワーキンググループを結成し作業を行うこととした。

看護基盤分野及び共通基盤分野科目を記載した時間割Aが3月に作成された後、各領域別科目を記載した時間割Bを作成すること、学生への説明は、入学ガイダンス時に時間割Aを、領域別ガイダンス時に時間割Bを説明することとなった。

#### (3) 老年看護学 CNS コース 26 単位から 38 単位移行に伴う教育課程認定申請

一般社団法人日本看護系大学協議会が認定する老年看護専門看護師教育課程 26 単位から 38 単位移行に伴う認定申請を6月に行い、結果、申請どおり認定を受けることができた。

#### (4) 新入生及び学年ガイダンス

入学式当日、新入生博士後期課程 4 名，博士後期課程 13 名（15 名入学，2 名休学）に対してガイダンスを行った。同日、M2 生に対してもガイダンスを実施した。

M2 生に対しては論文提出および審査日程の確認について資料を用いて説明を行った。

#### (5) 大学院説明会の開催について

従来の大学院入試説明会を本年度より大学院説明会に名称変更し内容の見直しを行ったことを入学委員会委員長より説明された。入学委員会と連携し6月23日（土）16時から17時30分にど

こでもカレッジ後、9月29日(土)16時から17時30分に地域課題研究発表会の後に大学院博士前期課程および後期課程入試説明会を実施した。

(6) 大学院生向け特別セミナーの開催について

10月23日(火)13時30分から16時に特別セミナーは精神看護学領域が中心となり開催した。アメリカで心臓外科ナースプラクティショナーとして活躍されている日本人 WicsFusae 先生による特別セミナーが行われた。セミナー内容『ニューヨークにおけるナースプラクティショナーの役割』の題で講演された。参加者は大学院生の他に大学職員であり、好評であった。講師謝礼金等について、今年度は委員会経費から支出することが承認された。チラシ・ポスター等を事務局で準備することとなった。今までは、大学院特別セミナーの講師は、大学院非常勤講師に依頼してきたが、企画内容によっては、委員会等で協議の上、大学院非常勤講師以外の方に依頼することも可能であることが、確認された。

次年度の特別セミナー講師の選定は老年看護学領域が行い、講師選定後は看護管理学領域が対応することとなった。

(7) 大学院を新たに担当する教員の選考

新大学院看護学研究科修士課程を担当する専任教員の選考に関する申し合わせ資料に基づき検討した。研究補助教員3名、授業担当教員(単位認定者)3名が承認された。

なお、老年看護学 CNS コース 26 単位から 38 単位移行に伴う教育課程申請において経歴書を提出した授業担当者・分担者は日本看護系大学協議会の一括認定をもって認定されたとして学内選考は行わないこととした。

(8) 修士学位論文提出までの流れ(学生便覧に記載)の修正箇所について

修正箇所は以下の2点であり、次年度学生便覧の原稿に反映させるとともに、文言の精査も行うこととなった。

- ①学位論文の審査後に修正事項がある場合は、修正箇所に2重下線を引き、主査及び副査の教員へ提出する。
- ②提出論文には二重下線は削除し提出する。正誤表は不要。
- ③また、論文発表会後には研究終了報告書を倫理委員会へ提出する必要があることを再確認した。
- ④研究科委員会の修了判定結果については、事務局から学生へ連絡することとし、教員は学生からの問い合わせには対応しないこととなった。

(9) 平成30年度学位論文審査及び修士論文発表会開催

5名の論文提出があり(4名は研究コース、1名はCNSコース)、論文審査委員会を組織して論文審査・口頭試問を行った。結果、全員合格と認定され修了要件を確認して研究科委員会の審議を経て全員修了の運びとなった。学位論文発表会が平成30年3月1日に行われ、教員、大学院生、その他;事務局、外部看護師など多数の出席があった。

(10) 履修登録について

社会人大学院生から勤務により授業スケジュールの提出が遅れることで履修できないことがあるとのことから履修ワーキング(小野教授、舟島研究科長、石田教学委員長)で検討した。時間割を早く決定し、後期科目も遅くとも9月までには日時を確定させることが大切であることを確認した。また、履修取消について、現行の履修規程に「学長が特別の事由があると認める場合には」という文言があるため、敢えて履修規程を変更させる必要はないことを確認した。

(11) 平成 30 年度専門看護師実践活動報告会の開催

平成 30 年 9 月 29 日 12 時 30 分から 13 時 50 分（地域課題研究発表会と同時開催）に実施した。昨年度任命した 3 名（老年看護 CNS1 名，地域看護 CNS，がん看護 CNS1 名）から発表をした。参加者からは好評であった。地域課題研究発表会が口頭発表から示説発表としたことから会場準備に人手がなく苦慮した。

(12) 大学院博士前期課程、院生室および設置備品の変更について

大学院生が中心となり院生室の整備希望を事務局と確認し設備備品の購入、レイアウトの変更を行った。

(13) 教員と今年度修了生との意見懇談会について

昨年に引き続き、今年度も修了予定の大学院生、在学生と学長、研究科長、教学小委員長と意見懇談会を修士論文発表会の後に行った。大学院就学上の問題点が明確になった。問題点を次年度改善すること、次年度も修了生との意見懇談会を実施することとなった。

(14) 非常勤講師の昼食代について

共通科目の中で、非常勤講師の講義が午前から午後にかけて行われる場合は、慣例として、学生が代金を負担して弁当を準備していることについて学生に代金を負担させることの是非やその財源、対応策について検討した結果、以下のことを確認した。

- ① 本学看護学部は、後援会費を財源とし、上記の時間帯に講義を担当する非常勤講師に昼食を提供している。しかし、大学院看護学研究科には、非常勤講師に昼食を提供する財源はない。
- ② 今年度から学生が代金を払い非常勤講師に昼食を提供するという慣例は取りやめる。
- ③ 昼食が必要な時間帯に授業を担当する非常勤講師の昼食に関しては、各科目担当教員の裁量により対応する。

### 3. 次年度に向けた課題

- (1) 社会人が学習しやすい環境を整える目的で遠隔講義について検討する。
- (2) 新時間割を活用しての問題点・課題・改善点など検討する。
- (3) 大学院生研究データ保存について検討する必要がある。ワーキング（岩永教授，舟島研究科長，石田教学委員長）を立ち上げ検討する。
- (4) 特別セミナーについて輪番制で実施していくことについて検討する。
- (5) 専門看護師実践活動報告会の開催の準備などについて役割など検討する。
- (6) 専門看護師コース「老年看護 CNS」「がん看護 CNS」コースにおける大学院授業科目名の統一を図ることについて検討する。

## 1. 委員会構成

委員：◎岩永喜久子、○大久保明子、舟島なをみ、小野幸子、中村義実、樺澤三奈子、徐淑子  
事務局：大國裕子

## 2. 活動概要

### (1) 入学者の選考に関する事項

#### ①平成 31 年度大学院入学者の選抜試験の実施

大学院博士前期課程の入学者選抜試験を 8 月入試（平成 30 年 8 月 30 日）と 1 月入試（平成 31 年 1 月 29 日）として、大学院博士後期課程の入学者選抜試験を平成 31 年 1 月 29 日に実施した。最終的に、平成 31 年度大学院入学者として博士前期課程 15 名（1.27 倍）、博士後期課程 4 名（1.50 倍）が選抜された。

#### ②科目等履修生入学試験の実施

本年度より大学院博士前期課程の科目等履修生入学試験に加え、大学院博士後期課程の科目等履修生受入れについて検討し受け入れることとした。平成 31 年度大学院博士前期課程科目等履修生入学の応募者は 2 名（7 科目）、大学院博士後期課程科目等履修生応募者は 1 名（2 科目）であった。規定に基づき審査を行い全員合格となった。

### (2) 大学院（博士前期課程・後期課程）入学定員充足と周知への取り組み

#### ①大学院入試説明会の実施

大学院博士前期課程と後期課程ならびに科目履修生について入学定員充足と周知目的で大学院入試説明会を実施した。学内においては平成 30 年 6 月と平成 30 年 9 月に、学外においては本学初めて新潟市で平成 30 年 12 月に実施し合計 24 名の参加があった。

#### ②大学院の周知活動

大学院説明会以外の周知活動を次のように行った。大学院博士前期課程と後期課程のアドミッションポリシーを、大学院のホームページ、大学案内のチラシ、学生募集要項などに掲載するとともに関係団体等へ配布した。さらに、学内教員や大学院修了生、在学生からの周知をはじめとして、関係団体や看護職研修会等における説明、県内外の病院へ出向き直接説明して広く大学院入学について周知した。

#### ③大学院博士前期課程の授業体験への取り組み

大学院博士前期課程の複数の授業を体験してもらおう試みを行ったところ、県内外から 62 名の参加があった。今後、大学院の周知と受験者増を目的とし、授業体験を大学院として組織的に導入できるようホームページやチラシによる広報、受講手続きに係る資料等を検討し募集ができるようシステム化した。

#### ④周知への取り組みの結果、平成 31 年度受験者は定員を上回った。大学院博士前期課程の受験者 19 名のうち合格者 15 名、大学院博士後期課程の受験者 6 名のうち 4 名が合格し、前期課程（15 名）と後期課程（3 名）の入学定員を充足した。また、博士前期課程科目履修生 2 名と博士後期課程 1 名が合格した。

(3) 大学院研究生受け入れに係る取り組み

大学院博士前期課程と博士後期課程への研究生受け入れに関する検討を行い、規定を作成した。

(4) 大学院入試ミスの発生防止に係る取り組み

大学院入学者選抜における試験問題の出題・採点ミス防止のガイドラインを見直し検討した。新たに、大学としての入試ミスの類型毎の発生防止策や入試ミス発生時の対応フローが策定され、ミス防止を徹底して入学試験を実施したところ、特にミスは発生しなかった。

(5) 予算の執行状況について

平成 30 年度予算額 50,400 円の執行額は 0 円であった。

### 3. 次年度の課題

(1) 次年度も、引き続き大学院入学定員充足と周知への取り組みを行う。特に、新潟県内の受験者や入学者が少ないことから、県内に絞った大学院の授業体験も実施する。

(2) 科目履修制度について受講科目数の制限等を検討する。

(3) 大学院入学試験実施に係るインフルエンザ対応、試験当日の学部生の入校に係る周知について検討する。

(4) 大学院研究生受け入れの運用について検討する。

(5) 大学院学生募集要項の印刷数等について検討する。